

1 暗褐色土 (Hue10YR3/4)

御池軽石粒 (2~10mm) が混入し、粘性が強い。

2 黒色土 (Hue7.5YR3/1)

御池軽石粒 (2~3mm) が混入し非常に粘性が強い。
ごくわずかであるが、炭化物を含む。

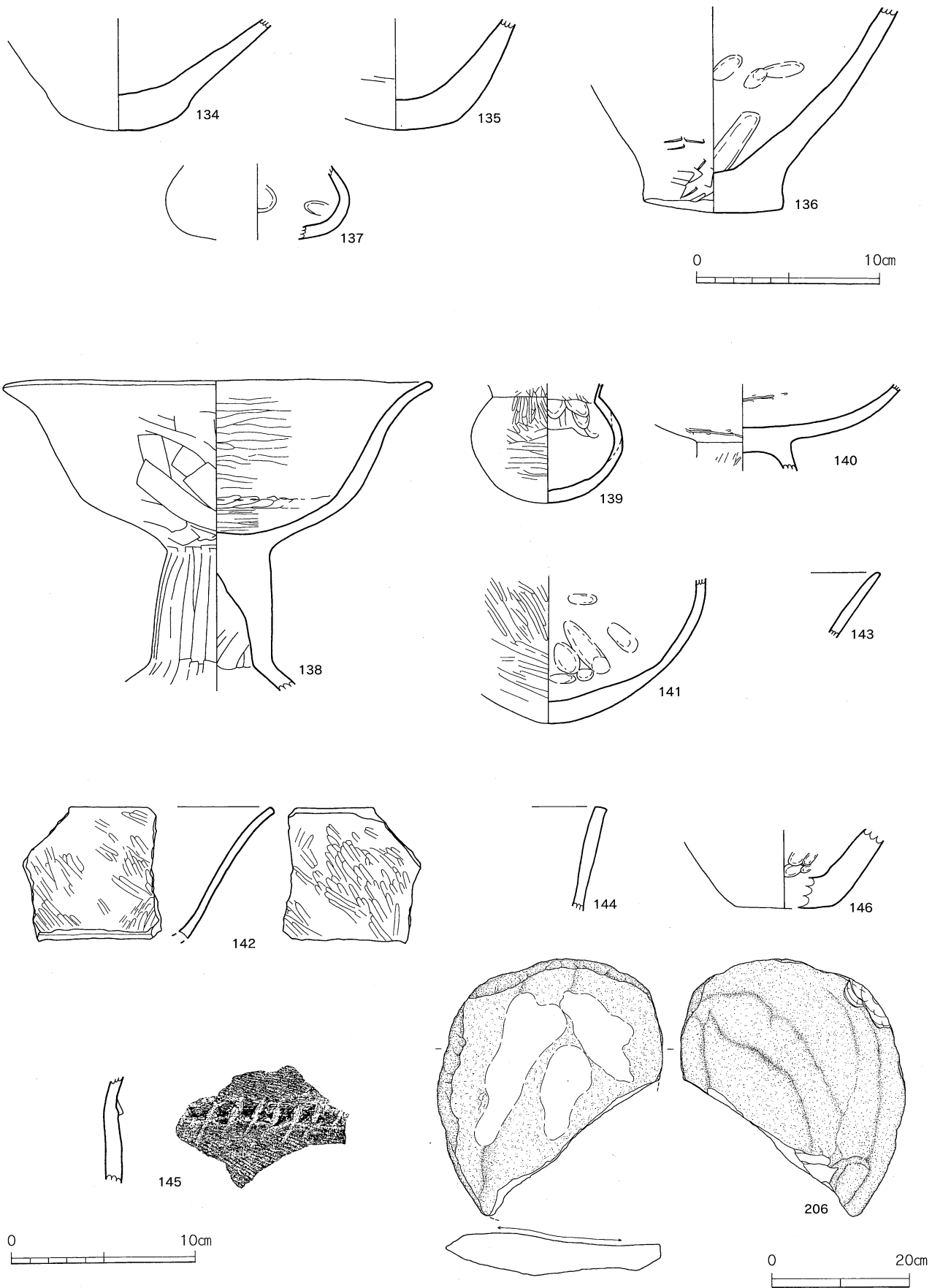
3 黒褐色土 (Hue10YR2/3)

御池軽石粒 (2~3mm) が混入し、粘性が強い。

4 黒褐色土 (Hue7.5YR2/2)

御池軽石粒 (2~3mm) が混入し、粘性が強い。
3よりやや明るい色調である。

第16図 横市中原遺跡 C区 SA2実測図 (S=1/40)



第17図 横市中原遺跡 C区 SA1・SA2出土遺物実測図
 (SA1 134~137、SA2 138~146・206) (S=1/3 206はS=1/8)

る。内面はヘラ状工具によるナデを施す。140は高坏の坏部である。内外面とも風化が著しいがミガキが施されていたと思われる。141は壺の胴部から底部である。底部は丸底であり、黒斑が見られる。外面は風化気味であるがミガキを施し、内面はナデで全体的に指押えが見られる。142は高坏の口縁部から坏部である。口縁部がわずかに外反しながら伸びている。内外面ともナデ後、斜め方向のミガキが施されている。143は高坏の口縁部である。外面には黒斑が見られる。144は甕の口縁部であり、外面はススが付着している。145は貼付刻目突帯を持つ甕の頸部である。内外面とも斜め方向のハケ目を施している。146は底部が平底の壺である。外面はヘラナデ、内面はナデを施し、指頭痕も見られる。206は大型の石皿である。中央部に凹面を持つ。擦り痕も一部に見られる。利用石材は輝石安山岩である。

中世の遺構と遺物

小溝状遺構 (第18図)

中世以降の畝跡と思われる小溝状遺構を第Ⅱ層(文明軽石層)上面で検出した。桜島文明軽石は調査区北部に分布していたが、小溝状遺構として最も残存状況がよく、明瞭なラインが確認できたのはD19・D20・E19・E20・F19グリッドにまたがる北端部であった。平面的に平行して走る桜島文明軽石が残る部分が畝の基底部で、その間の桜島文明軽石を混入する黒色土を畝間としてとらえた。畑地に降灰した桜島文明軽石を掘り下げて畝を作ったため、畝間は桜島文明軽石を混入する黒色土となったものと思われる。

小溝状遺構は後世の耕作等の影響を受けているためか部分的に不明瞭な部分もあるが、大半は東西方向に平行して走るが、わずかに南北方向に走る小溝状遺構も認められる。小溝状遺構の溝の長さは約60～600cm、溝幅は約20～40cmを測る。

小溝状遺構が連続する箇所を選んで土層断面を図化(第18図)したが、この時点でこの小溝を形成する以前の小溝が存在する可能性がでてきた。そこで小溝状遺構完掘後、トレンチを入れ、下位の畝の痕跡を探したが、遺構の構造上良好に検出することができなかった。そこで面的に小溝間を5cm削り、精査を行ったところ、桜島文明軽石を埋土とする小溝状遺構が検出された。

桜島文明軽石混黒色土埋土の小溝下位から桜島文明軽石埋土の小溝が確認されたことから、畝が桜島文明軽石で被災した後に復旧作業を行っていたものと推測される。

遺物については、土師器が数点出土したが小片のため図化はしていない。

時期不明の遺構

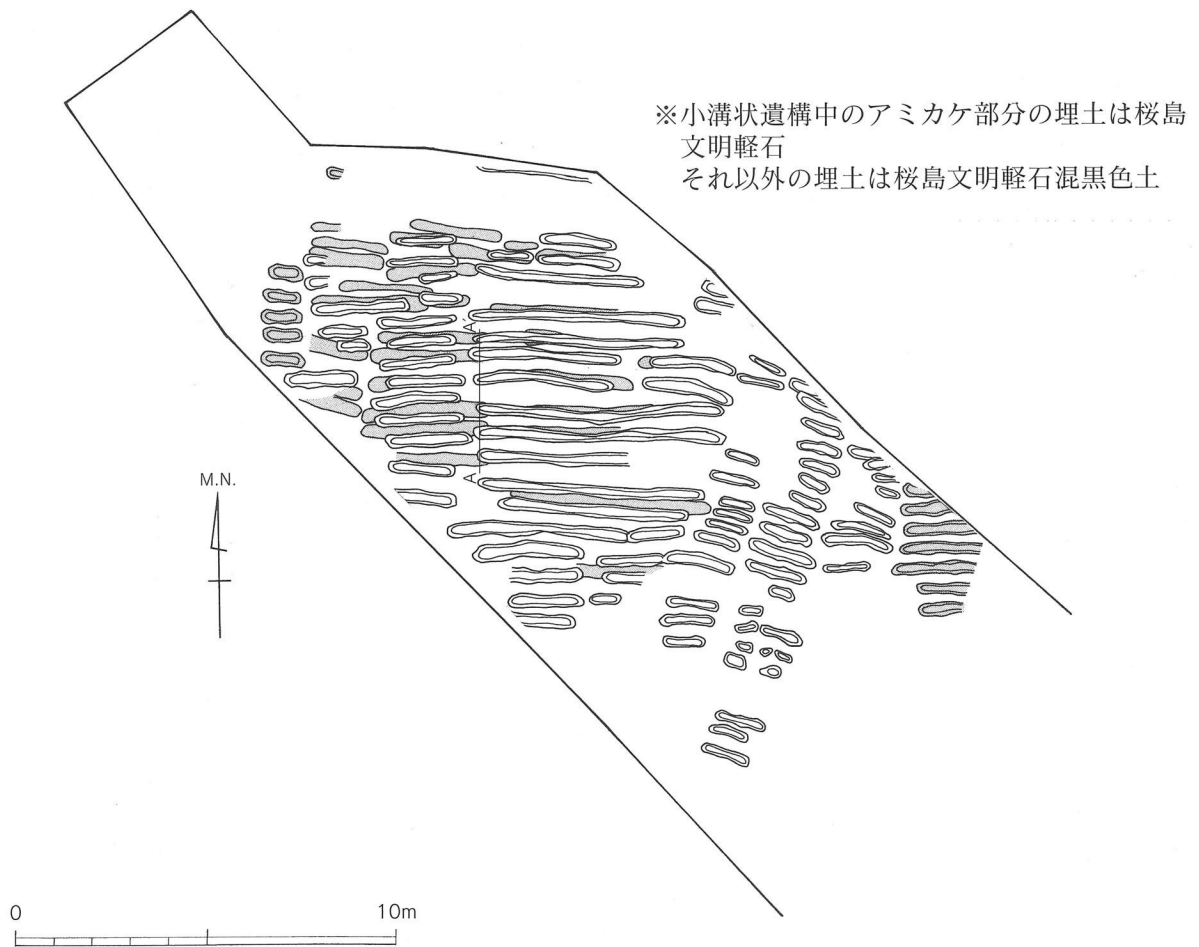
ここで記述する遺構については、遺構形態や埋土状況からみてある程度時期の推定は可能であるが、決定要因となる遺物の出土状況がないことから時期不明の遺構としている。遺構は、第Ⅶ層上面で検出した土坑6基とピット群である。

土坑

SC1 (第19図)

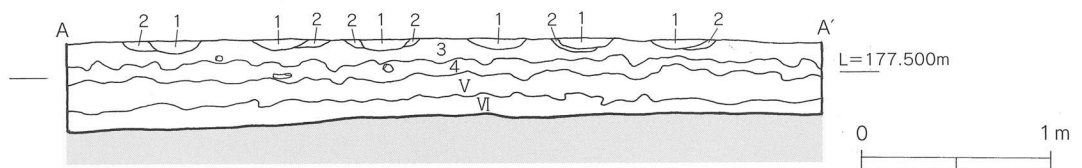
SC1は調査区の南側、I12グリッドで検出した。平面プランは長軸推定約1.76m、短軸約1.38mの不定円形を呈し、検出面から最深部までは約0.38mを測る。埋土は御池ボラ混黒色土が自然堆積している。用途については不明である。遺物は出土していない。

SC2 (第19図)



※小溝状遺構中のアミカケ部分の埋土は桜島文明軽石
 文明軽石
 それ以外の埋土は桜島文明軽石混黒色土

小溝状遺構断面図 (S = 1 / 200)



- 1 黒褐色土 (Hue7.5YR3/1)
- 2 明褐色土 (Hue7.5YR7/1)
- 3 黒褐色土 (Hue7.5YR3/1)
- 4 灰褐色土 (Hue7.5YR4/2)
- V 暗褐色土 (Hue10YR3/3)
- VI 黒色土 (Hue7.5YR2/2)

埋没した小溝を復旧した小溝の埋土。桜島文明軽石を含み、パサパサしている。
 小溝に堆積した桜島文明軽石。
 もとは基本層序第IV層。中世の耕作の影響のため、攪乱を受けていると思われる。粘性がなく、サラサラしている。わずかに御池軽石粒 (2mm以下) および桜島文明軽石を混入。
 もとは基本層序第IV層と第V層。中世の耕作の影響のため攪乱を受けていると思われる。やや粘性があり、御池軽石粒 (2mm以下) を混入。
 基本層序第V層
 基本層序第VI層

小溝状遺構断面図 (S = 1 / 40)

SC2は調査区の南部東側、I13グリッドで検出した。平面プランは長軸約1.44m、短軸推定約1.06mの楕円形を呈し、検出面から最深部までは約0.64mを測る。埋土は御池軽石混黒色土と御池軽石混黒褐色土が自然堆積している。用途については不明である。遺物は出土していない。

SC3 (第19図)

SC3は調査区南部東側、I13グリッドで検出した。SC2に一部切られている形で検出した。平面プランは長軸約0.92m、短軸約0.86mの円形を呈し、検出面から最深部までは約0.44mを測る。埋土は御池軽石混黒色土が自然堆積している。用途については不明である。遺物は出土していない。

SC4 (第19図)

SC4は調査区の南部東側、SC2の南約1.2mに隣接し、I13グリッドで検出した。平面プランは、長軸推定約1.64m、短軸約1.38mの円形を呈し、検出面から最深部までは約0.76mを測る。埋土は御池軽石混黒色土が自然堆積している。壁面をほぼ垂直に掘り込み、床面はほぼ平坦である。用途は形態から貯蔵穴の可能性もあると思われる。遺物は出土していない。

SC5 (第19図)

SC5は調査区の中央部西側、H14グリッドで検出した。平面プランは長軸約1.21m、短軸約1.01mの不整楕円形を呈し、検出面から最深部までは約0.73mを測る。北側と東側にそれぞれ1つずつピットが穿たれている。埋土は御池軽石混黒色土が自然堆積している。用途については不明である。遺物は出土していない。

SC6 (第19図)

SC6は調査区のほぼ中央部、H17グリッドで検出した。平面プランは長軸約1.39m、短軸約1.37mの不整形を呈し、検出面から最深部までは約0.77mを測る。埋土は御池軽石混黒色土が自然堆積しており、最深部付近には御池軽石が密集する部分が見られた。北側と南側にそれぞれ1つずつピットが穿たれている。用途については不明である。遺物は出土していない。

ピット群

調査区内で、A・B区同様、土坑の他に多数のピットを検出した。大きさにはかなりのばらつきがあり、掘立柱建物跡の柱穴としてまとまるものは確認できなかった。埋土の状況は自然堆積したものである。そのうち一部については、樹木の根穴の可能性も考えられる。

2 包含層出土の遺物

遺構に伴わない遺物が、御池軽石層上面の第V・VI層から多量に出土した。

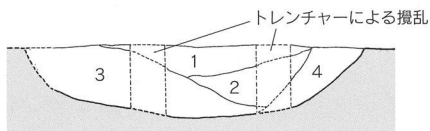
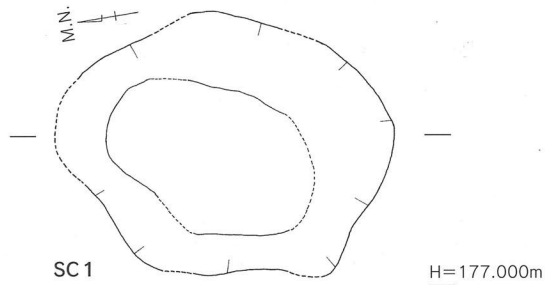
遺物は、縄文時代後期から晩期にかけての浅鉢・深鉢、弥生時代前期の壺、または古墳時代中期から後期にかけての甕・壺・高坏などの土師器が出土している。

また、石器では石鏃、石斧、石錐、磨石、敲石、スクレイパーなどが出土している。なお、個々の詳細については、後出の観察表(p111～p118)に記している。

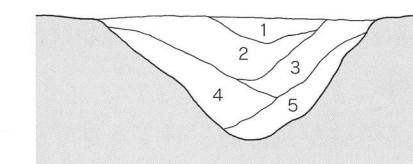
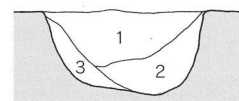
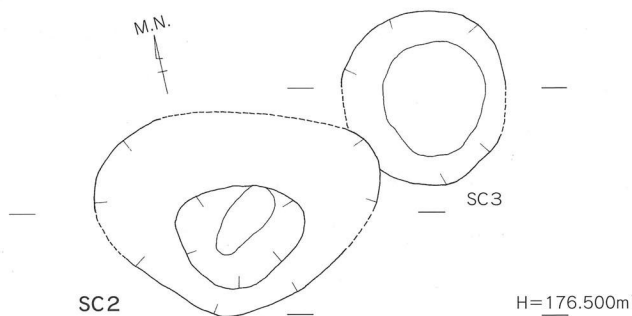
(1) 縄文土器 (第20図～第29図)

ここでは出土土器を時期や形態・文様等によってI～XIII類に分類した。I類は後期の土器で、II～XIII類は晩期の土器であると思われる。各分類ごとに説明を加えていく。

I類 (第20図 4～14)

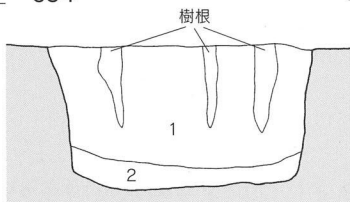
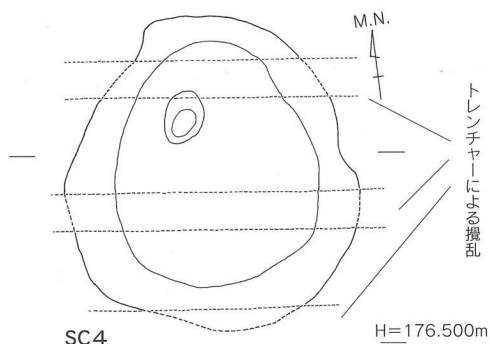


- 1 にぶい黄褐色土 (Hue10YR4/3) 御池軽石粒が混入し、やや粘性あり。
- 2 黒褐色土 (Hue10YR2/2) 御池軽石粒 (5mm以下) が多量に混入。
- 3 黒色土 (Hue10YR2/1) 御池軽石粒 (20mm前後) を散漫に混入。
- 4 黒色土 (Hue10YR2/1) 御池軽石粒 (5mm前後) をわずかに混入。炭化物をわずかに含む。

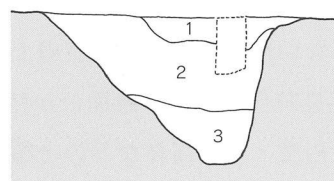
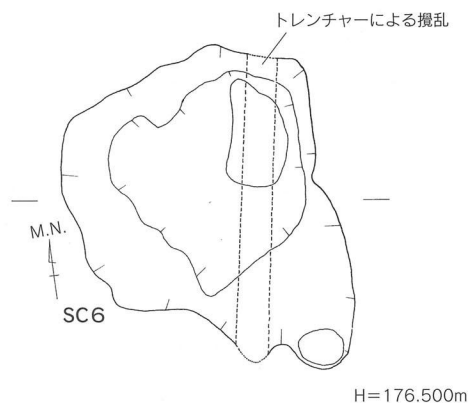


- 1 黒色土 (Hue7.5YR2/1) 御池軽石粒 (10mm以下) を少量混入。
- 2 黒色土 (Hue7.5YR2/1) 1と類似するか御池軽石粒の含有率は低い。
- 3 黒褐色土 (Hue10YR2/2) 御池軽石粒 (5mm以下) を多量に混入。炭化物も含む。
- 4 黒色土 (Hue10YR2/1) 御池軽石粒 (10~15mm) を少量程度混入。
- 5 暗褐色土 (Hue10YR3/3) 御池軽石粒を多量に混入し、砂粒混入。

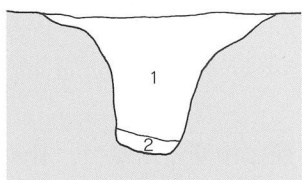
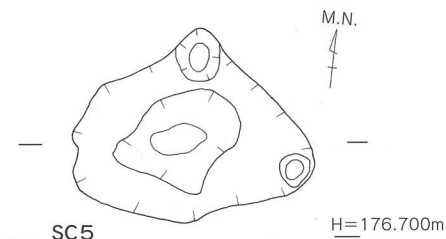
- 1 黒色土 (Hue7.5YR2/1) 御池軽石粒 (10~15mm) を特徴的に混入。
- 2 黒色土 (Hue10YR2/1) 御池軽石粒 (5mm以下) を混入。炭化物を多量に含む。
- 3 黒色土 (Hue7.5YR2/1) 御池軽石粒を多量に混入。埋土が部分的に黄色味を帯びている所がある。



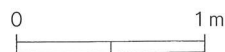
- 1 黒褐色土 (Hue7.5YR3/1) 御池軽石粒 (10mm以下) を少量程度混入。しまりが強い。
- 2 黒色土 (Hue7.5YR2/1) 御池軽石粒 (20mm以下) を少量程度混入。しまりは1より強い。



- 1 黒褐色土 (Hue10YR2/2) 御池軽石粒 (5mm以下) を混入。軟らかく粘性あり。
- 2 黒色土 (Hue10YR2/1) 御池軽石粒 (5~20mm) を多量に混入。硬くてしまりあり。やや粘性あり。
- 3 黒色土 (Hue10YR2/1) 御池軽石粒 (5mm以下) を多量に混入。やや粘性あり。硬くてしまっている。



- 1 黒色土 (Hue10YR2/1) 御池軽石粒 (3~20mm以下) を多量に混入。下部ほど硬くなっている。
- 2 黒色土 (Hue10YR2/1) 1より御池軽石粒が少ない。硬くしまっている。



第19図 横市中原遺跡 C区 SC1・2・3・4・5・6実測図 (S=1/40)

後期の土器を一括した。文様により2類に分類できる。

A 貝殻腹縁による連続刺突文を施すもの(4~9)。

4~8は波状口縁を呈し、4・7・9は内外面に貝殻条痕を施す。また、9は貝殻腹縁による連続刺突文を3列施している。

B その他の土器を一括した(10~14)。

1 斜め方向の3条の沈線文の上に縦方向に連続する刺突文を施す深鉢の口縁部付近と考えられ内面に横方向の貝殻条痕を施すもの(10)。

2 頸部に連続する横方向の刺突文を施す深鉢である。刺突文の下には横方向の沈線文も施される(11)。

3 口縁部が内傾した浅鉢である。口縁部には2条の沈線を施すもの(12)。

4 小型深鉢の口縁部で平行凹線文を2条巡らすもの(13)。

5 無文の浅鉢と思われる口縁部(14)。

II類(第20図 15~23)

口縁部に突帯が巡る深鉢を一括した。突帯の種類により2類に分類できる。

A 内傾した口縁端部と屈曲部に刻目突帯を巡らせるもの(15~19・21)。

18・19は小破片であるが、同類と考えられる。21は口縁部の突帯が貼付されないか、もしくは剥離したものと考えられ、屈曲部の突帯にのみ4cm間隔程度のごく浅い刺突(刻み)が見られる。

B 無刻目突帯を巡らせるもの(20・22~23)。

23は突帯下部に孔列文が見られる。

III類(第20図 24)

24は補修孔(焼成後、穿孔)をもつ無文土器。

IV類(第20図~第21図 25~34)

口縁部を肥厚させた口縁帯を有する深鉢形土器(25~34)。

A 口縁帯下部付近に未貫通の孔列をもつ孔列文土器(25~29)。

B 肥厚した口縁帯をもつ土器(30~34)。

32と34は器形や口径、器面調整、胎土、ススの状況等、類似点が多く、同一個体の可能性がある。

V類(第21図~第22図 35~40)

精製浅鉢を一括した。

A 黒色磨研土器(35~39)。

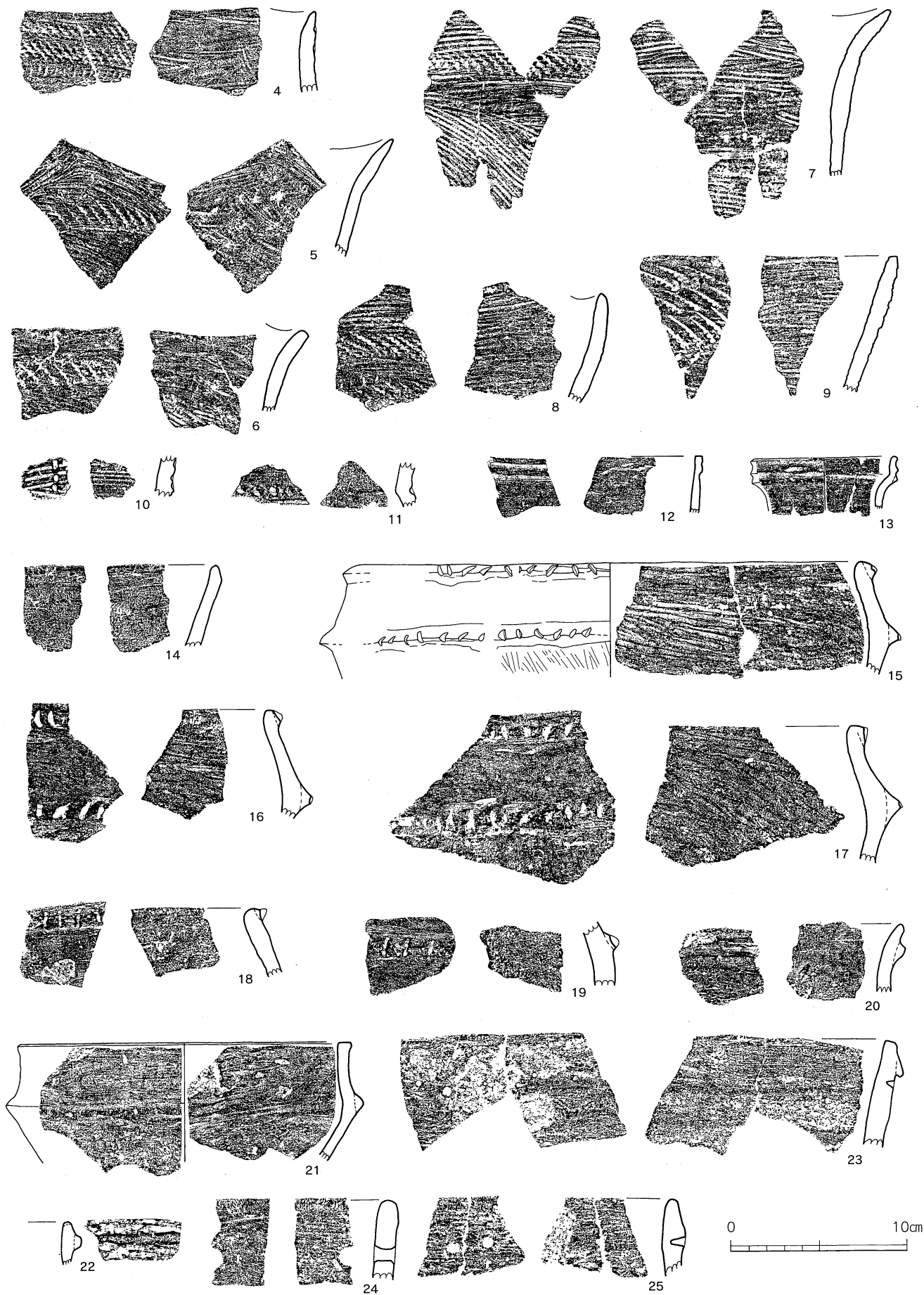
35と36は同一個体である。内外面ともミガキを施し、口縁部が屈曲して短く外反する。37は胴上部で屈曲し、口縁部が外反するもので口唇部に赤色顔料が付着している。38・39は丸底で、外面はミガキが施されている。

B 胴部で屈曲し、内外面ともミガキを施すもの(40)。

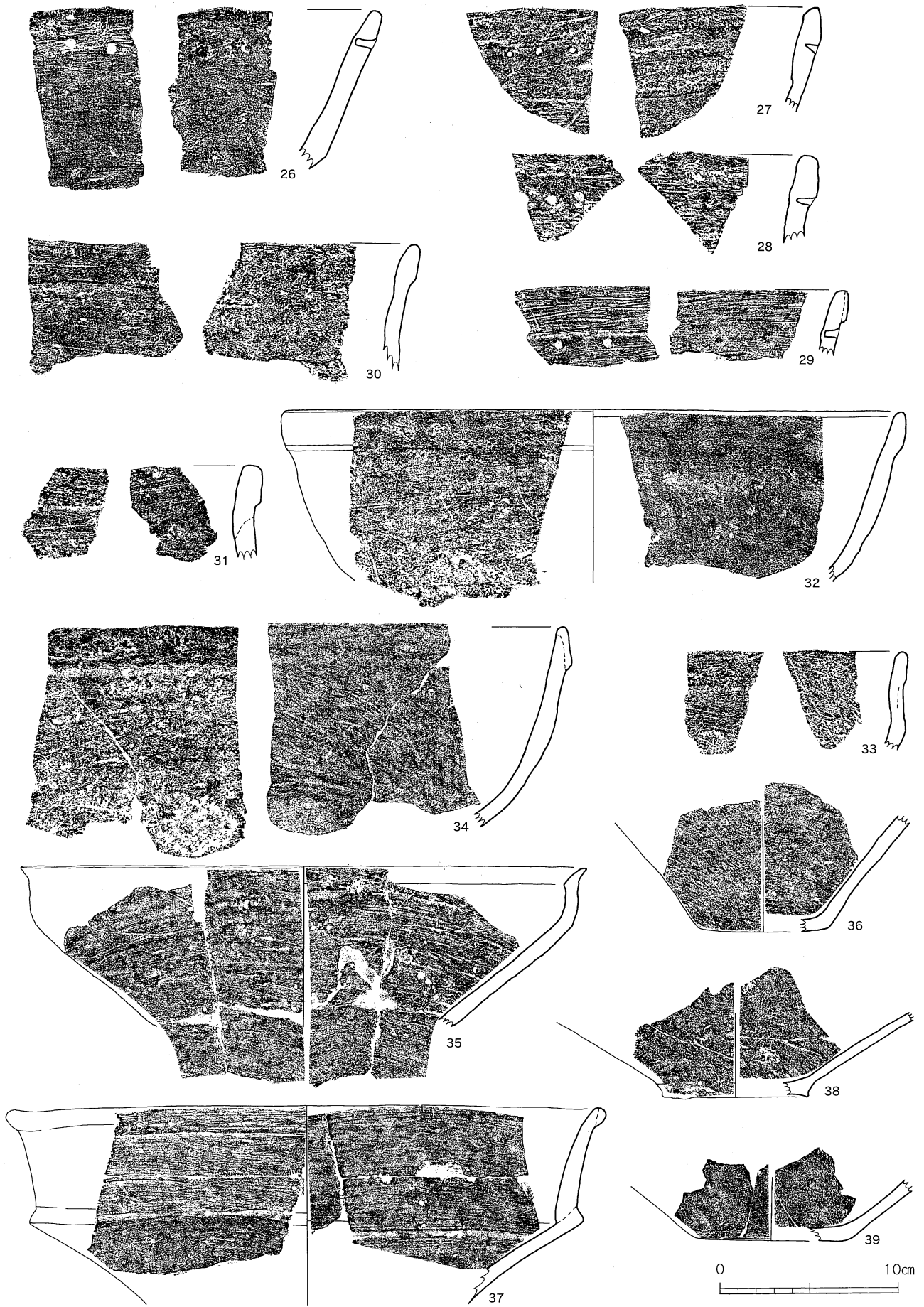
VI類(第22図 41~50)

粗製浅鉢を一括した。

A ヒレ状突起を持つもの(41~44)。



第20図 横市中原遺跡 縄文土器実測図(1) (S=1/3)



第21図 横市中原遺跡 縄文土器実測図(2)(S=1/3)

41は胴部が「く」の字に屈曲し口縁部下部に明瞭な稜を持つ。42は内外面に工具による横方向のナデ、口唇部に横方向のミガキを施している。43は口唇部直下に1条の沈線を施している。

B 小型の浅鉢で胴部が膨らむもの (45~50)。

45・46は口縁部端部が外反する。45は内外面とも横ナデを施している。46は内外面とも横方向のミガキを施し、内面には黒変が見られる。48は胴部が屈曲せず膨らみ、胴部上部外面に1条の沈線を巡らしている。

VII類 (第22図~第24図 51~71)

粗製浅鉢形の組織痕土器を一括した。

1 胴部下半に組織痕が見られ、その部分の器壁は口縁部に比べて薄く仕上げられ、あたかも口縁部が肥厚しているような印象を受けるといった特徴をもつもの(51~55・58・60~62・64・67)。

2 口縁部から組織痕が見られ、器壁の厚味に変化が見られないもの (56~57・59)。

56・59は恐らく同一個体であろう。

3 組織痕土器の胴部下半~底部付近を一括した (63・65~66・68~71)。

VIII類 (第25図~第26図 72~86)

器壁の厚い深鉢を一括した。

A 口縁部が肥厚し、わずかに外傾しながら立ち上がるもの (72~78)。

74・75・78は内外面に条痕を施している。

B 口縁部がやや外反するもの (79~81)。

79は外面と口唇部にミガキを施し、全体にススが付着している。81は内外面にヘラ状工具によるナデを施している。

C 胴部を一括した (82~86)。

83は外面は縦方向の粗いミガキ、内面は丁寧な横ナデを施している。

IX類 (第26図~第27図 87~97)

器壁の薄い深鉢を一括した。

A 口縁部が外反しながら延びるもの (87~89)。

89は内外面ともヘラミガキを施している。

B 口縁部がやや外傾し、外面に条痕を施すもの (90・91)。

C 口縁部を持つもの (92・93)。

D 胴部を一括した (94~97)。

94は胴部がわずかに屈曲し、口縁部がやや外反しながら延びる。内外面とも横方向の条痕後、ナデを施している。95~97は外面に条痕を施し、95は粘土のつなぎ目が見られる。

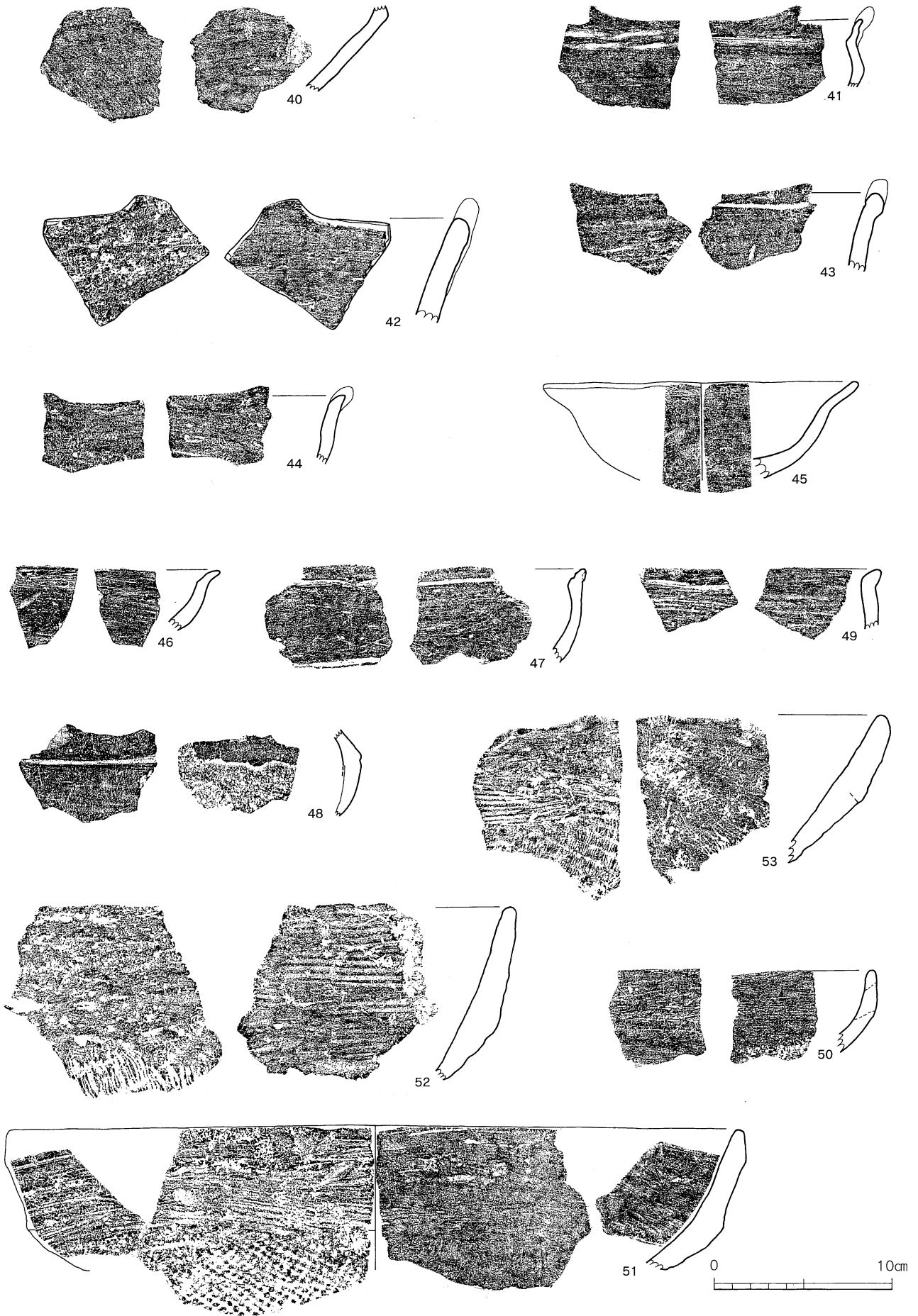
X類 (第27図 98~111)

深鉢の底部を一括した。

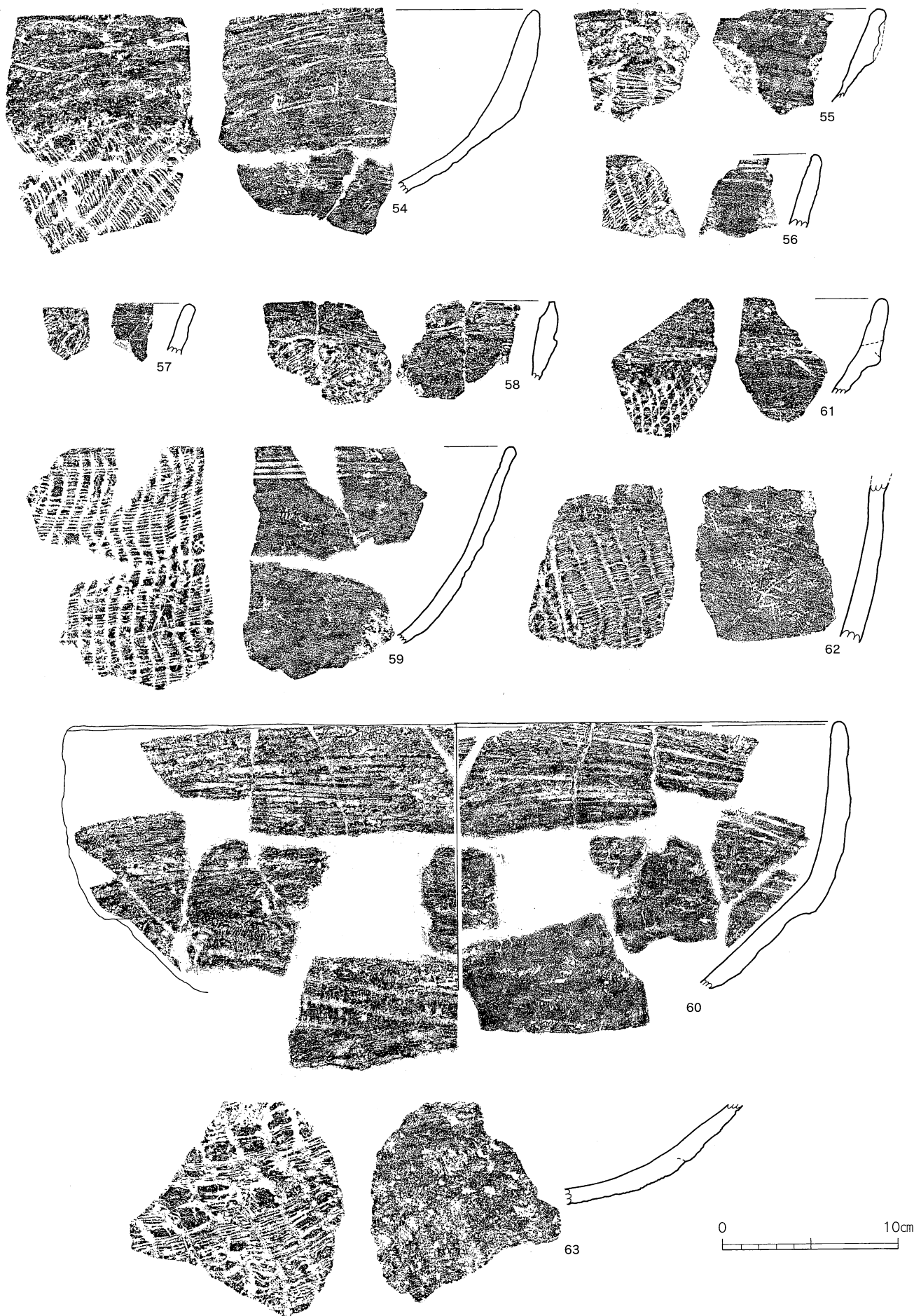
A 平底を呈するもの (98~109)。

1 端部が張り出し、胴部が開きながら立ち上がるもの (98・99)。

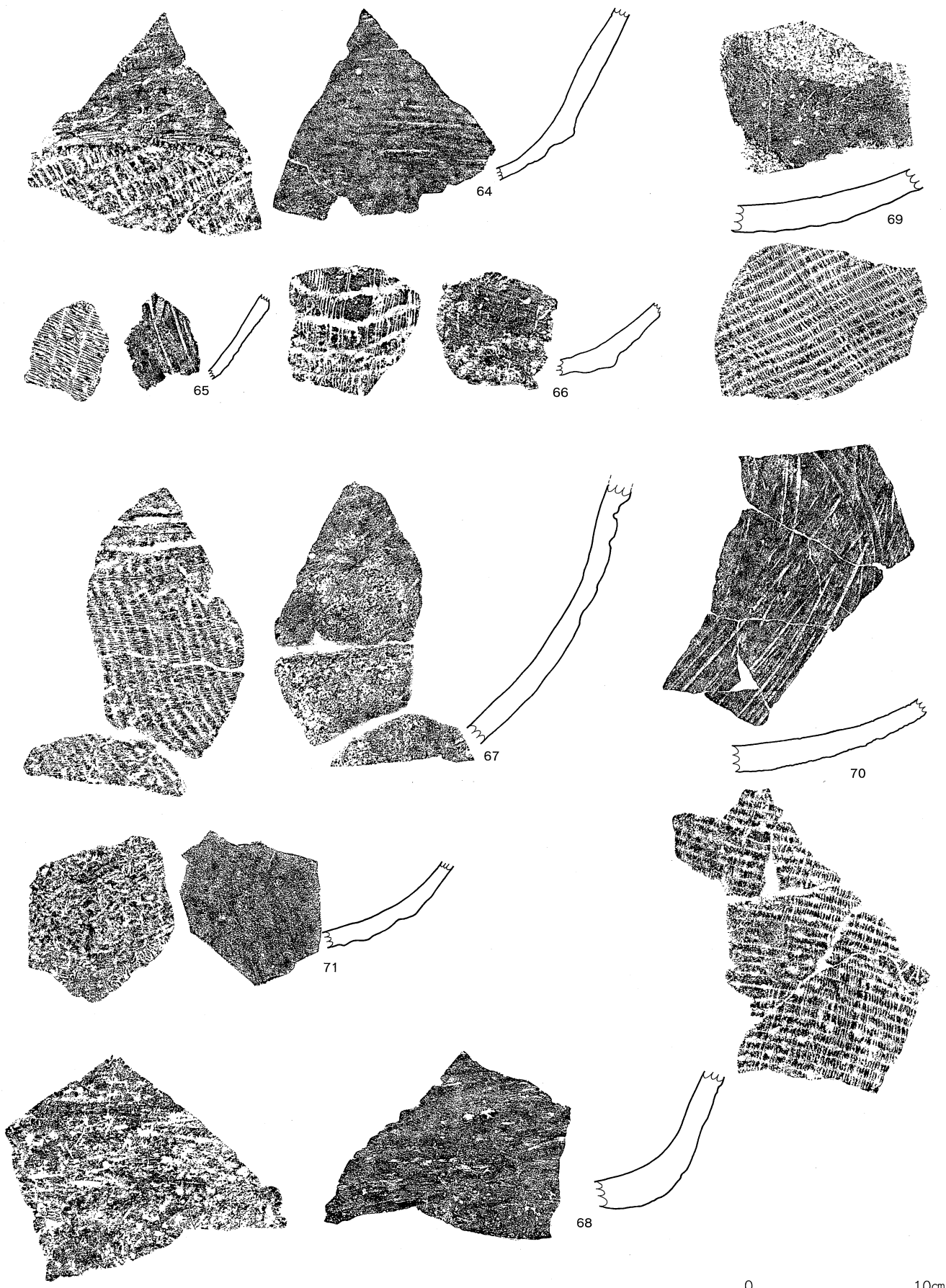
2 端部が張り出さず、胴部が開きながら立ち上がるもの (100~104)。



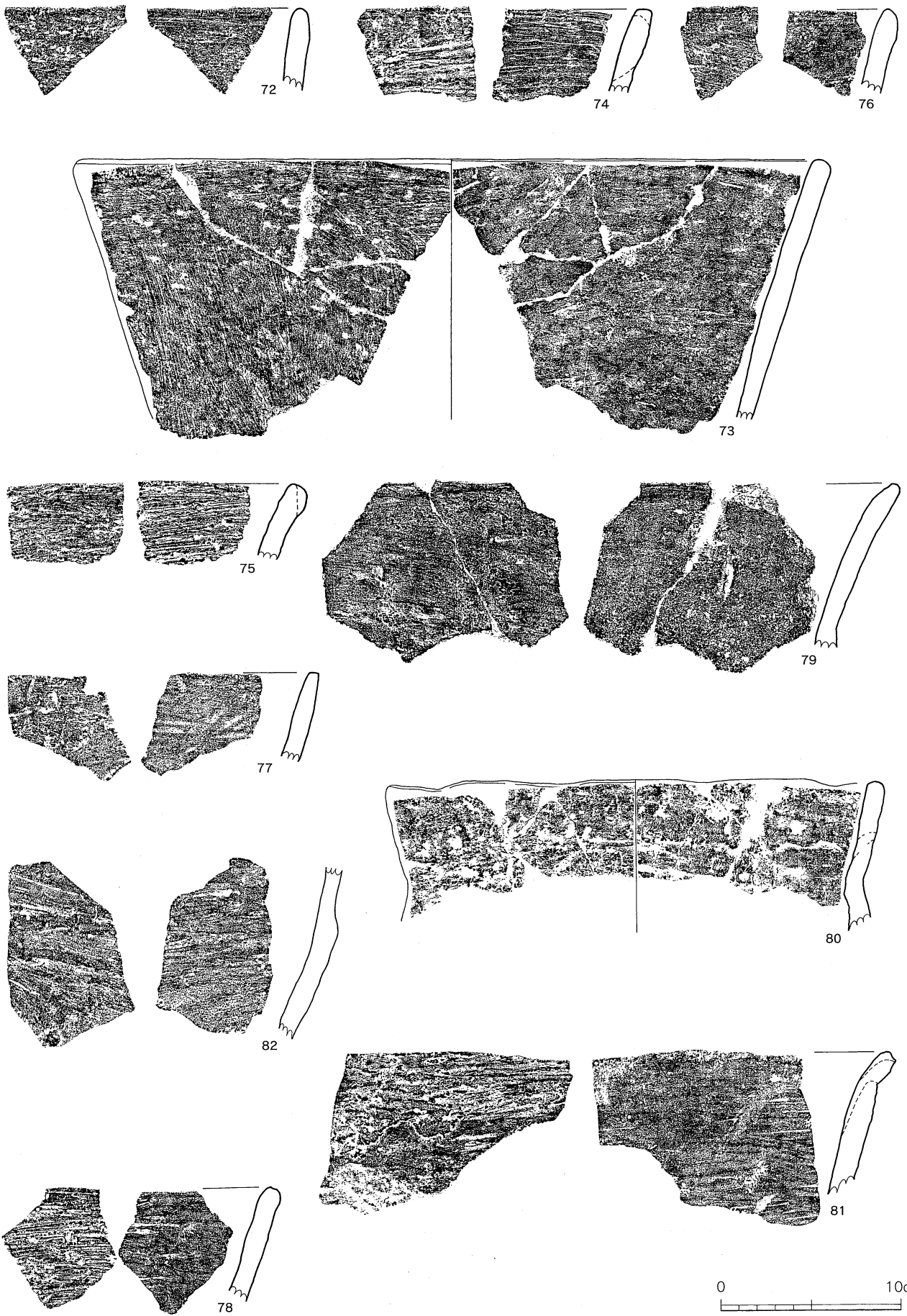
第22図 横市中原遺跡 縄文土器実測図(3) (S=1/3)



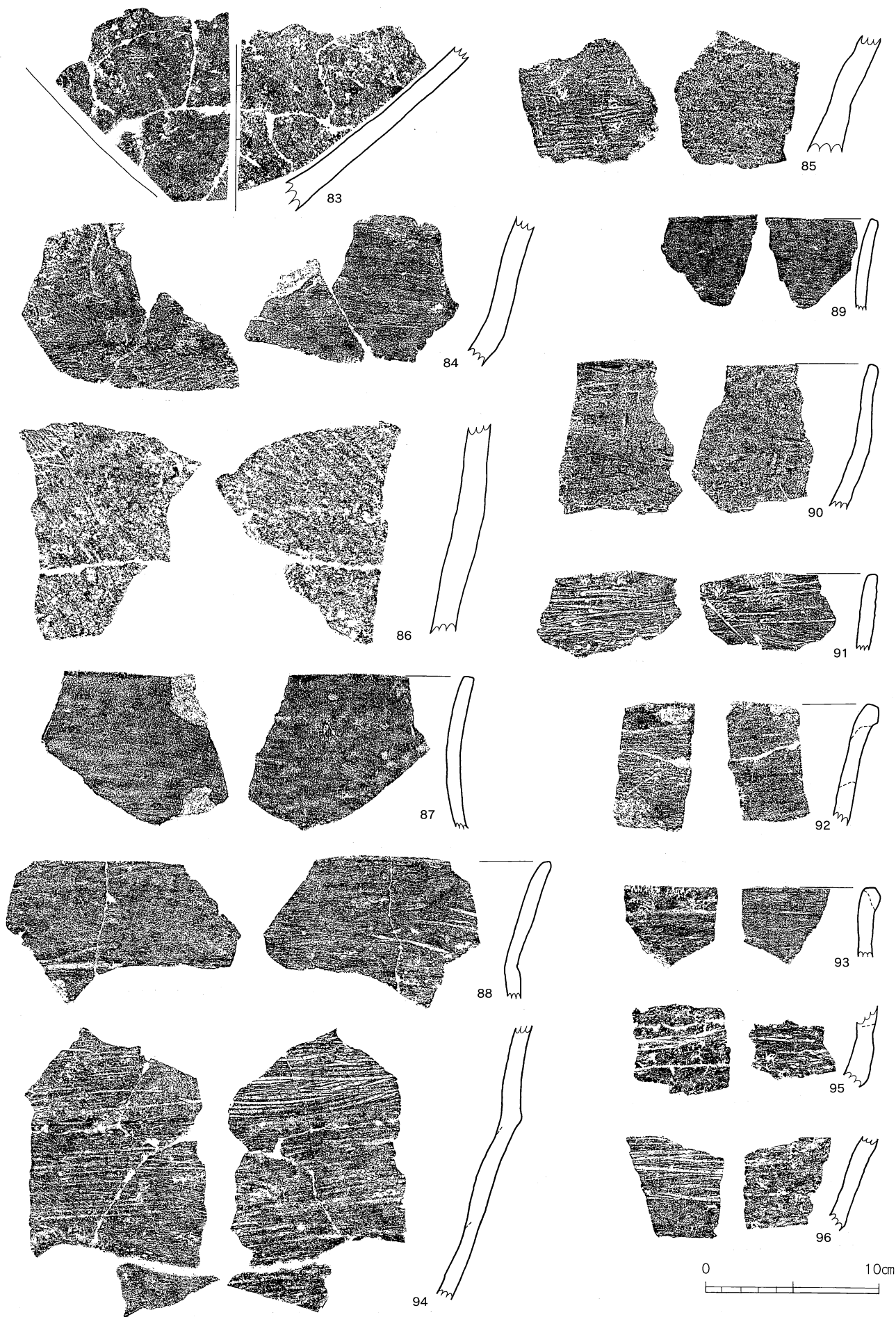
第23図 横市中原遺跡 縄文土器実測図(4) (S=1/3)



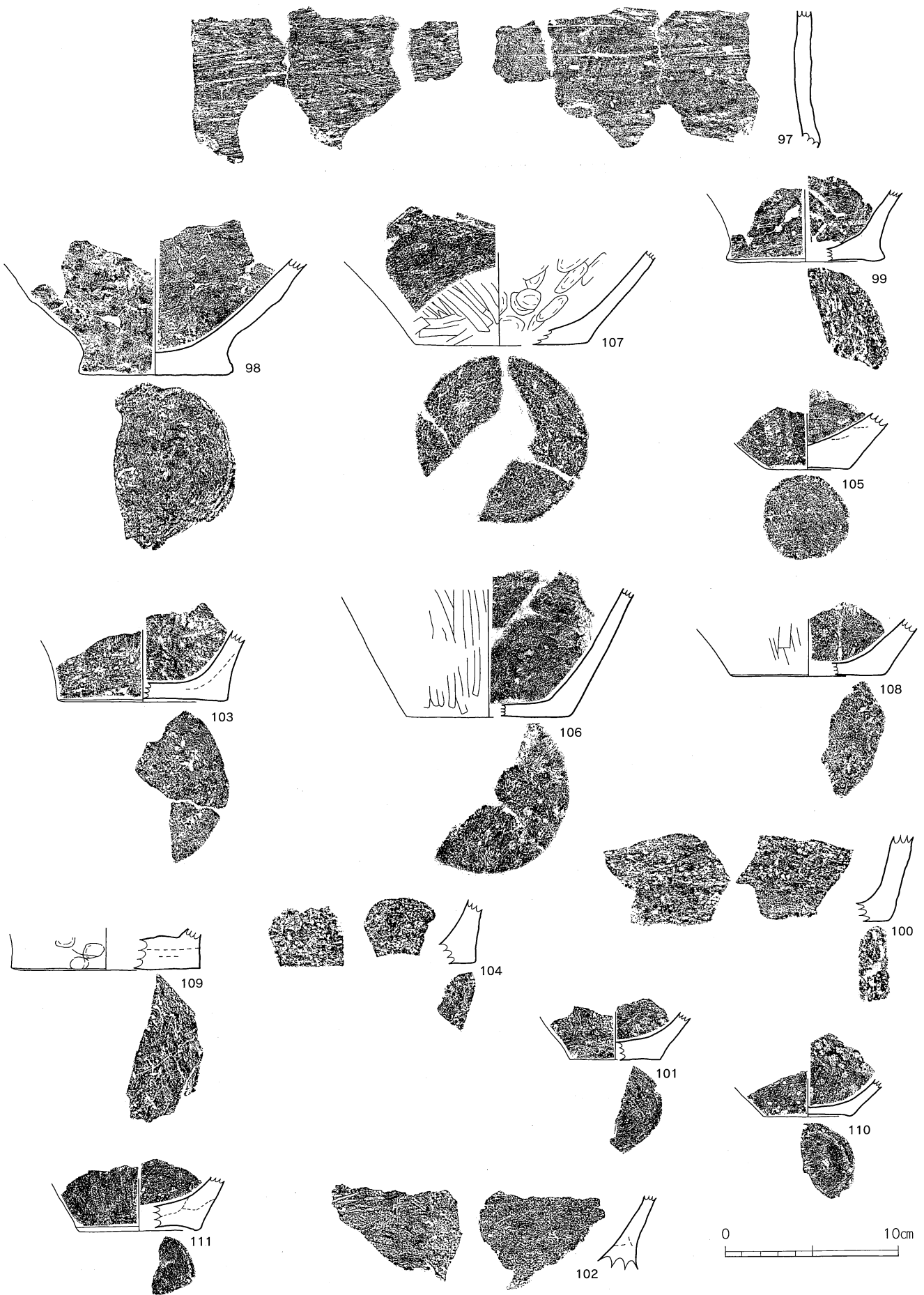
第24図 横市中原遺跡 縄文土器実測図 (5) (S=1/3)



第25図 横市中原遺跡 縄文土器実測図(6) (S=1/3)



第26図 横市中原遺跡 縄文土器実測図 (7) (S=1/3)



第27図 横市中原遺跡 縄文土器実測図(8) (S=1/3)

3 底部から外傾する胴部が直接立ち上がるもの (105~108)。

4 端部の張り出しが弱く、厚底を呈するもの (109)。

B 上げ底を呈するもので、端部が張り出さず胴部が開くもの (110・111)。

XI類 (第28図 112~118)

器壁の厚い浅鉢を一括した。

A 口縁部が内湾するもの (112・113・114)。

112は外面にススが多く付着する。113は内外面に炭化物と思われるものが付着し、胴部には縦長の貫通した焼成後穿孔が見られる。穿孔は回転によるものと異なり、すり切りで貫通させたような内外方向の筋が見られるものである。114は外面に条痕を施し、ススが付着している。

B 口縁部が外傾しながら立ち上がるもの (115~117)。

C 底部付近でわずかに屈曲し、外面は横方向の条痕後ナデ、内面は斜め方向のヘラナデを施すもの (118)。

XII類 (第28図~第29図 119~124)

その他の浅鉢を一括した (119~124)。

119は口縁部が外傾しながら立ち上がり、端部は短く外反する。口唇部には「八」の字に連続する2条の押圧刻みを施している。120は底部付近で屈曲し、口縁部が外傾しながら立ち上がっている。また、口縁帯を巡らし、口唇部のラインが短く波状になっている。内外面とも横方向の条痕後、ヘラナデを施している。121は胴部が屈曲し、口縁部が外反しながら延び、口縁帯を有す。内外面ともミガキが施されている。122は頸部に波状の貼付突帯を巡らせ、口唇部には円形のドーナツ状貼付文が施されている。123は胴部が屈曲し、124は頸部が屈曲する。外面は丁寧な横方向のナデ、内面は横ナデを施している。

XIII類 (第29図 125)

特殊な土器であるもの (125)。

125は小型精製土器である。外面口縁部に沈線がめぐり、沈線上に貫通した小さな穿孔、口唇部にはボタン状の貼付が見られる。外内面ともミガキを施している。

(2) 弥生土器 (第13図 131)

弥生土器については、A区のSA4で数点出土したほか、調査区全体では小片が数点出土しただけであった。そのため、ここでは図化した1点のみについて説明する。131はB区で出土した壺の平底の底部である。内外面ともハケ目が施されている。

(3) 土師器 (第30図~第31図)

甕

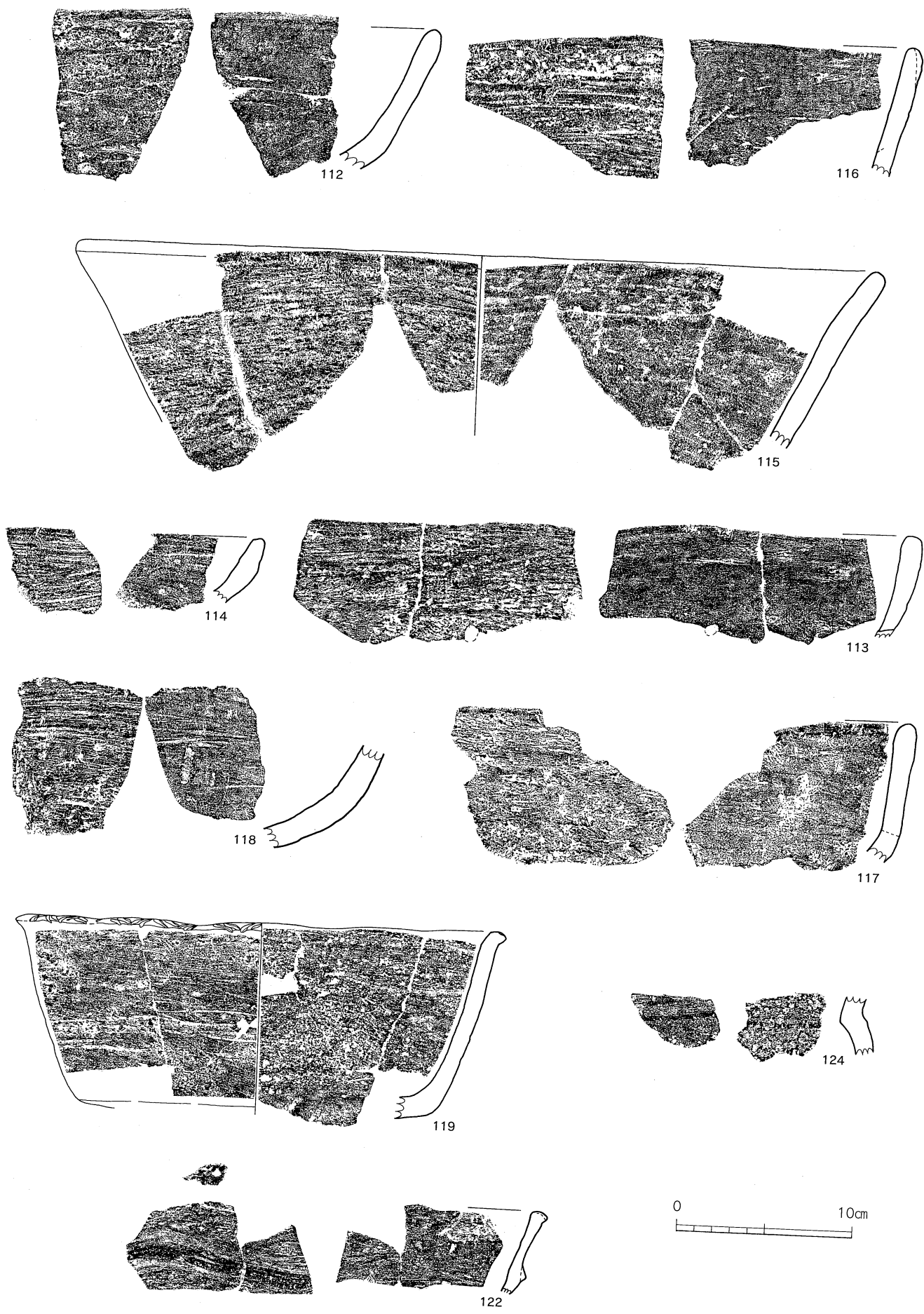
甕については多数出土したため、出土土器を部位や形態・文様によって分類した。各分類ごとに説明を加えていく。

I類 (第30図 147~161)

口縁部から胴部にかけて貼付刻目突帯を持つもの。

147・148・157~161はくびれのある頸部に突帯がある。口縁部が緩やかに外反し、161以外は最大径が口縁部にある。156は胴部上位に突帯を持つ。

II類 (第30図 162~166)



第28図 横市中原遺跡 縄文土器実測図(9)(S=1/3)



第29図 横市中原遺跡 縄文土器実測図 (10) (S = 1/3)

口縁部から胴部にかけて刻目のない貼付突帯を持つもの。

162・163は突帯貼付後、工具による横ナデを施し、つなぎ目をナデ消している。164は口縁部が緩やかに外反し、胴部外面には工具によるナデ、ハケ目を施している。165・166は内外面ともハケ目を施している。

Ⅲ類 (第31図 167～172)

口縁部から胴部にかけて貼付突帯を持たないもの、または残存部位が少なく貼付突帯の有無が判断できないもの。

167・168・169・171・172は口縁部がやや外反するものである。167の口唇部には強い横ナデにより凹線状のくぼみが見られる。171は頸部が緩やかに屈曲し、口縁部は短い。外面に平行タタキを施している。170は口縁部が直線的に伸びるものである。内外面ともハケ目を施し、外面は厚いススが付着している。

Ⅳ類 (第31図 173～189)

底部を一括した。器形により3類に分類できる。

A 底部が平底を呈するもの (173～182)。

173・174・175・177・181は裾部に若干のくびれを持ち、底面の厚みも器面に比べて僅かに厚みを持つ。174は内外面ともハケ目を施し、177は工具によるナデを施している。178・179は裾部のくびれが著しく、胴部に向かって開き気味に伸びる器形と思われる。178の外面は粘土紐をドーナツ状に貼付け、その上に指ナデを施している。180・182は裾部にくびれを持たず、胴部に向かって開き気味に伸びる器形と思われる。

B 底部が丸底を呈するもの (183)。

183は胴部に向かって大きく開き気味に伸びる器形と思われる。

C 底部が上げ底を呈するもの (184～189)。

184・189は胴部に向かって開き気味に伸びる器形と思われる。185は厚底である。186～189は裾部が外側に開き、脚台状の上げ底になっている。187・188は工具によるナデが施されている。

小型甕 (第31図 190・191)

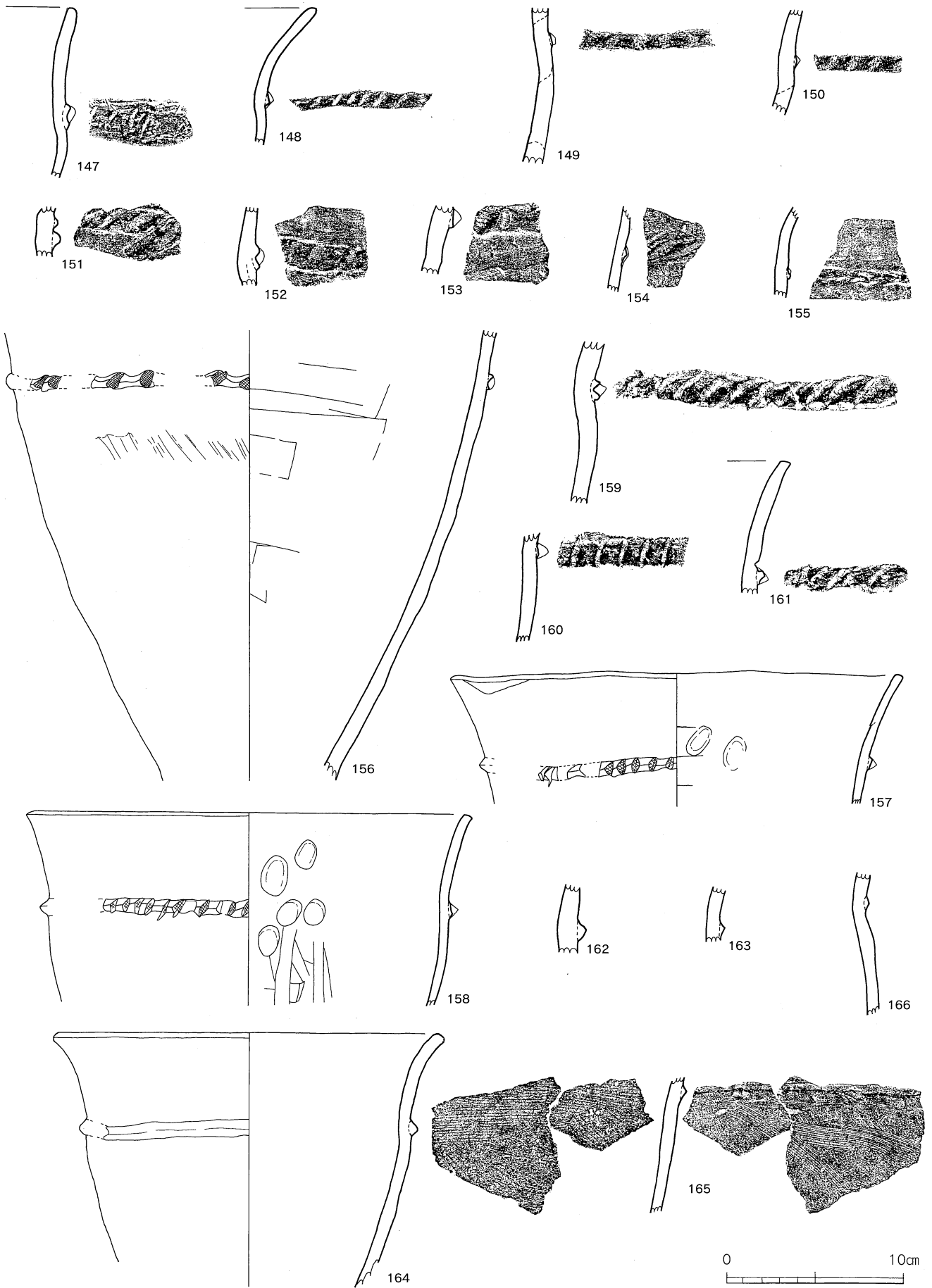
190・191は同一個体の小型甕である。内外面とも風化が著しい。口縁部が「く」字形に緩やかに外反し、胴部が膨らむものである。外面は縦方向のハケ目を施し、内面は粗なナデで、胴部下半部はケズリを施している。粘土のつなぎ目も見られる。

壺 (第31図 192～195)

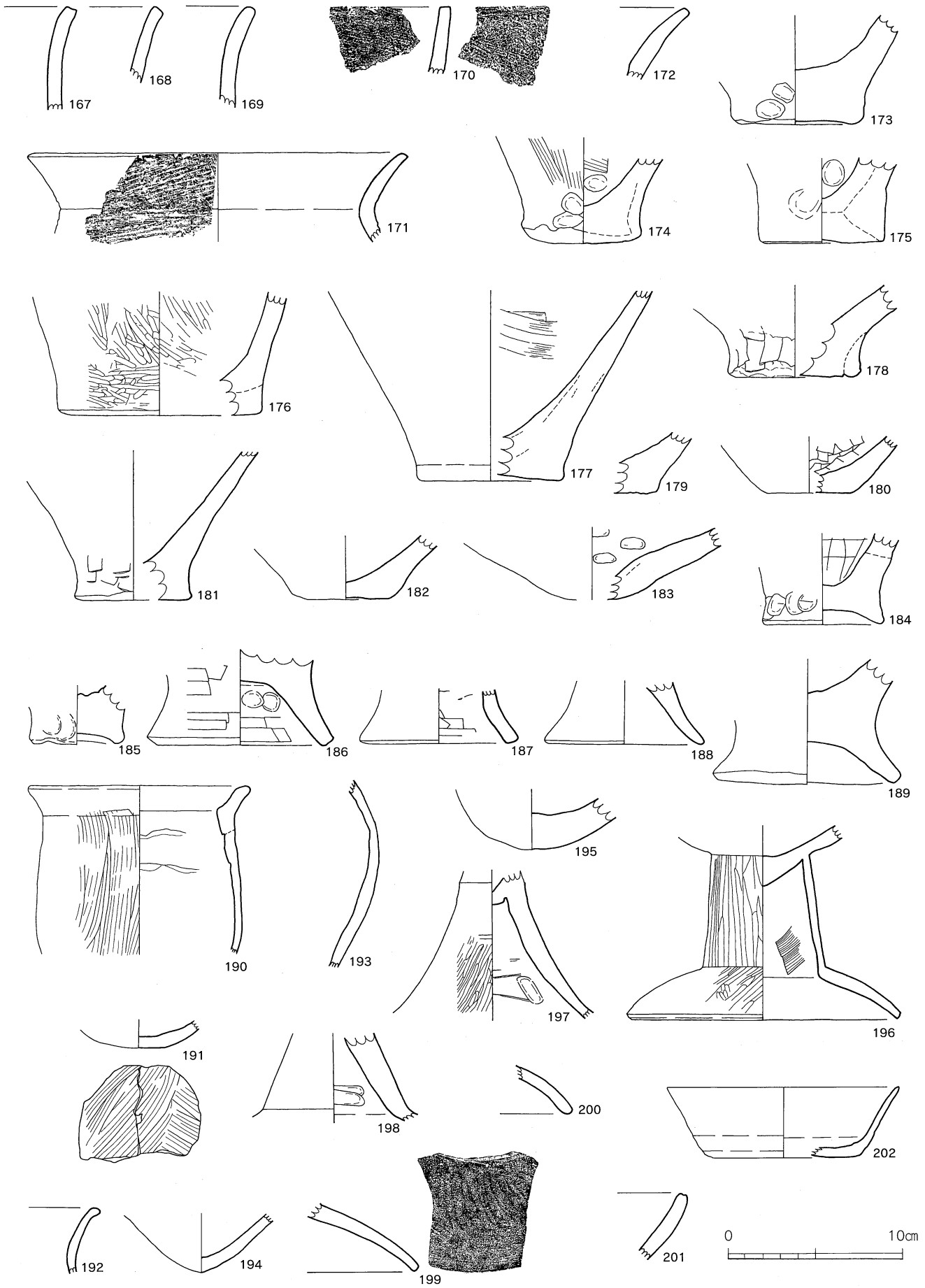
192は口縁部が緩やかに外反する。内外面とも横方向のナデを施し、指頭痕が見られる。193は胴部である。内外面とも風化が著しいが、工具によるナデが施されている。内面は粘土のつなぎ目を指で押さえて調整している。194は底部が尖底の壺である。外面は縦方向のミガキを施し、赤色顔料が付着している。内面は風化気味であるが、ミガキが施されていると思われる。内外面とも部分的に黒変している。195は厚みのある丸底の壺である。内外面ともナデを施し、内面は指頭痕も見られる。

高坏 (第31図 196～200)

196は坏部から脚部である。裾部が明瞭な稜を持ち開いており、脚部は直線的に伸びている。外面はミガキを施し、内面は丁寧なナデであるが、脚部内面には工具痕も見られる。197は脚部である。脚柱部から裾部にかけて屈曲を持たずに末広がりに伸びている。外面は斜め方向にヘラミガキを施し、内面



第30図 横市中原遺跡 土師器実測図(1) (S=1/3)



第31図 横市中原遺跡 土師器実測図(2) (S=1/3)

は工具を回転しながらのナデを施している。198は緩やかに八の字に開く脚部である。外面は縦方向のナデ後、ナデを施している。内面は横ナデを施し、指頭痕も見られる。199・200は裾部が内湾する。両遺物とも外面はミガキ、内面は横ナデを施し、ススが一部付着している。

鉢 (第31図 201)

201は鉢の口縁部である。内外面ともナデが施され、口唇部には横方向に幅1mmの工具による沈線を巡らせている。

坏 (第31図 202)

202は坏の底部である。内外面とも風化気味である。外面は回転ナデ、内面はナデが施されている。底部の切り離しは風化のため、不明である。

(4) 石器 (第32図～第39図)

石鏃、石錐、スクレイパー、剥片、石斧、敲石、磨石、砥石、石皿、台石、石庖丁などが第V・VI層から出土している。

石鏃 (第32図 207～209)

207～209は打製石鏃の未製品と推定されるものである。207はA区第V層、208はA区第VI層、209はC区第V層から出土した。利用石材は207はチャート、208は石英、209は砂岩である。

石錐 (第32図 210～212)

210はA区第VI層、211・212はC区第V層から出土した。210は錐部の先端が摩耗気味である。212は剥片の切断と二次加工を組み合わせて長い錐部を成形していると思われる。211は石錐と断定はできないが、錐部が欠損していると思われる。利用石材は210・212がチャート、211がサヌカイトである。

スクレイパー (第32図 213～216)

213はA区第VI層、214はA区第V層、215はC区第V層、216はC区第VI層でそれぞれ出土した。213は長軸上の端部に急斜度調整で刃部を設けたものである。214は剥片の側縁に連続的な調整によって刃部を構成しているものである。215は長円形の器形に急斜度調整による刃部を設けたものである。216は下縁部に連続した加工が見られる。利用石材は214がホルンフェルスで、その他はすべて輝石安山岩である。

剥片 (第32図～第33図 217～224)

217・219はA区第V層、218はA区第VI層、220～223はC区第V層、224はB区第VI層でそれぞれ出土した。217以外は石斧に用いられる石材であることから、製作段階で生じた剥片であると考えられる。利用石材は、217はサヌカイト、223は砂岩、その他はすべて輝石安山岩である。

二次加工剥片 (第33図～第34図 225～231)

225・228・229はA区第V層、230・231はA区第VI層、226はC区第V層、227はC区第VI層からそれぞれ出土した。228～230は打製石斧の未製品と考えられる。利用石材は225が黒曜石、226がチャート、227が石英、229が砂岩である。その他はすべて輝石安山岩である。

使用痕剥片 (第34図 232)

232はC区の第V層から1点出土した。側縁に使用痕と思われる剥離痕が見られる。利用石材は砂岩である。

石核 (第34図～第36図 233～240)

233はA区第V層、234～236はA区第VI層、237～240はC区第V層からそれぞれ出土した。236・239・240以外はすべて石材が輝石安山岩であり、石斧製作に伴う石器と考えられる。その他は236が黒曜石、239がチャート、240がホルンフェルスである。

打製石斧 (第36図～第37図 241～248)

241・242はA区第V層、243～245はA区第VI層、246～248はC区第V層からそれぞれ出土した。241・245は三味線の撥に似た撥形のものである。242・248は上下両端が張り出し中央部がくびれているものであり、242は明瞭な使用痕が残る。243は右側部分が欠損しているが大型のものと思われる。244は刃部のみである。246・247は基部である。利用石材は245・248が砂岩、242がホルンフェルスで、その他はすべて輝石安山岩である。

磨製石斧 (第37図 249～253)

250はA区第VI層、250・252はA区第V層、249・253はC区第V層からそれぞれ出土した。250・251は小型の棒状のもの、249・253は長方形をした短冊形のもの、252は基部のみである。利用石材は249～251が砂岩、252・253がホルンフェルスである。

敲石 (第38図 254～258)

255・257はA区第V層、254・256・258はA区第VI層でそれぞれ出土した。254～256は球形、257・258は円盤状である。254・256・257・258は側縁の一部に敲打痕が見られる。256については縁周全体に敲打痕が見られる。利用石材は254～256が輝石安山岩で、257・258が砂岩である。

磨石 (第38図～第39図 259～263)

259・260はA区第V層、261はA区第VI層、262はC区第VI層、263はC区第V層でそれぞれ出土した。平面形態はすべて円形または楕円形を呈し、断面形は扁平である。両面に擦り痕、側縁の一部に敲打痕が見られる。利用石材は、262が溶結凝灰岩、259が輝石安山岩で、その他は砂岩である。

砥石 (第39図 264・265)

264はB区の第V層から出土したものである。側面をなめらかに研磨して面取りをしている。両面とも中央を中心に使用した痕跡が残る。利用石材は砂岩である。265はC区第V層から出土したものである。表裏両面、側面とも砥面を持つ。利用石材は粘板岩である。

石皿 (第39図 266)

266はC区第V層で出土した。中央部に凹面を持つ。利用石材は砂岩である。

石庖丁 (第39図 267)

267はB区の第V層から出土したものである。成形後、両面、側面、背部を丁寧に研磨している。磨製の両端抉り入り石庖丁である。利用石材はホルンフェルスである。

擦痕ある石器 (第39図 268)

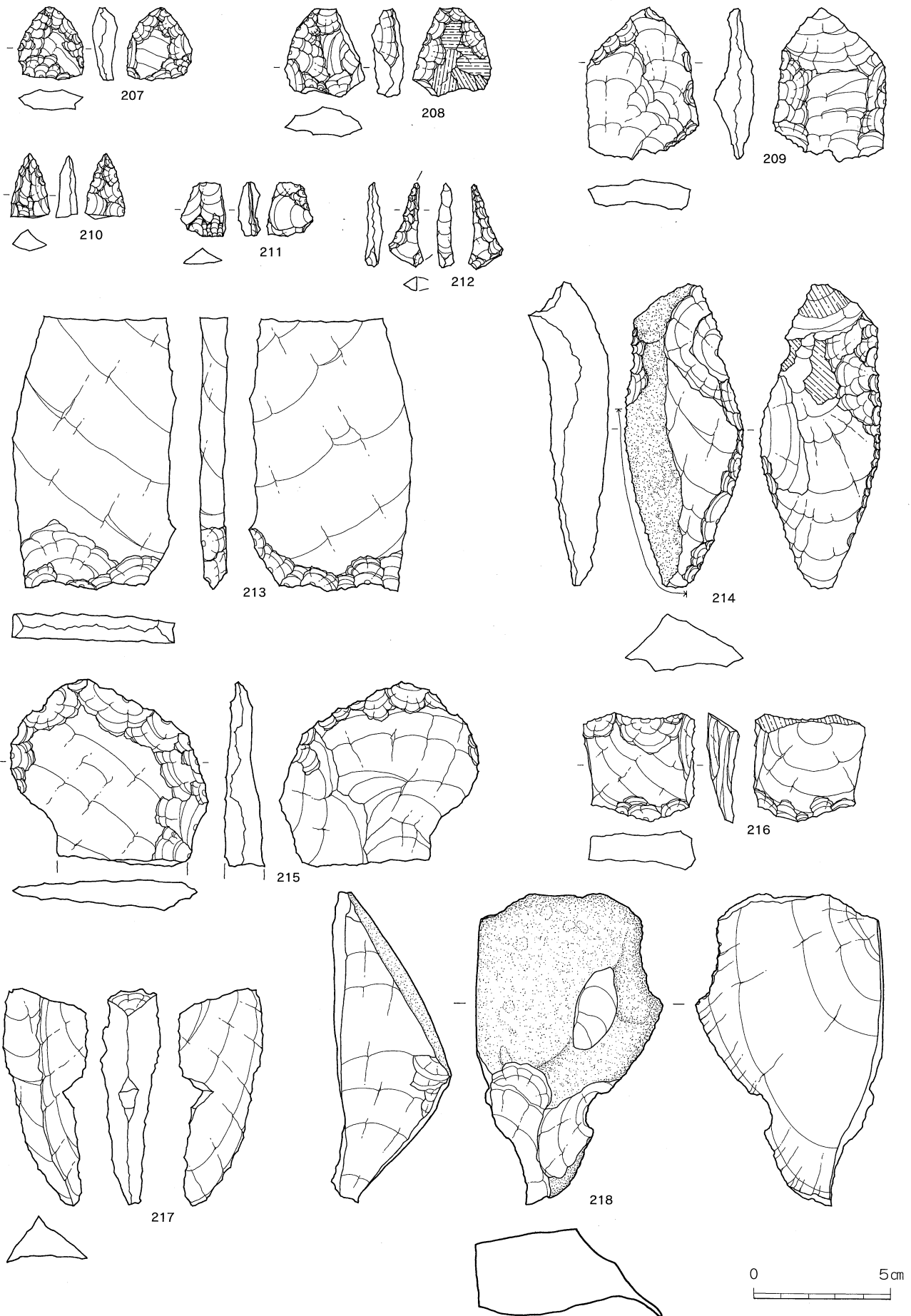
268はC区の第VI層から出土した。表面、側面とも擦り痕が見られる。利用石材は頁岩である。

異形石器 (第39図 269)

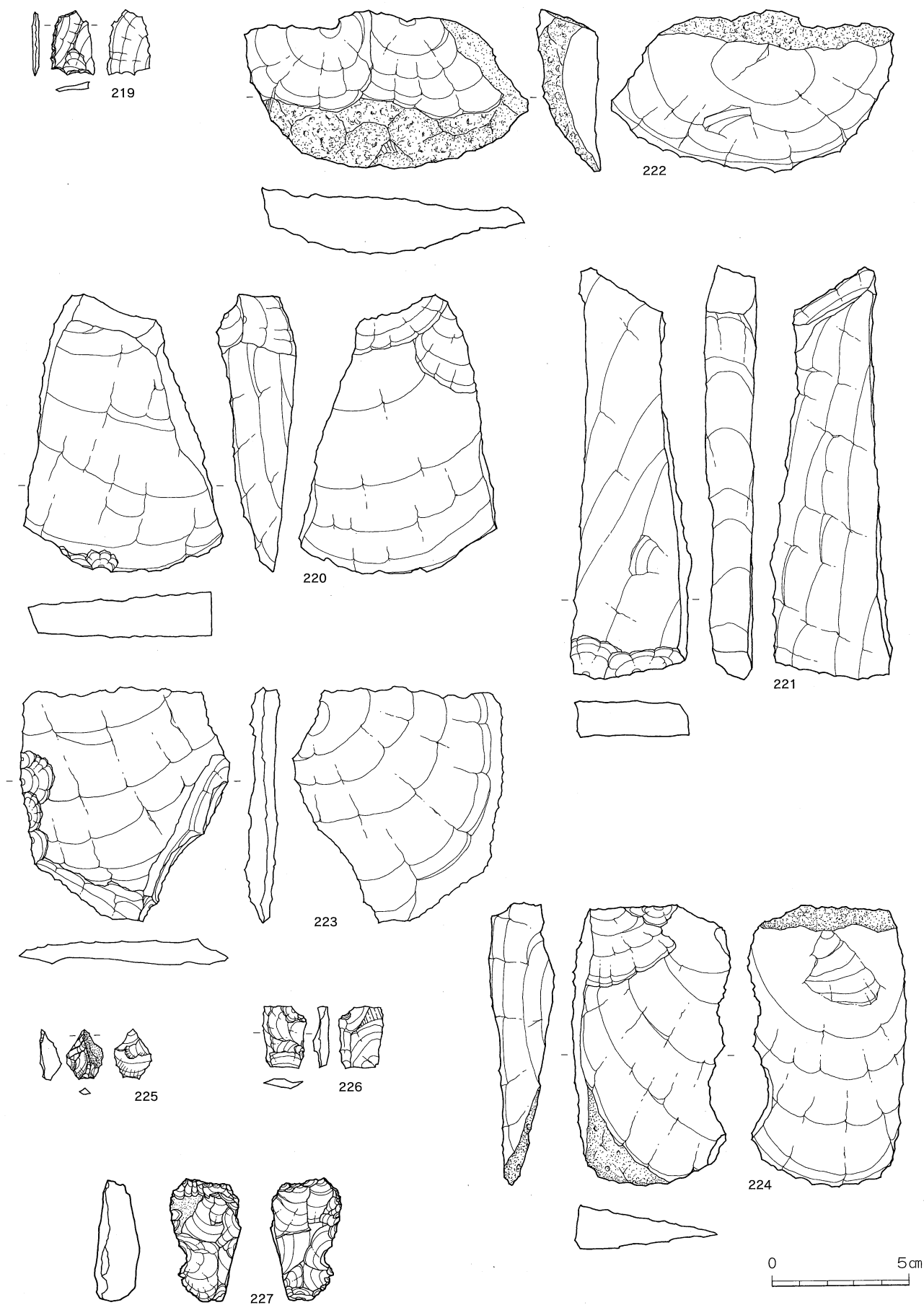
269はA区の第VI層から出土した。全体に押圧剥離が見られる。利用石材はチャートである。

(5) 鉄器 (第39図 270)

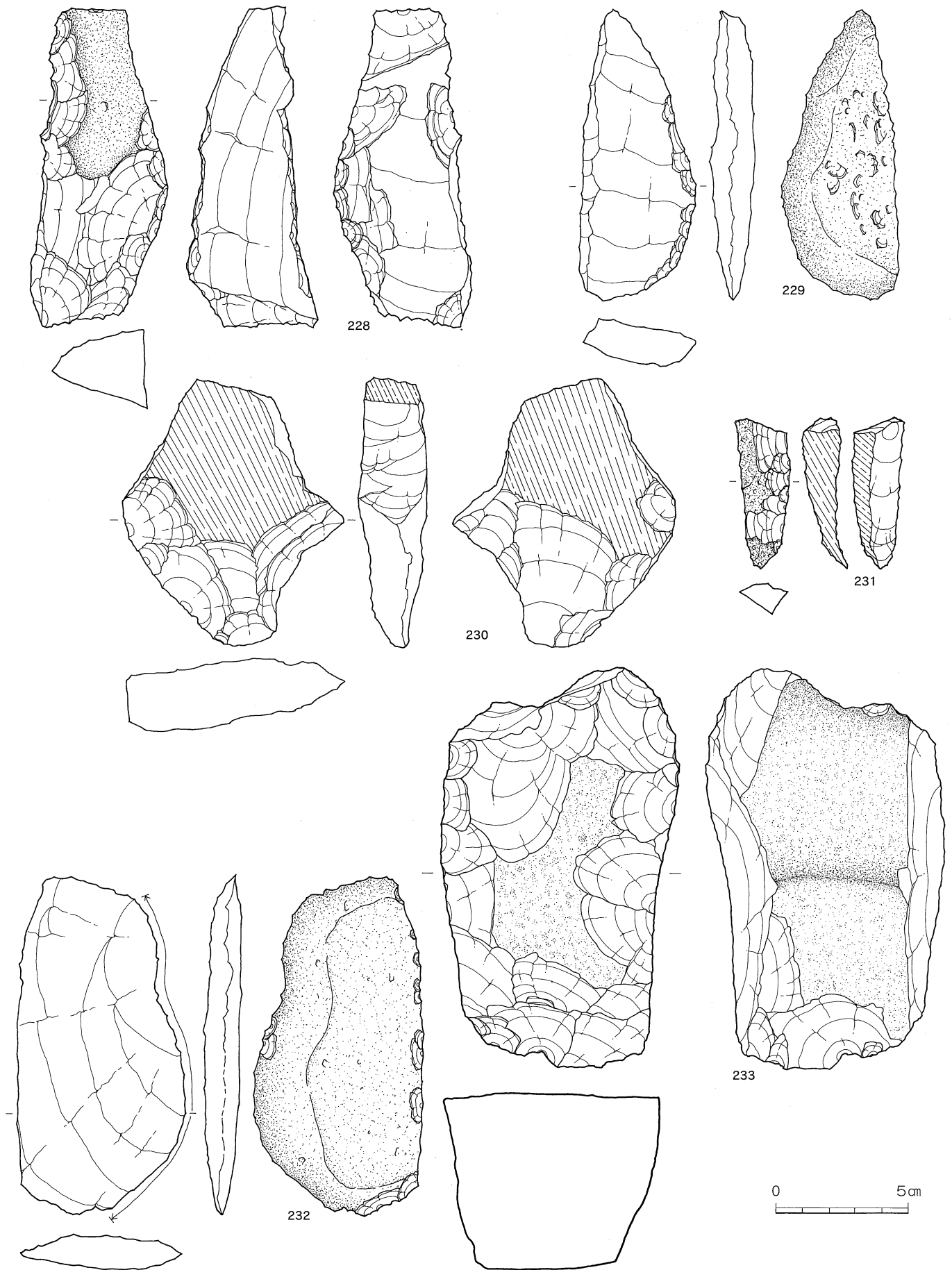
270はA区の第V層から1点だけ出土した鉄鏃である。茎部分のみ残存しており、残存長4.4cm、最大幅0.55cm、厚さ0.2mを測る。時期については不明である。



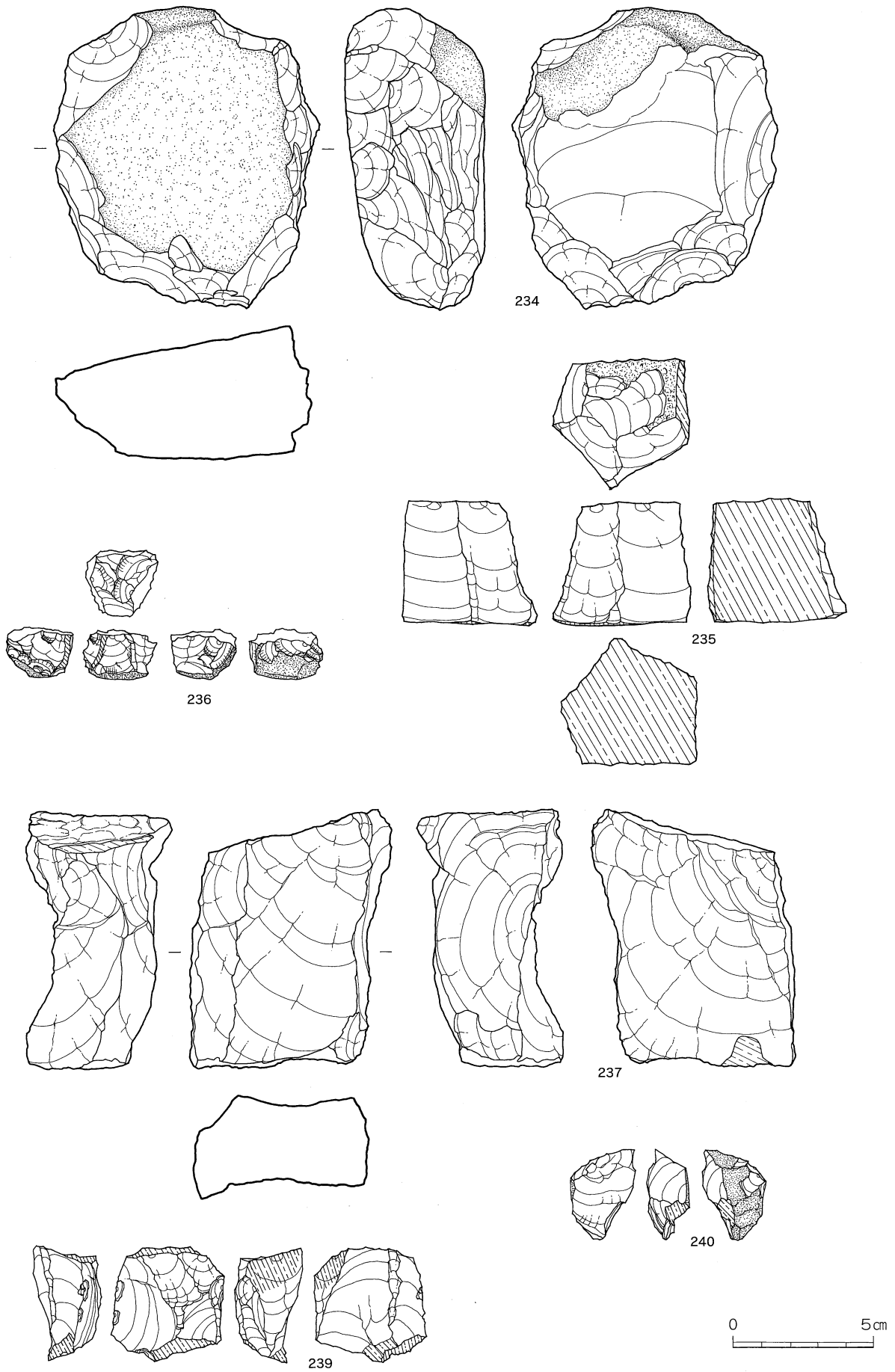
第32図 横市中原遺跡 石器実測図(1) (S=1/2)



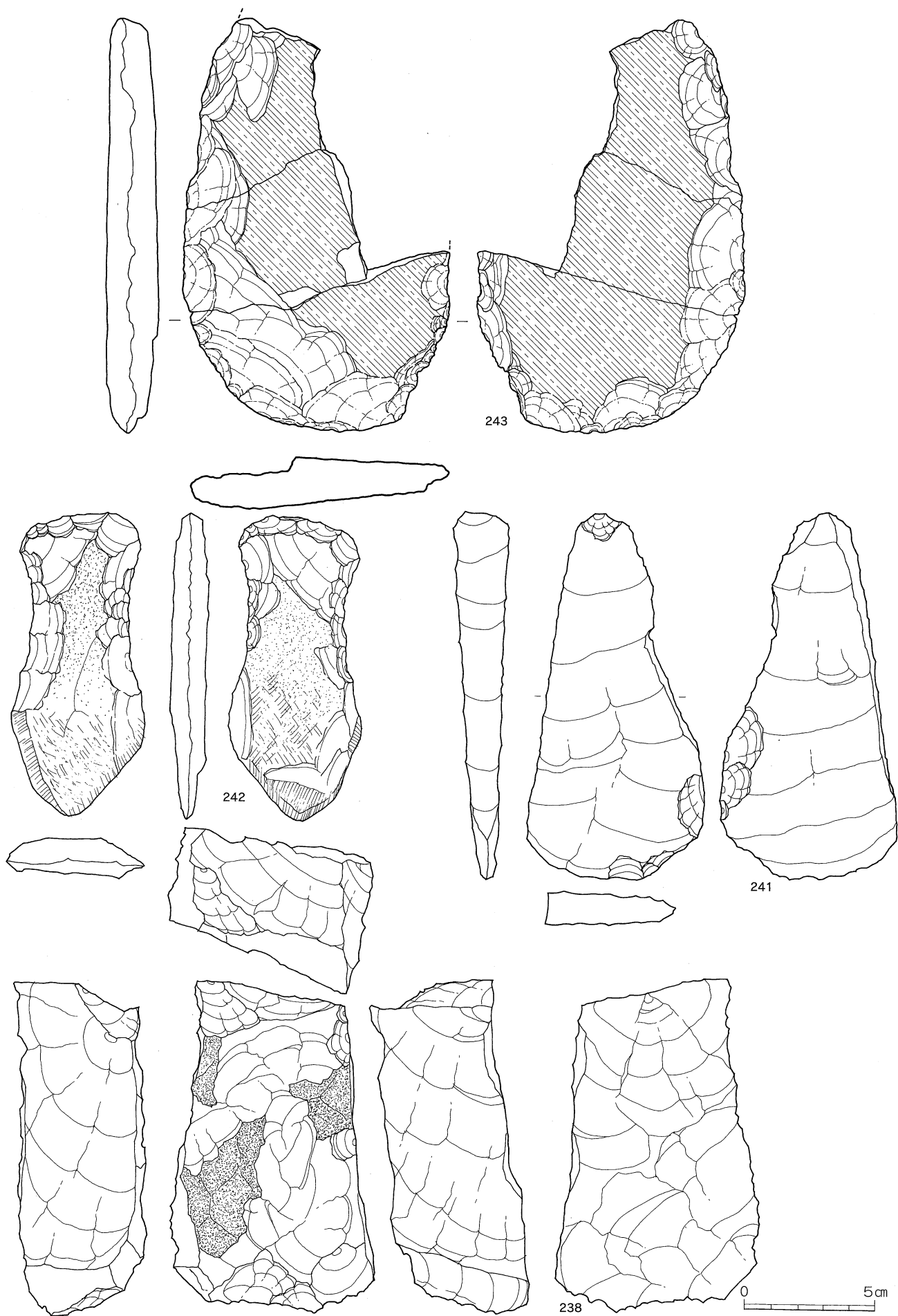
第33圖 横市中原遺跡 石器実測図 (2) (S=1/2)



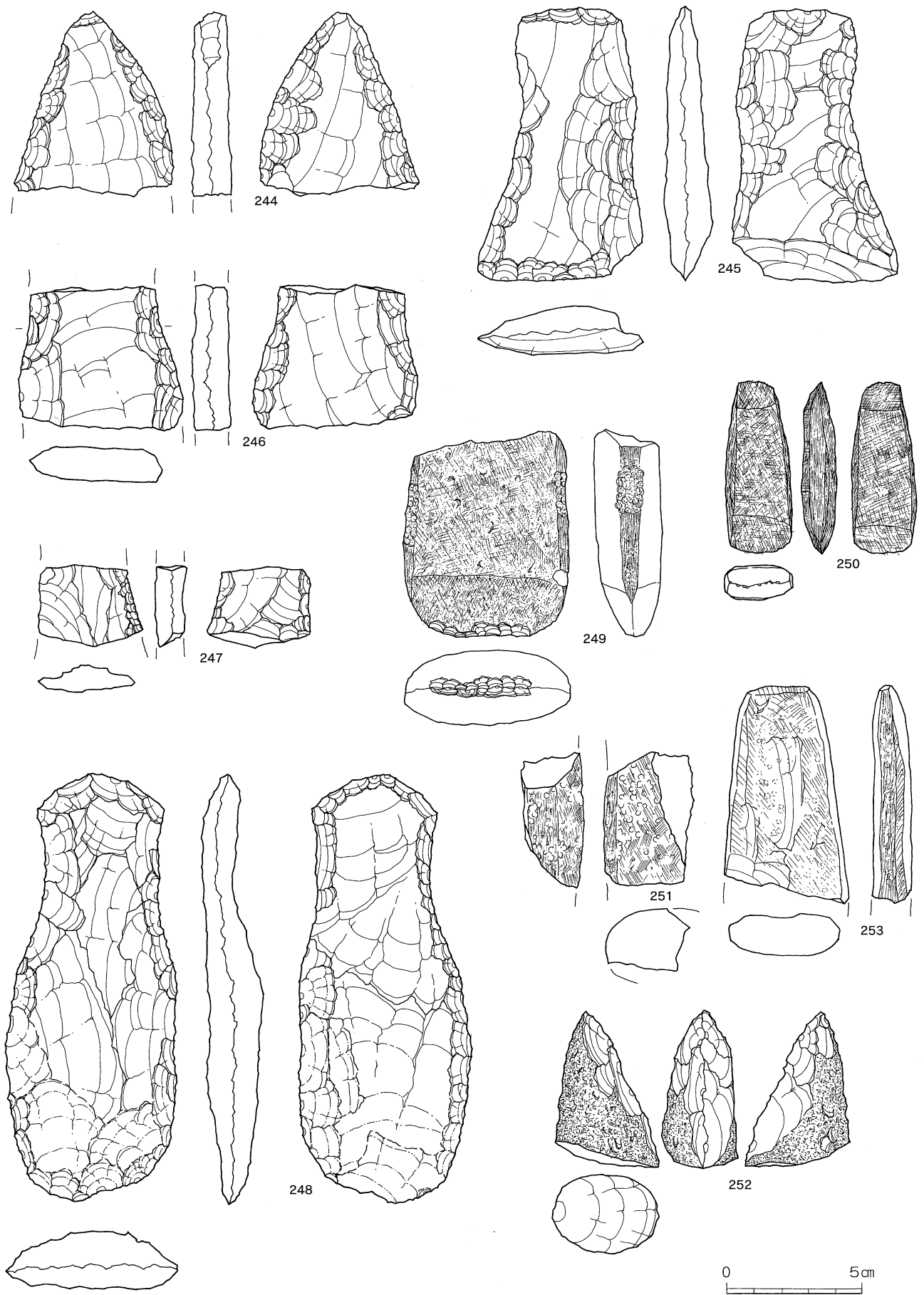
第34図 横市中原遺跡 石器実測図(3) (S=1/2)



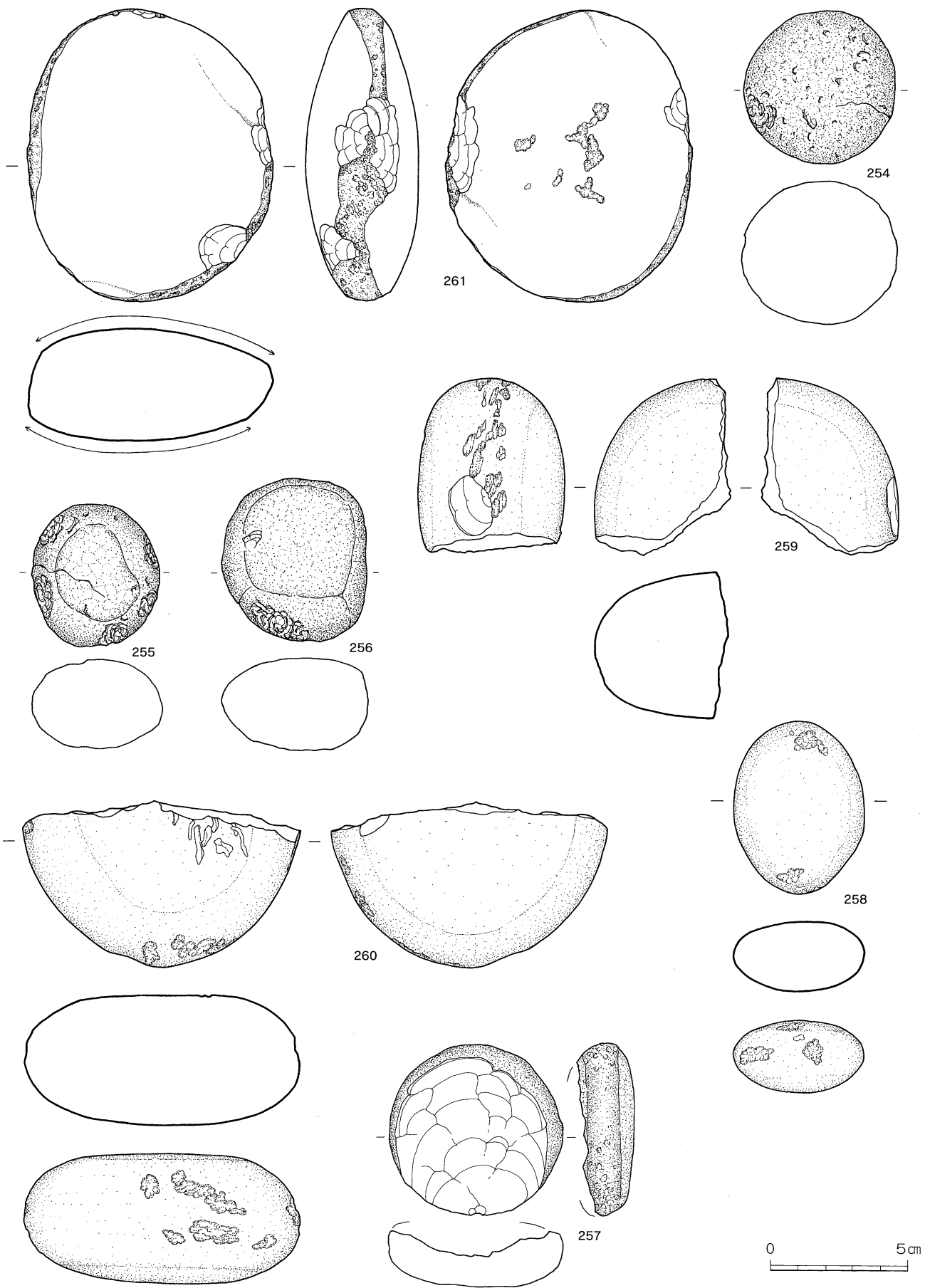
第35図 横市中原遺跡 石器実測図(4) (S=1/2)



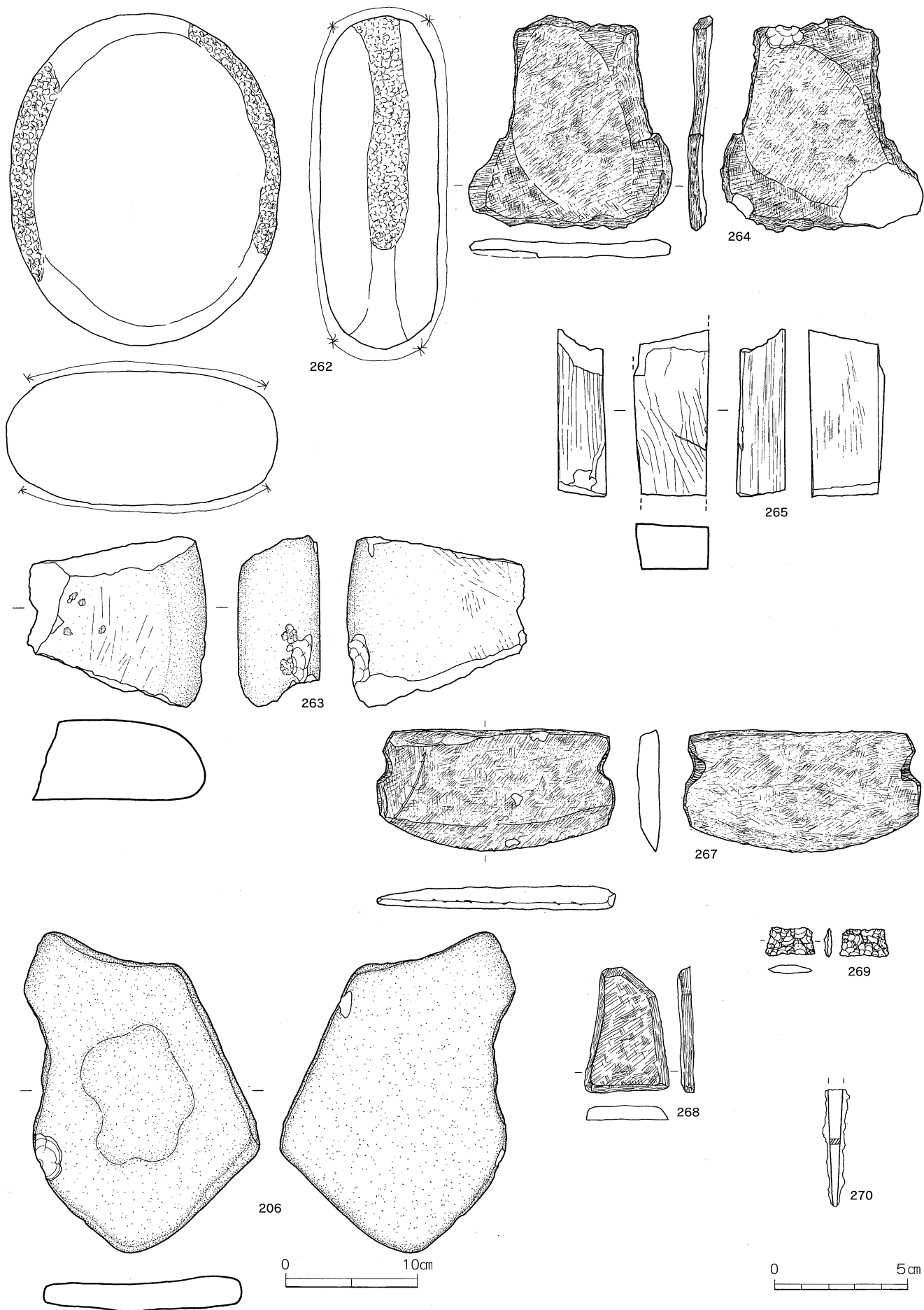
第36図 横市中原遺跡 石器実測図(5) (S=1/2)



第37图 横市中原遺跡 石器実測図(6) (S=1/2)



第37図 横市中原遺跡 石器実測図(7) (S=1/2)



第39図 横市中原遺跡 石器実測図(8) (S=1/2 266はS=1/4) および鉄器実測図(270はS=1/2)

第1表 横市中原遺跡 土器観察表1

遺物番号	種別	器種部位	出土地点	法量 (cm)			手法・調整・文様ほか		焼成	色調		胎土の特徴	備考
				口径	底部	器高	外面	内面		外面	内面		
1	縄文土器	深鉢口縁~胴部	A区V層SA2				縦方向のナデ 斜め方向のナデ	縦方向のナデ	良好	赤褐 にぶい黄褐	赤褐 にぶい黄褐	2mm以下の橙・灰白色粒 1mm以下の無色透明粒、黒色光沢粒	外面はスス付着
2	縄文土器	浅鉢胴部	A区SC4				板状工具による不定方向のナデ	横方向の貝殻条痕 指頭痕	良好	にぶい黄橙	明黄褐	5mm大の灰色粒 2mm以下の灰白色粒 1mm以下の褐灰・灰褐色粒	外面はスス付着
3	縄文土器	浅鉢底部	A区SC6				縄布圧痕	丁寧なナデ	良好	明黄橙	にぶい黄橙	2mm以下の褐灰色粒 1mm以下の灰・黒褐色粒	
4	縄文土器	深鉢口縁	C区V層				横方向の2条の貝殻腹縁刺突文	横・斜め方向の貝殻条痕	良好	黒褐	橙 にぶい黄橙	3mm以下の灰白色粒 1mm以下のにぶい黄褐色粒、透明光沢粒	
5	縄文土器	深鉢口縁	A区V層				斜め方向の貝殻条痕文 貝殻腹縁刺突文	ヘラ状工具による斜め方向のナデ	良好	赤褐	赤褐 明赤褐	2mm以下の無色透明光沢粒、黒色光沢粒 1mm以下の橙・灰白色粒	外面はスス付着
6	縄文土器	深鉢口縁	A区V層				横方向のナデ 貝殻腹縁連続刺突文	横方向のナデ 斜め方向の貝殻条痕	良好	にぶい赤褐 明赤褐	灰褐	2mm以下の無色透明光沢粒 1mm以下の浅黄・灰白・黒褐色粒	外面はスス付着
7	縄文土器	深鉢口縁~胴部	A区V層				横・斜め方向の貝殻条痕 斜め方向の貝殻腹縁刺突文	横・斜め方向の貝殻条痕	良好	にぶい赤褐	明赤褐 にぶい橙	1.5mm以下の灰白・黒褐色粒 1mm以下の透明光沢粒	
8	縄文土器	深鉢口縁	A区VI層				横方向の貝殻条痕 横方向のナデ 貝殻腹縁連続刺突文	横方向の貝殻条痕、横方向のナデ	良好	にぶい橙	明赤褐	3mm以下の灰白・橙色粒 2mm以下の黒・無色光沢粒	外面はスス付着
9	縄文土器	深鉢口縁~胴部	B区VI層				貝殻腹縁による斜め方向の連続刺突文 横方向の貝殻条痕	横方向の貝殻条痕	良好	明赤褐	明赤褐	2mm以下の赤褐色粒 1mm以下の灰白・灰・褐色粒、透明光沢粒	外面はスス付着
10	縄文土器	深鉢口縁付近	A区V層				斜め方向の3条の沈線文 縦方向に連続刺突文	横方向の貝殻条痕	良好	褐	褐	3mm以下のにぶい赤褐色粒 1mm以下の明褐灰色粒	
11	縄文土器	深鉢口縁	B区V層				横ナデ 連続する刺突文 横方向の沈線	ナデ	良好	にぶい褐	にぶい褐	2mm以下の白・灰白・橙色粒、透明光沢粒	穿孔未貫通
12	縄文土器	浅鉢口縁	A区VI層				横方向の丁寧なナデもしくはミガキ 2条の沈線	横方向の丁寧なナデ	良好	にぶい黄橙 灰黄褐 灰褐	灰黄褐 灰褐	2.5mm以下の灰白・黒褐・明褐色粒、透明光沢粒	外面はスス付着
13	縄文土器	小型深鉢口縁	A区VI層				横方向のヘラミガキ 2条の凹線文 凹点文1か所	横方向のヘラミガキ	良好	明赤褐 灰褐	にぶい褐 褐灰	2mm以下の明褐色・にぶい赤褐色粒、無色透明光沢粒 0.5mm以下の淡橙・灰白・褐灰色粒	
14	縄文土器	浅鉢口縁	A区V層				横ナデ	横ナデ	良好	橙	橙 明赤褐	3mm以下の灰白色粒 1mm以下の灰色粒、透明光沢粒	
15	縄文土器	深鉢口縁~胴部	A区VI層	30.2			ヘラ状工具による横ナデ 斜め方向のナデ 貼付突帯	ヘラ状工具による横ナデ 斜め方向の条痕後ナデ	良好	にぶい黄橙 灰黄褐	にぶい黄橙	2.5mm以下の赤褐色粒 1mm以下の灰白・黄灰・灰・褐・黒褐色粒、透明光沢粒	
16	縄文土器	深鉢口縁	A区VI層				横方向のナデ後、ナデ 貼付突帯の上に連続刻目	横方向のナデ	良好	にぶい黄橙 灰黄褐 黒褐	灰黄 黄灰	2mm以下の黄灰色粒、黒色光沢粒 1mm以下の灰黄色粒	
17	縄文土器	深鉢口縁~胴部	A区VI層				ヘラ状工具による横・縦方向のナデ 押し刻目貼付突帯 口唇部は横ナデ	ヘラ状工具による斜め方向のナデ	良好	にぶい黄橙	灰黄	3mm以下の褐色粒 1mm以下の白・灰白・黄灰色粒、黒色柱状光沢粒、透明光沢粒	
18	縄文土器	深鉢口縁	A区V層				横方向のナデ 刻目貼付突帯	横方向のナデ	良好	にぶい黄橙 褐灰	にぶい黄橙	2mm以下の黒・灰・赤褐・黄褐色粒、透明光沢粒	外面は黒変
19	縄文土器	深鉢口縁	A区VI層				横方向のナデ 刻目貼付突帯	横方向のナデ	良好	にぶい黄橙 褐灰	にぶい黄橙 にぶい黄褐	2mm以下の灰白・褐灰・にぶい黄橙・黒色粒、透明光沢粒	外面は黒変
20	縄文土器	深鉢口縁	B区V層				横ナデ 貼付突帯	横ナデ 灰色に変色	良好	浅黄	にぶい黄	2mm以下の灰白・黄灰・灰・褐・赤褐・黒褐色粒、透明光沢粒	
21	縄文土器	深鉢口縁~胴部	A区V層				横方向のナデ	横方向のナデ	良好	にぶい黄橙 橙	にぶい黄橙	2mm以下の灰白・褐灰・黒褐色粒 1mm以下の無色透明光沢粒、黒色光沢粒	外面はスス付着 内面は炭化物付着
22	縄文土器	深鉢口縁	A区VI層				ナデ 貼付突帯	ナデ	良好	浅黄橙	浅黄橙	2.5mm以下の無色透明光沢粒、黒色柱状光沢粒、明褐・にぶい褐・褐・褐灰・橙色粒 0.5mm以下の明褐・赤褐色粒	
23	縄文土器	深鉢口縁	C区VI層				粗いナデ	粗い横ナデ	良好	にぶい橙 にぶい黄橙 褐灰	褐灰	2mm以下のにぶい黄褐色・灰白・黒色粒、黒色光沢粒	穿孔未貫通
24	縄文土器	深鉢口縁	C区V層				ナデ 横ナデ	横方向のナデ	良好	にぶい黄橙 黄灰	灰黄 黄灰	2mm以下の褐灰・にぶい黄褐色粒 1mm以下の灰白色粒、黒色光沢粒	焼成後、穿孔
25	縄文土器	深鉢口縁	C区V層				粗い横方向のナデ 口唇部はナデ	粗い横方向のナデ	良好	にぶい黄橙	にぶい黄橙 褐灰	2mm以下の褐灰・褐色粒 1mm以下の灰白・黒色粒、黒色光沢粒	穿孔未貫通
26	縄文土器	深鉢口縁~胴部	A区V層				横方向の条痕後、横方向のミガキ	斜め方向のミガキ 横方向のミガキ	良好	にぶい黄橙 にぶい橙	浅黄橙 にぶい橙	5mm大の灰白色粒 2mm以下の灰白・灰・褐・赤褐色粒、透明光沢粒	穿孔未貫通
27	縄文土器	深鉢口縁	C区VI層				粗い横ナデ 口唇部は粗いナデ	粗い横ナデ	良好	褐灰 灰黄褐	褐灰 にぶい橙	2mm以下の褐・にぶい黄橙・灰白色粒、黒色半透明・黒色光沢粒	穿孔未貫通
28	縄文土器	深鉢口縁	C区V層				横ナデ 横方向の条痕	横方向の条痕	良好	にぶい褐 明赤褐	明赤褐	4.5mm以下のにぶい赤褐・褐灰・浅黄褐色粒 2.5mm以下の灰白・灰・褐色粒、黒色光沢粒	穿孔未貫通
29	縄文土器	深鉢口縁	B区				横方向の条痕 帯状に貼付突帯	横方向の条痕	良好	にぶい黄 オリーフ黒	浅黄	1mm以下の灰白・灰・褐色粒、黒色光沢粒	穿孔未貫通
30	縄文土器	深鉢口縁~胴部	A区V層				横・斜め方向の粗なナデ 口縁帯	粗なナデ	良好	黒褐	灰黄褐	2mm以下の灰白・褐灰・黒褐色粒	外面はスス付着

第2表 横市中原遺跡 土器観察表2

遺物番号	種別	器部位	出土点	法量 (cm)			手法・調整・文様ほか		焼成	色調		胎土の特徴	備考
				口径	底部	器高	外 面			外 面	内 面		
							外 面	内 面					
31	縄文土器	深口鉢 口縁	A区 VI層				横ナテ	横・斜め方向のナテ	良好	にぶい赤褐	にぶい褐	1mm以下の灰白・褐灰色粒、無色透明光沢粒	外面はスス付着
32	縄文土器	鉢 口縁～胴部	C区 V層	34.3			横ナテ	横・斜め方向のヘラミガキ	良好	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1mm以下のにぶい黄橙・灰白色粒、無色透明光沢粒	外面はスス付着 内面は炭化物付着
33	縄文土器	浅鉢 口縁～胴部	A区 V層				横ナテ 口縁帯	斜め方向の粗なナテ	良好	にぶい黄橙	灰黄褐	1mm以下の褐色粒 0.5mm以下の灰白色粒、無色透明光沢粒	外面はスス付着
34	縄文土器	深鉢 口縁～胴部	A区 VI層				斜め方向のナテ 貼付突帯	ヘラ状工具による不定方向のナテ 黒変	良好	にぶい黄橙 灰	にぶい黄 灰	1mm以下の灰白・黄橙・褐・赤褐色粒、 透明光沢粒	全体に付着物 内面は黒変
35	縄文土器	浅鉢 口縁～胴部	C区 V層				横方向のミガキ 斜め方向のミガキ	横方向のミガキ	良好	暗灰 黒	暗灰 黒	1mm以下の黄白・灰白・灰・黒褐色粒	
36	縄文土器	浅鉢 胴部～底部	C区 V層				斜め方向のミガキ 横方向のミガキ ナテ	横方向のミガキ	良好	暗灰 黒 灰黄	灰	3mm以下の黄白・灰色粒 1mm以下の灰白・褐・赤褐色粒	
37	縄文土器	浅鉢 口縁～胴部	A区 VI層	33.6			ヘラ状工具による横方向のナテ 横・縦方向のミガキ	横方向のミガキ 黒変	良好	灰黄 灰白	暗灰	3mm以下の黄灰色粒 1mm以下の灰白・灰色粒、透明光沢粒	赤色顔料付着
38	縄文土器	浅鉢 胴部～底部	A区 VI層				ヘラ状工具による横方向のナテ	横ナテ	良好	灰黄 黄灰	灰黄	3mm以下の黄褐色粒 1mm以下の灰白・褐・灰色粒	外面は一部黒変
39	縄文土器	浅鉢 胴部～底部	A区 VI層		8.5		縦方向のミガキ 丁寧なナテ	斜め・横方向のミガキ	良好	にぶい褐 灰黄褐	暗灰	1mm以下の灰白・褐・赤褐・黒褐色粒	内外面は一部黒変
40	縄文土器	浅鉢 胴部	C区 V層				斜め方向のミガキ	横方向のミガキ	良好	橙 暗灰	褐灰	2mm以下の灰白・浅黄褐色粒、無色透明光沢粒 1mm以下のにぶい橙・明褐・赤褐色粒、 黒色柱状光沢粒	外面はスス付着
41	縄文土器	浅鉢 口縁	A区 V層				ミガキ	丁寧なナテ	良好	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2mm以下の黒色光沢粒 1mm以下の灰褐色粒	外面はスス付着
42	縄文土器	浅鉢 口縁	C区 VI層				粗いナテ 口唇部は横方向のミガキ	工具による横方向のナテ	良好	灰黄褐 黄灰	にぶい褐 黒褐	2mm以下の灰白色粒、半透明光沢粒	内面は黒変
43	縄文土器	浅鉢 口縁	A区 VI層				横ナテ	沈線 ナテ	良好	にぶい黄橙	にぶい黄橙	微細な灰白・黒褐色粒	外面はスス付着
44	縄文土器	浅鉢 口縁	A区 VI層				ナテ	ナテ	良好	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1mm以下の灰褐色粒、半透明光沢粒、 黒色光沢粒	
45	縄文土器	浅鉢 口縁～胴部	C区 V層				横ナテ 縦方向のナテ後、斜め方向のナテ	丁寧な横ナテ	良好	にぶい橙 にぶい黄橙	にぶい黄橙 橙	1mm以下の灰白・褐・赤褐色粒、透明光沢粒 1mm以下の柱状黒色光沢粒	
46	縄文土器	浅鉢 口縁	C区 V層				横方向のミガキ	横方向のミガキ	良好	浅黄	黄灰 黒	1.5mm以下の褐色粒 1mm以下の橙・灰白色粒、黒色光沢粒	外面は風化気味、 内面は黒変
47	縄文土器	浅鉢 口縁	C区 V層				横方向のナテ 沈線	工具による横方向のナテ 沈線	良好	灰黄褐	にぶい黄橙	2mm以下の淡黄色粒 1mm以下の橙・灰白色粒、黒色光沢粒 微細な光沢粒	外面はスス付着
48	縄文土器	浅鉢 胴部	A区 V層				丁寧なナテ ヘラ状工具による横方向のナテ 沈線	横方向の丁寧なナテ	良好	にぶい黄橙 橙	浅黄	1mm以下の灰白・灰・褐・黒褐色粒、透明光沢粒	赤色顔料付着
49	縄文土器	深鉢 胴部	A区 VI層				条痕後、ナテ	条痕後、ナテ	良好	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2mm以下の無色透明光沢粒、橙・褐色粒 0.5mm以下の明赤褐・赤褐・褐灰・灰白色粒	
50	縄文土器	浅鉢 口縁	A区 V層				ヘラ状工具によるナテ	ミガキ	良好	褐灰 にぶい褐	褐灰	3mm以下の褐灰・浅黄橙・にぶい黄褐色粒 1mm以下の赤褐・にぶい橙褐色粒、無色透明光沢粒、黒色光沢粒	外面は黒変
51	縄文土器	浅鉢 口縁～胴部	C区 V層	40.4			横・斜め方向のヘラナテ 口唇部は横ナテ 網目圧痕	ミガキ	良好	にぶい黄橙	にぶい黄橙	5mm以下の褐色粒 1.5mm以下のにぶい赤褐・褐灰色粒、半透明粒	
52	縄文土器	浅鉢 口縁～胴部	A区 V層				ナテ 編布圧痕	条痕 ナテ	良好	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2mm以下の灰白・赤褐色粒 1mm以下の明褐・暗褐色粒	外面はスス付着
53	縄文土器	浅鉢 口縁～胴部	A区 V層				横ナテ 条痕 編布圧痕	ナテ	良好	にぶい黄橙	にぶい黄橙 褐灰	2mm以下の赤褐色粒 1mm以下の明褐・暗褐色粒	外面はスス付着 内面は黒変及び 少し風化
54	縄文土器	浅鉢 口縁～胴部	A区 V層				横ナテ 編布圧痕	横ナテ 条痕	良好	にぶい黄橙	にぶい黄橙	4mm以下のにぶい黄褐色粒 2mm以下の灰白色粒 1mm以下の明褐・暗褐色粒	内面は黒変
55	縄文土器	浅鉢 口縁	A区 V層				上部は表面剥離 編布圧痕 口唇部はナテ	ナテ	良好	褐灰	浅黄 黄灰	3mm以下の褐灰色粒 1mm以下の黒色粒、黒色光沢粒、透明光沢粒	
56	縄文土器	深鉢 口縁	A区 V層				編布圧痕 口唇部はナテ	ナテ 横方向の沈線	良好	にぶい黄橙 灰黄褐	にぶい黄橙	2mm以下の黒・褐灰色粒、半透明粒	
57	縄文土器	浅鉢 口縁	A区 V層				編布圧痕 口唇部はナテ	ナテ	良好	にぶい黄橙 灰黄褐	にぶい黄橙 灰黄褐	2mm以下の灰褐・黒色粒	風化著しい
58	縄文土器	浅鉢 口縁	A区 VI層				横方向の粗いナテ 口唇部はナテ 編布圧痕	横方向の条痕後ナテ 口唇部はナテ	良好	にぶい橙	浅黄	3mm以下の灰白・灰・褐・赤褐・黒褐色粒	
59	縄文土器	浅鉢 口縁～胴部	A区 V層				編布圧痕 口唇部はナテ	丁寧なナテ 横方向の沈線	良好	にぶい黄橙	にぶい黄橙	3mm以下の灰褐・褐灰色粒 1mm以下の黒色粒	
60	縄文土器	浅鉢 口縁～胴部	C区 V層	43.4			ヘラ状工具による横ナテ 編布圧痕	横・斜め方向のミガキ	良好	にぶい黄橙	にぶい黄橙	3mm以下の灰褐・黒褐・褐色粒	外面はスス付着 内面は風化気味

第3表 横市中原遺跡 土器観察表3

遺物番号	種別	器部	器位	出地	土点	法量(cm)			手法・調整・文様ほか		焼成	色調		胎土の特徴	備考
						口径	底部	器高	外 面			外 面	内 面		
									外 面	内 面					
61	縄文土器	浅口	鉢部	A区	VI層				横方向の条痕 網目圧痕	条痕後、横方向のナデ	良好	橙	灰黄褐 にぶい橙	2mm以下の黒褐・灰白・橙色粒	外面はスス付着 内面は黒変及び 炭化物付着
62	縄文土器	浅胴	鉢部	C区	V層				横方向のナデ 網目圧痕	工具による横・斜め方向 のナデ	良好	明黄褐色	灰黄褐	3mm以下の褐・灰白・橙色粒 2mm以下の黒色光沢粒 微細な透明光沢粒	外面にスス付着
63	縄文土器	浅底	鉢部	A区	V層				網目圧痕	ナデ	良好	にぶい黄橙	浅黄 黄灰	3mm以下の褐・赤褐色粒 1mm以下の灰白・黒褐色粒、透明光沢粒	外面はスス付着
64	縄文土器	浅胴	鉢部	A区	V層				横方向の条痕後ヘラ状工 具による横ナデ 網目圧痕	横方向の条痕後、ヘラ状 工具による横ナデ	良好	浅黄橙	にぶい黄橙 浅黄橙	4mm大の褐色粒 1mm以下の褐・黒褐色粒、透明光沢粒	外面はスス付着 内面は炭化物付 着
65	縄文土器	浅胴	鉢部	A区	VI層				網目圧痕	丁寧なナデ	良好	黒褐	黒褐	8mm大の黄灰色の小礫 3mm以下の黄橙・灰色粒、透明光沢粒 1mm以下の明黄褐色粒	外面はスス付着 内面は黒変
66	縄文土器	浅胴	鉢部	A区	V層				網目圧痕	丁寧なナデ	良好	にぶい黄橙 黒褐	灰黄褐	2mm以下の褐色粒 1mm以下の灰色粒、半透明の光沢粒	外面はスス付着
67	縄文土器	浅頭部	鉢部	C区	V層				網目圧痕	ナデ	良好	にぶい黄橙	黒褐	2mm以下のにぶい黄橙・黄橙・灰白粒 1mm以下の橙・明黄褐色粒	外面にスス付着 内面に炭化物付 着
68	縄文土器	浅底	鉢部	C区	V層				横方向へのヘラナデ ナデ	ヘラナデ	良好	浅黄橙 黒褐	明黄褐 暗灰	4mm以下の明褐灰・灰白・褐灰・浅黄橙・ にぶい橙粒、無色透明光沢粒 2mm以下の橙・にぶい褐色粒	外面にスス付着 内面は黒変
69	縄文土器	浅胴部	鉢部	C区	V層				網目圧痕	ナデ	良好	橙 褐灰	にぶい黄橙 褐灰	2.5mm以下の黒褐・灰白・褐色粒 1mm以下の浅黄橙・赤褐・灰褐色粒、黒 色光沢粒	外面にスス付着
70	縄文土器	浅底	鉢部	A区	VI層				網目圧痕	斜め方向の条痕後、ナデ	良好	にぶい黄橙	暗灰	3mm以下の赤褐色粒 1mm以下の灰白・灰・褐色粒、透明光沢 粒	内面は黒変
71	縄文土器	浅胴部	鉢部	C区	V層				横ナデ 網目圧痕	丁寧なミガキ	良好	橙	黒	1mm以下の灰白・黒褐・褐色粒 微細な透明光沢粒	外面にスス付着 風化著しい
72	縄文土器	深口	鉢部	C区	V層				ナデ	横ナデ	良好	にぶい黄橙 灰黄褐	灰黄褐	2mm以下の灰白色粒 1mm以下の黒色光沢粒	
73	縄文土器	深口	鉢部	C区	V層	21.8			横ナデ後、斜め方向のナ デ 口唇部はヘラ状工具によ る横ナデ	横ナデ後、ヘラミガキ	良好	黒褐	黒褐	2mm以下の灰白色粒 1mm以下の角閃石、金雲母	内面は黒変
74	縄文土器	深口	鉢部	C区	V層				横方向の条痕	ヘラによる条痕後、ミガ キ	良好	黒褐	暗灰黄	4mm以下の褐灰・褐・にぶい黄橙・黄橙 色粒 2mm以下の赤褐・明黄褐色粒、無色透明 光沢粒	外面にスス付着
75	縄文土器	深口	鉢部	C区	V層				横方向の条痕 ナデ	横方向の条痕	良好	黒褐	にぶい黄橙	3mm以下の橙・明褐・にぶい赤褐・赤褐・ 黄褐色粒 1mm以下の灰白・浅黄褐色粒	外面にスス付着
76	縄文土器	深口	鉢部	C区	V層				工具による斜め方向のナ デ	横方向のナデ	良好	暗灰黄	灰黄 黄灰	3mm以下の灰白色粒、黒色光沢粒 2mm以下の透明光沢粒、橙色粒	外面にスス付着
77	縄文土器	深口	鉢部	A区	V層				横方向のナデ	横方向のナデ	良好	にぶい黄橙	にぶい黄橙 にぶい黄褐	2mm以下の黒褐・褐・茶褐色粒 1mm以下の黒色粒、無色透明光沢粒	外面はスス付着 内面に風化著し い
78	縄文土器	深口	鉢部	A区	VI層				横方向の条痕	条痕後、ヘラ状工具によ る横方向のケズリ	良好	褐灰 にぶい黄橙	にぶい黄橙	2mm以下の無色透明光沢粒、赤褐・黒褐 色粒 1mm以下の橙・灰白色粒	外面はスス付着
79	縄文土器	深口	鉢部	B区	VI層				横・斜め方向のミガキ 口唇部は横方向のミガキ	横ナデ	良好	褐灰 にぶい褐 にぶい橙	灰褐 にぶい褐 にぶい橙	5×4mm以下の炭化物 3mm以下の黄白・灰白・褐色粒 1mm以下の透明・黒色光沢粒	内面はスス付着
80	縄文土器	深口	鉢部	A区	VI層	26.4			横方向の粗いナデ 指頭痕 口唇部はナデ	条痕後、横方向のナデ 条痕	良好	浅黄橙	浅黄橙	4mm以下の黒色光沢粒、黒・黒褐・灰黄 褐・灰・黄褐色粒	外面はスス付着
81	縄文土器	深口	鉢部	A区	VI層				横方向の条痕後、ヘラ状 工具によるナデ	横方向のヘラ状工具によ るナデ	良好	淡黄	灰	2mm以下の灰白・灰・褐色粒、透明光沢 粒 1mm以下の柱状黒色光沢粒	全体的に付着物 内面は黒変
82	縄文土器	浅胴	鉢部	C区	V層				ヘラ状工具による丁寧な ナデ ミガキ	横ナデ 丁寧なナデ	良好	にぶい黄橙	灰黄褐	2mm以下のにぶい橙・にぶい褐・灰白粒 1mm以下の浅黄・黒色粒	外面にスス付着
83	縄文土器	深胴	鉢部	C区	V層				縦方向の粗いミガキ	工具による斜め方向のナ デ後、丁寧な横ナデ	良好	にぶい赤褐	にぶい褐 にぶい赤褐	3mm以下の灰白・黒褐色粒 2mm以下の灰・褐・赤褐色粒 1mm以下の透明光沢粒	内面は炭化物付 着
84	縄文土器	深胴	鉢部	A区	V層				工具による不定方向のナ デ	横方向のナデ後ナデ	良好	浅黄橙 灰黄褐	にぶい黄橙 灰黄褐	2mm以下の黒褐色粒 1mm以下のにぶい黄橙粒、黒色光沢粒、 半透明色粒	内面は一部黒変
85	縄文土器	深胴	鉢部	A区	V層				工具による横方向のナデ	工具による横方向のナデ	良好	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2mm以下の明黄褐・黒褐色粒 1mm以下のにぶい黄橙粒、黒色光沢粒、 半透明色粒	
86	縄文土器	深胴	鉢部	A区	V層				工具による斜め方向のナ デ後、ナデ	斜め方向のナデ後ナデ	良好	にぶい赤褐 にぶい黄橙	褐灰 灰黄褐	2mm以下の赤褐色粒 1mm以下の灰白・にぶい黄褐色粒	
87	縄文土器	深口	鉢部	A区	V層	21.6			ヘラ状工具による横・斜 め方向のミガキ 口唇部は横ナデ	ヘラ状工具による横方向 のミガキ	良好	にぶい赤褐 黒褐	灰褐	0.5mm以下の灰黄色粒	内面は黒変
88	縄文土器	深口	鉢部	A区	VI層	21.2			丁寧な横方向のナデ 口唇部は横ナデ	丁寧なナデ	良好	にぶい赤褐	にぶい赤褐	1mm以下の黒色光沢粒、無色透明光沢粒、 灰白・褐灰色粒	
89	縄文土器	深口	鉢部	A区	VI層				条痕後、丁寧なナデ	ヘラ状工具による丁寧な 横ナデ	良好	にぶい赤褐 暗灰	褐灰 にぶい橙	2mm以下の灰白・褐灰・橙・浅黄橙・明 赤褐色粒、無色透明光沢粒、黒色柱状光沢 粒	外面はスス付着
90	縄文土器	深口	鉢部	A区	V層				横方向の条痕 横・斜め方向のナデ	横方向のナデ	良好	褐	橙 黒褐	2mm以下の黒色粒、透明光沢粒 1mm以下の灰白・褐色粒	外面はスス付着

第4表 横市中原遺跡 土器観察表4

遺物番号	種別	器部	種位	出地点	法量(cm)		手法・調整・文様ほか		焼成	色調		胎土の特徴	備考
					口径	底部器高	外面	内面		外面	内面		
91	縄文土器	深鉢	A区	区			横方向の条痕 口唇部はナデ	斜め方向のミガキ	良好	黄橙	黄橙	2mm以下の橙・暗灰色粒、無色透明粒、黒色光沢粒	外面はスス付着
92	縄文土器	深鉢	A区	区			工具による横方向のナデ 貼付突帯	横方向のナデ	良好	橙	橙	1mm以下の黒色透明光沢粒、灰白・淡黄色粒	外面はスス付着
93	縄文土器	深鉢	A区	区			ヘラ状工具によるナデ	丁寧なヘラナデ	良好	暗灰黄 明黄褐	黄灰	1mm以下の黒色柱状光沢粒、無色透明光沢粒、明褐灰・橙・淡橙・にぶい橙色粒	内面は黒変
94	縄文土器	深鉢	C区	区			横方向の条痕後横・斜め 方向のナデ	横方向の条痕後、ナデ	良好	にぶい黄橙 灰黄褐	暗灰黄	2mm以下の灰白・灰・褐・赤褐・黒褐色 1mm以下の透明光沢粒	内面は黒変及び 炭化物付着
95	縄文土器	深鉢	C区	区			工具による横ナデ	横方向にミガキ	良好	にぶい橙	にぶい橙 褐灰	2mm以下の褐・灰白色粒、透明光沢粒 微細な透明光沢粒	外面にスス付着
96	縄文土器	深鉢	C区	区			横方向の条痕 工具による斜め方向のナ デ	横方向のナデ	良好	にぶい黄橙	灰黄褐	3mm以下の灰白・橙色粒 1mm以下の暗赤褐色粒 微細な透明光沢粒	内面は風化著しい
97	縄文土器	深鉢	C区	区			横・斜め方向の条痕	工具による横方向のナデ	良好	暗灰黄	黄灰	2mm以下の浅黄・灰・黄褐色粒 1mm以下の無色透明光沢粒、灰白粒	外面にスス付着
98	縄文土器	深鉢	C区	区	8.8		斜め、縦方向のナデ 指頭痕	丁寧なナデ	良好	にぶい赤褐	にぶい黄橙	3mm以下の灰・黄褐・灰黄色粒 2mm以下の淡黄色粒	風化著しい
99	縄文土器	深鉢	A区	区	9		ナデ 指頭痕	ナデ 一部工具痕	良好	灰黄 褐灰	灰黄 黒褐	2mm以下の黒色・半透明光沢粒 1mm以下の浅黄橙色粒	
100	縄文土器	深鉢	A区	区			ナデ	ナデ	良好	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2mm以下の透明光沢粒、黄灰色粒 1mm以下の黄葉・にぶい橙色粒	外面はスス付着 内面は黒変 風化著しい
101	縄文土器	深鉢	A区	区	5.2		工具による不定方向のナ デ後、ナデ	ミガキ	良好	褐	黒	2mm以下の透明光沢粒、黒色光沢粒 1mm以下のにぶい黄橙色粒	内面は炭化物付 着
102	縄文土器	深鉢	A区	区			丁寧なナデ	ナデ	良好	にぶい赤褐	黒褐	2mm以下の黄灰・にぶい黄色粒 1mm以下の黒褐・黒・灰黄色粒	内面は炭化物付 着
103	縄文土器	深鉢	A区	区	9.6		ヘラ状工具による縦方向 のナデ後、ナデ	ナデ	良好	にぶい橙 にぶい褐	にぶい橙 灰黄褐	3mm以下の黒・灰黄褐色粒 1mm以下の灰白・にぶい黄橙色粒、黒色 光沢粒	
104	縄文土器	深鉢	A区	区			ナデ	ナデ	良好	灰黄褐	灰黄褐 にぶい黄橙	1.5mm以下の灰白・灰黄・黒褐色粒、半透 明粒	風化著しい
105	縄文土器	深鉢	C区	区	4.8		工具によるナデ	工具によるナデ	良好	明褐	褐灰	1mm以下の褐・にぶい黄橙色粒、微細な 半透明粒	内面は炭化物付 着
106	縄文土器	深鉢	A区	区			ヘラ状工具によるナデ	ナデ	良好	橙	浅黄	2mm以下の黒色柱状光沢粒、褐灰・灰褐 色粒 0.5mm以下の浅黄橙・灰白色粒、無色透明 光沢粒	
107	縄文土器	深鉢	A区	区	9.65		ヘラ状工具による斜め方 向のナデ ナデ	横方向の丁寧なナデ	良好	橙 にぶい橙	にぶい黄橙 灰	2mm以下の無色透明光沢粒、黒色柱状光沢 粒、黒・にぶい褐・灰白・浅黄橙・灰褐・ 橙色粒	
108	縄文土器	深鉢	A区	区	9		工具による縦方向のナデ 後、ナデ	ナデ	良好	にぶい橙 にぶい黄橙 灰黄褐	灰黄褐 灰黄	1mm以下の黄灰・にぶい黄褐・灰白色粒	
109	縄文土器	深鉢	A区	区	10.7		ナデ	ナデ 指頭痕	良好	にぶい黄橙 灰黄褐	灰黄 黄灰	3mm以下のにぶい黄色粒 2mm以下の黒色粒 1mm以下の灰白色粒、黒色光沢粒・透明 光沢粒	
110	縄文土器	深鉢	A区	区	5.2		ミガキ	ミガキ	良好	にぶい赤褐	にぶい黄褐	1mm以下の褐灰・にぶい黄橙色粒、黒色 透明光沢粒、無色透明光沢粒	
111	縄文土器	深鉢	A区	区			縦方向のヘラミガキ	丁寧なナデ	良好	にぶい褐 褐灰	灰黄褐	3mm以下の黒・無色透明粒、浅黄橙・灰 白・橙色粒 1mm以下の明褐・灰褐・明褐灰・赤褐色 粒	
112	縄文土器	浅鉢	C区	区			粗い横ナデ 下部はミガキ	丁寧な横・斜め方向のナ デ	良好	にぶい黄橙	にぶい黄橙	3mm以下の黄褐色粒 1mm以下の灰白色粒	外面にスス付着
113	縄文土器	浅鉢	A区	区			粗な条痕・ナデ	ミガキ	良好	にぶい橙	にぶい橙 灰褐	1mm以下の褐灰・灰色粒、無色透明光沢 粒	胴部に穿孔 内外面とも炭化 物付着
114	縄文土器	浅鉢	C区	区			粗い条痕	工具による横方向のナデ	良好	明黄褐	にぶい黄橙	1mm以下の茶褐・褐色粒 微細な透明光沢粒	外面にスス付着
115	縄文土器	浅鉢	C区	区	45		粗い横ナデ	横ナデ 一部横方向のミガキ	良好	褐灰	にぶい黄橙	4mm以下のにぶい黄橙色粒 3mm以下の褐灰色粒 1.5mm以下の角閃石 1mm以下の透明光沢粒	外面にスス付着
116	縄文土器	深鉢	C区	区			横方向の粗い条痕 粘土を帯状に貼付	横方向のミガキ	良好	浅黄	浅黄 暗灰黄	2mm以下の灰白・灰・褐・赤褐・黒褐色 粒 1mm以下の黒色光沢粒	外面にスス付着 内面に炭化物付 着
117	縄文土器	浅鉢	C区	区			粗い横ナデ 口唇部はナデ	ヘラ状工具による横方向 のナデ	良好	にぶい黄橙 灰黄褐 褐灰	にぶい黄橙 灰黄褐	1.5mm以下のにぶい赤褐・褐灰色粒、半透 明粒 1mm以下の黒色光沢粒	
118	縄文土器	浅鉢	C区	区			横方向の条痕後、ナデ	ミガキ	良好	にぶい黄	灰黄褐 にぶい黄橙	3mm以下の褐色粒 2mm以下の赤褐・黒褐色粒 1mm以下の灰白色粒、透明光沢粒	
119	縄文土器	浅鉢	A区	区	27.6	20	横方向のナデ 底部はミガキ	ケズリ気味の強い横ナデ 底部はミガキ	良好	暗灰 にぶい黄橙	にぶい黄橙 暗灰	2.5mm以下の明褐灰・にぶい橙・浅黄橙色 粒 1mm以下の灰白・黄橙・褐色粒、黒色柱 状光沢粒	外面はスス付着
120	縄文土器	浅鉢	C区	区			横方向の粗いヘラナデも しくはミガキ	横方向のヘラナデ 板状工具による横ナデ	良好	淡黄 褐灰	灰黄	5mm程度の灰色粒 3mm以下の灰白・灰・褐・茶褐・黒褐色 粒	外面は黒変 内面は風化気味 粒

第5表 横市中原遺跡 土器観察表5

遺物番号	種別	器種部位	出土地点	法量(cm)			手法・調整・文様ほか		焼成	色調		胎土の特徴	備考
				口径	底部	器高	外 面	内 面		外 面	内 面		
121	縄文土器	浅鉢口縁~胴部	C区V層				横ナデ後、粗いミガキ	横方向のミガキ	良好	黄灰 黒褐	にぶい黄橙 暗灰	4mm以下の浅黄粒・にぶい褐・褐灰・灰白・赤褐色粒 2mm以下のにぶい橙・浅橙粒、無色透明光沢粒	外面はスス付着
122	縄文土器	浅鉢口縁	A区VI層				工具による横方向のナデ後、ナデ貼付突帯 口唇部は凹形浮文	横ナデ	良好	にぶい黄橙 褐灰	にぶい黄橙 褐灰	2mm以下の黒色光沢粒、透明光沢粒、灰・浅黄・黒・黄褐色粒	内面は黒変
123	縄文土器	浅鉢胴部	A区VI層				横方向の丁寧なナデ	横ナデ	良好	明赤褐	にぶい褐	4mm大の灰白色粒 1mm以下の黄・橙・褐・黒褐色粒、透明光沢粒	外面は黒変
124	縄文土器	浅鉢頭部	A区VI層				横方向の丁寧なナデ	横ナデ	良好	にぶい赤褐	にぶい黄褐	2mm以下の灰白・灰色粒 1mm以下の透明光沢粒	
125	縄文土器	小型精製土器口縁~胴部	A区VI層				横方向のミガキ 口唇部はボタン状の貼付	ミガキ	良好	にぶい黄橙	にぶい黄橙	0.5mm以下の灰白・灰・赤褐色粒	
126	縄文土器	深鉢口縁~胴部	A区VI層SA2				ミガキ	ナデ	良好	にぶい褐	にぶい褐	2mm以下の黒・灰白・橙褐色粒、黒色光沢粒	外面はスス付着 内面は黒変
127	弥生土器	壺口縁~胴部	A区SA4				ナデ 4条の沈線文 口唇部は丁寧なナデ	ナデ ヘラ状工具による横・斜め方向のナデ	良好	橙	橙	5mm大の赤褐色粒 3mm以下の灰白・灰・褐・赤褐・黒褐色粒、透明光沢粒	風化気味
128	弥生土器	壺頭部~胴部	A区SA4				横方向のミガキ 刻目貼付突帯	斜め方向のミガキ	良好	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1mm以下の褐・赤褐・灰色粒	
129	弥生土器	壺底部	A区SA4			8.8	斜め・横方向のミガキ ナデ	ナデ	良好	暗灰 灰	明褐	3mm以下の灰白・灰・褐・赤褐・黒褐色粒 1mm以下の透明光沢粒	
130	弥生土器	甕口縁	A区SA4				ナデ 刻目貼付突帯 貼付突帯の上に連続押圧 刻目	ナデ	良好	にぶい橙	にぶい橙	2mm以下のにぶい赤褐・褐灰色粒、黒色光沢粒 1mm以下の灰黄褐色粒、黒色・透明光沢粒	
131	弥生土器	壺底部	B区V層				斜め方向のハケ目後、ナデ	不定方向のハケ目	良好	橙	灰黄	1mm以下の灰白・灰・黒褐色粒、透明光沢粒	
132	土師器	甕口縁~胴部	B区SC2				ナデ 横ナデ 刻目貼付突帯	ナデ 指頭痕	良好	にぶい橙 にぶい黄橙	浅黄橙	5mm以下の暗褐・褐・灰褐・にぶい赤褐・褐灰色粒 3mm以下のにぶい黄橙・明褐色・黒褐・明赤褐・明褐色粒、無色透明光沢粒	外面は一部黒変
133	土師器	甕口縁~胴部	B区SC2				粗いナデ 口唇部はナデ	斜め方向のハケ目 横ナデ後ナデ 指頭痕	良好	浅黄橙	にぶい黄橙 褐灰	3mm以下の黄灰・灰黄褐色粒 1.5mm以下の半透明粒	外面は少し風化 内面は黒変
134	土師器	壺底部	C区SA1				ナデ	ナデ	良好	オリブ黒 にぶい褐 にぶい赤褐	橙 にぶい黄褐	3mm以下の灰褐・褐灰色粒 2mm以下の浅黄橙・灰白・褐灰・明褐色粒、黒色柱状光沢粒、無色透明光沢粒	外面少し風化
135	土師器	壺底部	C区SA1				縦方向のナデ 粗いナデ 工具痕	ナデ	良好	にぶい黄橙	浅黄 褐灰 にぶい黄橙	2mm以下の褐色粒 1mm以下の黒・灰白・透明光沢粒	
136	土師器	甕胴部~底部	C区SA1			7.55	縦・斜め方向のナデ 不定方向の工具によるナデ	ナデ 横ナデ 指頭痕	良好	浅黄 黄灰	浅黄 黄灰	5mm以下の褐色粒 2mm以下の黒・黒色光沢色・半透明粒	
137	土師器	小型丸底壺胴部	C区SA1				ヘラナデ 黒斑	ヘラナデ後、指で調整	良好	橙灰	にぶい黄橙 褐灰	4mm程度の明赤褐色粒 2mm以下の浅黄橙・明褐色粒、無色透明光沢粒・黒色光沢粒	
138	土師器	高坏口縁~脚部	C区SA2				工具によるナデ 横ナデ 丁寧なナデ	横方向のミガキ 横ナデ 黒変	良好	明黄褐 黄灰 黒	明黄褐 黄灰 黒	2mm以下の灰白・灰・褐・黒褐色粒 1.5mm以下の透明・金色光沢粒、黒色粒	
139	土師器	小型丸底壺頭部~底部	C区SA2			胴径 8.25	横方向にミガキ後、縦方向にミガキ	ヘラナデ 指頭痕	良好	橙 にぶい黄橙	橙	2mm以下の無色透明光沢粒・赤褐色粒 1mm以下の灰白・灰褐・褐灰色粒、無色透明光沢粒	一部スス付着
140	土師器	高坏口縁~脚部	C区SA2				ナデ 横ナデ ミガキ 指頭痕	ナデ ミガキ	良好	橙	にぶい橙	2mm以下の黄褐色粒 1mm以下の灰白・灰褐・褐灰色粒	外面少し風化
141	土師器	壺胴部~底部	C区SA2				縦・斜め方向のミガキ	ナデ 指頭痕	良好	灰白 にぶい黄橙 灰黄 にぶい橙	浅黄橙	2mm以下の褐・灰白色粒	外面少し風化
142	土師器	高坏口縁~坏部	C区SA2				横方向のナデ ナデ後、斜め方向にミガキ	横方向のナデ ナデ後、斜め方向のミガキ	良好	にぶい黄橙	にぶい黄橙	3mm以下の灰白色粒 1mm以下の黒色光沢粒、無色透明光沢粒、灰・橙褐色粒	
143	土師器	高坏口縁	C区SA2				横方向のナデ後、斜め方向にミガキ 口唇部はナデ	横方向のナデ後、斜め方向にミガキ	良好	橙 黒 にぶい黄橙	橙 にぶい黄橙	微細な1.5mm以下の透明光沢・半透明粒、灰白・黒・赤褐色粒	
144	土師器	甕口縁	C区SA2				横方向のハケ目 口唇部は横方向のナデ	横方向のハケ目	良好	浅黄橙	浅黄橙	1.5mm以下の褐・灰白・黒色粒	外面にスス付着
145	土師器	甕頭部	C区SA2				斜め方向のハケ目 貼付刻目突帯	横・斜め方向のハケ目	良好	にぶい橙	にぶい黄橙	2mm以下の灰黄褐色粒 1mm以下の黒・にぶい橙・灰白光沢色粒	外面に黒斑
146	土師器	壺底部	C区SA2				縦・横・斜め方向のヘラナデ 指頭痕	ナデ 指頭痕	良好	にぶい黄橙	灰	5mm以下の灰白・にぶい黄橙・黄褐色粒 2mm以下の赤褐色粒、無色透明光沢粒	
147	土師器	甕口縁~頭部	C区V層				横方向のヘラナデ ナデ 刻目貼付突帯	横方向のヘラナデ ナデ 指頭痕	良好	褐灰	褐灰	4mm以下の暗灰・褐灰色粒 2mm以下の無色透明光沢粒、黒色柱状光沢粒、黒褐・浅黄褐色粒 0.5mm以下の灰白色粒	
148	土師器	甕口縁~胴部	C区V層				横方向のナデ 刻目貼付突帯	横方向のナデ	良好	浅黄褐	にぶい黄橙	6.5mm程度の褐色粒 1.5mm以下の無色透明光沢粒、半透明粒、浅黄・灰白・黒褐色粒	外面にスス・赤色顔料付着
149	土師器	甕頭部~胴部	C区V層				ナデ 横ナデ 刻目貼付突帯	工具によるナデ	良好	灰黄褐 黒	にぶい黄橙 暗灰	4mm以下の浅黄橙粒 2mm以下の褐灰・にぶい黄橙・灰白色粒、黒色柱状光沢粒 微細な無色透明光沢粒	外面にスス付着
150	土師器	甕頭部	C区V層				斜め方向のハケ目 刻目貼付突帯	斜め方向のハケ目 指頭痕	良好	にぶい黄橙	にぶい黄橙	3mm程度の灰褐色粒 2.5mm以下の褐灰色粒 1mm以下の透明光沢粒	

第6表 横市中原遺跡 土器観察表6

遺物番号	種別	器部位	出土地点	法量(cm)			手法・調整・文様ほか		焼成	色調		胎土の特徴	備考
				口径	底部	器高	外面	内面		外面	内面		
151	土師器	甕頭部	C区V層				ナテ 刻目貼付突帯	横方向のハケ目 指頭痕	良好	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2mm以下のにぶい赤褐・灰白色粒 1mm以下の微細な光沢粒	少し風化気味
152	土師器	甕頭部	C区V層				横ナテ 刻目貼付突帯	横、斜め方向のナテ 指頭痕	良好	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1mm以下のにぶい黄橙・灰白・黒色粒	
153	土師器	甕胴部	C区V層				斜め方向のナテ 刻目貼付突帯	斜め方向のナテ	良好	にぶい黄橙	灰黄褐 橙	1mm以下の白・褐色粒	外面はスス付着 内面は黒変
154	土師器	甕胴部	C区V層				横ナテ 刻目貼付突帯	斜め方向のナテ	良好	褐灰 にぶい黄橙	褐灰 にぶい黄橙	1mm以下の黄白・灰白・灰・褐・黒褐色 粒	
155	土師器	甕頭部～胴部	C区V層				工具による縦方向のナテ 貼付突帯	横ナテ	良好	橙	橙	2mm以下の灰白・灰・褐・赤褐・黒褐色 粒 1mm以下の透明光沢粒	外面にスス付着
156	土師器	甕胴部	C区V層				工具による縦・斜め方向 のナテ 刻目貼付突帯	斜め方向のナテ 縦方向のナテ	良好	にぶい赤褐 にぶい褐 明赤褐	にぶい赤褐	6mm大の灰白色粒 3mm以下の黄灰・灰・褐・赤褐・黒褐色 粒 2mm以下の透明・黒色光沢粒	106と124と 同一個体 内面は黒変
157	土師器	甕口縁～頭部	C区V層	25.4			斜め方向のナテ 横ナテ 刻目貼付突帯	横方向のナテ 指頭痕	良好	にぶい黄橙 灰黄褐 黒	にぶい褐	3mm以下のにぶい赤褐色粒 1.5mm以下の褐灰色粒、黒色光沢粒	外面は黒変
158	土師器	甕口縁～胴部	C区V層	24.2			縦方向のナテ 横方向のナテ 横ナテ 不定方向のナテ	横方向のナテ 工具による不定方向のナテ	良好	灰黄 暗灰 黄灰	にぶい黄橙 黒褐	2.5mm以下の灰褐色粒 1.5mm以下の褐灰・黒色粒	
159	土師器	甕頭部～胴部	C区V層				ナテ 刻目貼付突帯	横ナテ	良好	灰褐 暗灰	にぶい橙 灰	4mm以下の灰褐・褐灰・灰白色粒、黒色 透明光沢粒 2mm以下のにぶい赤褐・浅黄橙・褐色粒	外面はスス付着
160	土師器	甕頭部～胴部	C区V層				ナテ 刻目貼付突帯	ナテ 指頭痕	良好	浅黄橙 黄灰	浅黄橙	3mm以下の灰褐・橙・浅黄橙・褐色粒、黒色 柱状光沢粒 1mm以下の赤褐・灰白・にぶい橙・褐灰色 色粒	外面はスス付着
161	土師器	甕口縁	C区VI層				縦方向のヘラナテ 横方向のヘラナテ 刻目貼付突帯	ナテ	良好	橙 にぶい黄橙	橙 浅黄 黄灰	3.5mm以下の黄灰・赤褐・褐灰・灰白・ にぶい赤褐・にぶい橙・暗赤褐色粒、無色透 明光沢粒	内面は部分的に 黒変
162	土師器	甕頭部	C区V層				横ナテ ナテ 貼付突帯	横ナテ	良好	灰黄褐	褐灰 にぶい黄橙	1mm以下の灰白・黄白・灰・褐色粒、柱 状透明光沢粒、黒色光沢粒	
163	土師器	甕頭部	C区V層				ナテ 工具による斜め方向のナテ 貼付突帯	斜め方向のハケ目	良好	浅黄	にぶい黄橙 橙	1mm以下の灰白・褐・赤褐色粒、透明光 沢粒 0.5mm以下の黒褐色粒	
164	土師器	甕口縁～胴部	C区V層VI層				横、斜め方向のナテ 縦方向のハケ目 貼付突帯	横、斜め方向のナテ	良好	にぶい黄橙	灰黄褐	2mm以下の灰褐色粒 1mm以下の黒褐色粒 微細な角四石	外面はスス付着 内面は黒変
165	土師器	甕口縁	C区VI層				斜め方向のハケ目 貼付突帯	斜め方向のハケ目	良好	橙 黒褐	明赤褐	2mm以下の褐灰色粒、無色透明光沢粒 1mm以下の黄灰・褐色粒	外面はスス付着
166	土師器	甕頭部～胴部	C区VI層				縦方向のハケ目 工具による横ナテ 貼付突帯	斜め方向のハケ目 横方向のハケ目	良好	橙 にぶい黄橙	橙 にぶい黄橙	4mm以下の無色透明光沢粒、赤褐・灰白 色粒 2mm以下の黒色柱状光沢粒、褐灰・浅黄 橙・にぶい橙・褐色粒	
167	土師器	甕口縁	C区VI層				横ナテ 斜め方向のナテ 口唇部に浅い凹み	横ナテ 斜め方向のナテ	良好	にぶい黄橙	にぶい黄橙	5×8mmのにぶい黄橙の石粒 1mm以下の灰白色・黒色光沢粒	
168	土師器	甕口縁	C区V層				横方向のヘラナテ ナテ 指頭痕	横方向のヘラナテ 指頭痕	良好	褐灰	にぶい黄橙 褐灰	2mm以下の褐灰色・黒色柱状光沢粒、無 色透明光沢粒 0.5mm以下の浅黄橙・灰白色粒	
169	土師器	甕口縁	C区V層				横ナテ ナテ 指頭痕	横ナテ ナテ	良好	黒褐	にぶい黄橙	2mm以下の黒色柱状光沢粒、無色透明光 沢粒、褐灰・にぶい褐・浅黄橙・明褐色粒 0.5mm以下の灰白色粒	外面にスス付着
170	土師器	甕口縁	C区V層				斜め方向のハケ目 口唇部は横ナテ	横、斜め方向のハケ目 指頭痕	良好	にぶい黄橙 黒褐	にぶい橙	2mm以下のにぶい黄・黄灰粒 1mm以下の灰黄褐・灰白色粒	外面にスス付着
171	土師器	甕口縁～頭部	C区V層	20.8			横ナテ後、平行タタキ 口唇部は横ナテ	工具による横方向のナテ	良好	にぶい黄橙	灰黄褐	3mm以下の褐灰・褐・黒・黒褐色粒、透 明光沢粒	外面はスス付着 内面は黒変
172	土師器	甕口縁	C区V層				横方向のナテ	横方向のナテ	良好	にぶい黄橙	灰黄 黒褐	2mm以下の黒・灰黄褐色粒、黒色光沢粒	
173	土師器	甕底部	C区V層		7.2		横方向のナテ 縦方向のナテ 指頭痕	縦方向のナテ	良好	にぶい黄橙	灰黄褐	2mm以下の褐・茶褐・灰白色粒 1mm以下の黒色透明光沢粒	外面にスス付着 内面風化
174	土師器	甕底部	C区V層		6.2		ナテ 指頭痕	ナテ 指頭痕	良好	橙	にぶい黄橙	2mm以下の茶・褐・灰・灰白色粒 1mm以下の黒色光沢粒	
175	土師器	甕底部	C区V層		7		ナテ 指頭痕	ナテ 指頭痕	良好	にぶい褐	褐灰	3mm以下の黒・浅黄橙粒 2mm以下のにぶい赤褐・灰白色粒 1mm以下の黒色光沢粒	
176	土師器	甕底部	C区V層		11.6		斜め・横方向のヘラミガ キ	斜め方向のヘラミガキ	良好	にぶい黄橙 灰黄褐	褐灰	4mm以下の褐灰・にぶい黄橙粒 2mm以下の灰黄褐色粒、黒色粒透明光沢 粒	
177	土師器	甕胴部～底部	C区V層		8		工具によるナテ 横ナテ	工具による斜め方向のナテ	良好	にぶい黄橙	褐灰	1.5mm以下の半透明粒灰白色粒、褐灰・褐 色粒	内面はスス付着
178	土師器	甕胴部～底部	C区V層				ヘラ状工具による縦方向 のナテ 丁寧なナテ	縦方向の丁寧なナテ	良好	にぶい黄橙	灰黄 灰褐	2mm以下の褐・赤褐・黒褐色粒 1mm以下の黒色粒、透明光沢粒	黒・赤褐色の付 着
179	土師器	甕底部	C区V層				ナテ 一部斜め方向の工具痕	ナテ	良好	橙	にぶい橙	2mm以下の灰白・灰・褐・黒褐色粒 1.5mm以下の柱状黒色光沢粒	風化気味
180	土師器	甕底部	C区V層		4.9		ナテ	工具痕	良好	浅黄 灰黄	にぶい黄橙 灰黄	微細～2mm以下の黒・灰・黄褐色粒	内外面とも赤色 顔料付着 風化著しい

第7表 横市中原遺跡 土器観察表7

遺物番号	種別	器種部位	出土地点	法量 (cm)			手法・調整・文様ほか		焼成	色調		胎土の特徴	備考
				口径	底部	器高	外 面			外 面	内 面		
							外 面	内 面					
181	土師器	甕胴部～底部	C区V層				工具による縦方向のナデ	縦方向のナデ	良好	にぶい褐明赤褐	にぶい褐明赤褐	2mm以下の灰黄・灰白・灰・褐色粒 1.5mm以下の透明・黒色光沢粒	106と123と同一個体
182	土師器	甕底部	C区V層			4.8	工具による横・斜め方向のナデ	工具による横・斜め方向のナデ	良好	にぶい橙	橙	1mm以下の無色透明光沢粒、褐灰・黒褐・灰白粒	外面にスス付着 内面は黒変
183	土師器	甕底部	C区V層			5.6	不定方向のナデ	斜め方向のナデ 指頭痕	良好	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1mm以下の黒・灰褐色粒	外面にスス付着
184	土師器	甕底部	C区V層			6.9	縦方向のナデ 横ナデ 指頭痕 指ナデ	横方向のヘラナデ	良好	橙	褐灰	2mm以下の茶・褐・灰・灰白色粒 1mm以下の黒色光沢粒	
185	土師器	甕底部	C区V層			5.1	斜め方向のナデ 指頭痕	粗いナデ	良好	にぶい黄橙	灰	4mm以下の灰白・灰・褐・赤褐・黒褐色粒 1.5mm以下の透明光沢粒	
186	土師器	甕底部	C区V層			9.25	工具による横・斜め方向のナデ 横方向のナデ	工具による横方向のナデ	良好	にぶい黄橙	にぶい橙	3mm以下の暗赤褐色粒 1mm以下の褐灰・にぶい黄褐色粒、黒色光沢粒	
187	土師器	甕底部	C区V層			8.9	横方向のナデ	工具による横・斜め方向のナデ	良好	にぶい黄橙 灰黄褐	にぶい黄橙 灰黄褐	2mm以下の灰褐・褐灰・黒色粒	
188	土師器	甕底部	C区V層				横方向のナデ	横・斜め方向のナデ	良好	にぶい橙	にぶい橙	2mm以下の灰赤色粒、半透明光沢粒 1mm以下の褐灰・黒色粒、黒色光沢粒	
189	土師器	甕底部	C区VI層				縦方向のナデ 横方向のナデ	縦方向のナデ	良好	橙	黒褐	3mm以下の灰白色粒 2mm以下の透明光沢粒 1mm以下の黒色光沢粒	外面にスス付着
190	土師器	小型甕口縁～胴部	A区V層	12.6			縦方向のハケ目 口唇部はナデ	粗いナデ ケズリ	良好	にぶい橙	にぶい黄橙	4mm以下の灰白色粒	186と同一個体
191	土師器	小型甕底部	A区V層				不定方向のハケ目	粗いナデ 指頭痕	良好	にぶい赤褐 灰黄褐	にぶい黄橙	4mm以下の灰白色粒	185と同一個体
192	土師器	甕口縁	C区V層				横方向のナデ 指頭痕 口唇部は横方向のナデ	横方向のナデ 指頭痕	良好	にぶい黄橙 灰黄褐	にぶい黄橙 褐灰	1.5mm以下の無色透明光沢粒、半透明粒、 浅黄・灰白・黒褐色粒	
193	土師器	甕胴部	C区V層				工具による縦・横方向のナデ	工具による不定方向のナデ	良好	にぶい黄橙 黒褐	にぶい黄橙 灰黄褐	1mm以下の褐灰色粒、半透明灰白色粒	風化著しい 外面にスス付着 内面に炭化物付着
194	土師器	甕底部	C区V層				丁寧なナデ後、縦方向のミガキ	丁寧なナデ ミガキ	良好	灰黄褐 黒	にぶい黄橙 黒	微細～2mm以下の赤褐・黄橙・黒・灰白粒 透明光沢粒、黒色光沢粒	外面に赤色顔料付着 内外面とも黒変
195	土師器	甕底部	C区VI層				ナデ	ナデ 指頭痕	良好	にぶい褐	にぶい黄橙	1mm以下の褐灰・灰褐・にぶい黄褐・黒褐色粒、黒色透明光沢粒、無色透明光沢粒	外面はスス付着 及び少し風化
196	土師器	高坏部～裾部	C区V層			16.1	縦方向のミガキ 横ナデ後、斜め方向のミガキ	丁寧なナデ 工具による斜め方向のナデ	良好	にぶい橙 にぶい黄橙	にぶい黄橙	微細～2mm以下の黒・黒褐・灰・灰白粒、 透明光沢粒	
197	土師器	高坏部	C区SA2層				斜め方向にヘラミガキ ミガキ後、横方向にナデ	工具を回転しながらのナデ	良好	にぶい黄橙	黄灰	1mm以下のにぶい赤褐・灰白色粒、黒色光沢粒	
198	土師器	高坏部	C区V層				縦方向のナデ ナデ	横ナデ 横方向のナデ	良好	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1.5mm以下の褐灰・にぶい褐・黒色粒、黒色透明光沢粒	
199	土師器	高坏部	C区V層				斜め方向のミガキ 横ナデ	横ナデ 指頭痕	良好	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1mm以下のにぶい赤褐・浅黄橙粒、黒色柱状光沢粒、無色透明光沢粒	内面にスス付着
200	土師器	高坏部	C区V層				ミガキ	横ナデ	良好	橙 にぶい黄橙	にぶい黄橙	2mm以下の黒・にぶい黄橙・褐灰色粒、無色透明光沢粒、黒色柱状光沢粒	外面にスス付着
201	土師器	鉢口縁	C区V層				横ナデ後のナデ 口唇部に工具による沈線	横ナデ	良好	にぶい黄橙 黒	にぶい黄橙 にぶい橙	2mm以下のにぶい橙色粒 1mm以下の灰白色粒	外面にスス付着
202	土師器	坏口縁～底部	A区V層	13.2	8.2		回転ナデ	ナデ	良好	浅黄橙	浅黄橙	3mm以下のにぶい黄褐色粒 1mm以下の黒・黄褐色粒	

第8表 横市中原遺跡 石器計測表

番号	出土地点	器種	計測値				石材	備考
			最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)		
203	A区SA2	敲石	7.15	6.35	4.5	306.0	砂岩	
204	A区SA4	磨石	6.6	5.6	3.6	164.0	砂岩	
205	A区SE-1	磨製石斧	4.45	3.3	1.8	26.6	砂岩	
206	C区SA2	石皿	37.3	32.3	5.9	8000.0	輝石安山岩	
207	A区V層	石鏃未製品	2.7	2.4	1.0	5.0	チャート	
208	A区VI層	石鏃未製品	3.3	2.9	1.2	11.0	石英	
209	C区V層	石鏃未製品	5.7	5.1	1.4	23.2	砂岩	
210	A区VI層	石鏃	2.3	1.4	0.8	2.0	チャート	
211	C区V層	石鏃	2.0	1.7	0.8	1.9	サヌカイト	
212	C区V層	石鏃	3.05	1.3	0.5	1.6	チャート	
213	A区VI層	スクレイパー	10.1	5.9	1.1	118.0	輝石安山岩	
214	A区V層	スクレイパー	11.3	4.4	2.5	100.0	ホルンフェルス	
215	C区V層	スクレイパー	7.0	7.4	1.5	70.0	輝石安山岩	
216	C区VI層	スクレイパー	4.1	4.1	1.3	19.0	輝石安山岩	
217	A区V層	剥片	8.0	3.1	1.5	37.0	輝石安山岩	石斧関連資料
218	A区VI層	剥片	11.5	6.9	4.4	282.0	輝石安山岩	石斧関連資料
219	A区V層	剥片	2.3	1.6	0.3	1.0	サヌカイト	
220	C区V層	剥片	10.2	7.2	3.0	194.0	輝石安山岩	石斧関連資料
221	C区V層	剥片	15.2	4.3	1.9	166.0	輝石安山岩	石斧関連資料
222	C区V層	剥片	6.1	10.3	2.3	130.0	輝石安山岩	石斧関連資料
223	C区V層	剥片	8.7	7.6	1.2	68.0	砂岩	石斧関連資料
224	B区VI層	剥片	10.3	5.8	2.4	132.0	輝石安山岩	石斧関連資料
225	A区V層	二次加工剥片	1.8	1.3	0.8	1.0	黒曜石	
226	C区V層	二次加工剥片	2.2	1.6	0.5	2.0	チャート	
227	C区IV層	二次加工剥片	3.35	1.95	1.15	7.0	石英	
228	A区VI層	二次加工剥片	12.1	5.2	4.9	292.0	輝石安山岩	石斧関連資料
229	A区VI層	二次加工剥片	11.0	4.4	1.8	83.0	砂岩	石斧関連資料
230	A区V層	二次加工剥片	10.2	8.3	2.6	218.0	輝石安山岩	石斧関連資料
231	A区V層	二次加工剥片	5.7	1.8	1.5	16.0	輝石安山岩	石斧関連資料
232	C区V層	使用痕剥片	12.9	6.5	1.5	142.0	砂岩	
233	A区V層	石核	15.2	9.1	6.75	1270.0	輝石安山岩	石斧関連資料
234	A区VI層	石核	10.6	9.4	4.8	690.0	輝石安山岩	石斧関連資料
235	A区VI層	石核	4.4	4.9	4.5	144.0	輝石安山岩	石斧関連資料
236	A区VI層	石核	1.75	2.05	2.3	12.0	黒曜石	
237	C区V層	石核	9.1	7.2	3.0	382.0	輝石安山岩	石斧関連資料
238	C区V層	石核	12.8	7.8	6.4	645.0	輝石安山岩	石斧関連資料
239	C区V層	石核	4.3	4.5	2.1	37.0	チャート	
240	C区V層	石核	3.2	2.3	1.5	9.0	ホルンフェルス	
241	A区V層	打製石斧	14.0	6.7	2.1	188.0	輝石安山岩	
242	A区V層	打製石斧	11.7	5.2	1.5	110.0	ホルンフェルス	
243	A区VI層	打製石斧	15.7	10.2	2.05	358.0	輝石安山岩	
244	A区VI層	打製石斧	6.9	5.8	1.5	76.0	輝石安山岩	
245	A区VI層	打製石斧	10.2	6.1	1.9	116.0	砂岩	
246	C区V層	打製石斧	5.3	6.1	1.4	67.0	輝石安山岩	
247	C区V層	打製石斧	3.0	3.8	1.2	15.0	輝石安山岩	
248	C区V層	打製石斧	15.9	6.4	2.2	180.0	砂岩	
249	C区V層	磨製石斧	7.7	6.1	2.5	208.0	砂岩	
250	A区VI層	磨製石斧	6.4	2.5	1.4	32.0	砂岩	
251	A区V層	磨製石斧	4.9	3.4	2.3	47.0	砂岩	
252	A区V層	磨製石斧	5.8	3.8	2.8	61.0	ホルンフェルス	
253	C区V層	磨製石斧	8.1	5.7	1.5	91.0	ホルンフェルス	
254	A区VI層	敲石	5.7	5.6	5.3	220.0	輝石安山岩	
255	A区V層	敲石	5.3	4.8	3.3	102.0	輝石安山岩	
256	A区VI層	敲石	6.0	5.4	3.5	186.0	輝石安山岩	
257	A区V層	敲石	6.4	6.4	2.1	97.0	砂岩	
258	A区VI層	敲石	6.45	4.95	2.7	122.0	砂岩	
259	A区V層	磨石	6.5	5.05	5.45	243.7	輝石安山岩	
260	A区V層	磨石	6.2	10.3	4.9	404.8	砂岩	
261	A区VI層	磨石	10.8	9.15	4.2	550.0	砂岩	
262	C区VI層	磨石	13.2	10.3	5.1	950.0	溶結凝灰岩	
263	C区V層	磨石	6.5	6.8	3.1	304.0	砂岩	
264	B区V層	砥石	8.2	7.5	0.6	39.9	砂岩	
265	C区V層	砥石	6.3	2.85	1.75	64.0	粘板岩	
266	C区V層	石皿	24.2	17.8	2.4	930.0	砂岩	
267	B区V層	石庖丁	9.0	4.5	0.9	59.2	ホルンフェルス	
268	C区VI層	擦痕ある石器	4.8	3.2	0.6	13.0	頁岩	
269	A区VI層	異形石器	1.1	1.8	0.4	0.6	チャート	

第Ⅳ章 まとめ

横市中原遺跡は、庄内川・横市川他の中小河川によって開析されつつある月野原・牧の原・蓑原各台地の西方に広がる低丘陵に続く微高地上に点在した遺跡群の一つであったことが明らかになった。これらの遺跡は、縄文時代から断続的ながらも連綿と営まれており、一帯が各時代を通じて人々の生活にとって適地であったことを窺わせる。

ここでは、調査で確認された遺構や遺物について簡単にまとめてみたい。

縄文時代

縄文時代の遺構としては、A区で竪穴住居跡を3軒と土坑7基を検出した。しかし、第Ⅶ層（御池軽石層）上面で最終的な遺構の検出を行ったため、竪穴住居跡の大半は床面のみの検出である。平面プランの範囲と第Ⅵ層の遺物分布がほぼ重なることから、遺構のほとんどは第Ⅵ層を掘り込んで構築されているものと思われる。埋土出土の土器が小片で少量のため、断定することは難しいが、埋土状況及び出土遺物から後期から晩期にかけての遺構と考えられる。竪穴住居跡SA1は方形を呈し、柱穴を1基のみ検出した。SA2は柱穴2基を有する隅丸方形住居で焼土坑から外面にススが付着した深鉢や炭化した種子、敲石等が出土した。SA3は方形プランを呈し、柱穴を4基と中央に土坑を検出した。土坑はほとんど楕円形かそれに類似したプランを呈し、埋土も同じように類似し、自然堆積している。出土遺物は少ないが、深鉢の胴部や粗製浅鉢で編布圧痕の底部が出土した土坑も見られた。

縄文時代の土器は後期から晩期のものが多くを占める。後期の土器としては、貝殻腹縁による連続刺突文を施す丸尾式と思われる土器等があるが個体数は非常に少ない。晩期の土器として、主なものは組織痕土器や孔列文土器、貼付刻目突帯文土器、黒色磨研土器の黒川式土器と思われる土器等がある。当遺跡に隣接する牧の原第2遺跡で組織痕土器、近隣の蓑原遺跡では黒川式土器や貼付突帯文土器、肱穴遺跡では刻目突帯文土器や組織痕土器、中尾山・馬渡遺跡では孔列文土器や組織痕土器等が出土しており、当遺跡との関連性が注目される。

弥生時代

弥生時代の遺構では、A区で竪穴住居跡を1軒検出した。平面プランは方形を呈し、柱穴は1基のみの検出である。出土遺物は貼付刻目突帯の甕や壺などが出土しており、前期の土器と考えられる。また、B区で石庖丁が1点出土しているが遺構に伴わず、包含層中からの出土である。当遺跡南東の坂元A遺跡では概に縄文時代晩期の水田跡が確認されており、当遺跡との関連性も考えられる。しかし、遺構数や遺物量が少ないため、弥生時代の生活の様子を今回くわしく把握することはできなかった。

古墳時代

古墳時代の遺構では、B区で土坑を3基とC区で竪穴住居跡を2軒検出した。B区のSC2では古墳時代の頸部に貼付刻目突帯の甕が数点出土した。C区のSA1は方形を呈するもので、柱穴を4基検出した。また、中央部に焼土坑も確認できた。出土遺物は甕や丸底の壺等である。SA2も方形を呈するもので、柱穴を2基検出し、また、間仕切り壁も造られている。出土遺物は高坏や貼付刻目突帯を持つ甕、丸底や平底の壺等である。

古墳時代の土器については甕・壺・高坏・鉢・坏などが出土しているが、甕が主流を成し、貼付突帯を持たないものと持つものに分類できる。前者は頸部にくびれのあるものと無いものとに分けられる。

後者は南九州独自の成川式土器で頸部にくびれを持ち、くびれ部およびくびれ部下に貼付刻目突帯を持つものと頸部にくびれを持たないものに分けられる。これらの土器は県内においてえびの市妙見遺跡や高原町荒迫遺跡等で報告されている。これらについては、6世紀中頃の年代観が与えられているが、当遺跡においては出土遺物の特徴も踏まえて、6世紀前半から中頃の年代観が比定される。当遺跡に隣接する上牧第2遺跡や母智丘原第2遺跡、牧の原第2遺跡等でも成川式土器と思われる土器が出土しており、当遺跡との関連性が窺える。

中世

中世は桜島文明軽石の残存状況が最も良好であったD区北端部で小溝状遺構（畠跡）を確認することができた。遺物が出土していないため具体的な造営年代は判断できないが、桜島文明軽石が堆積した小溝の復旧を行っていることから、15世紀後半には小溝状遺構の造営をおこなっていたと思われる。また、この小溝状遺構を造営した集団の生活跡については、今回の調査では検出することができなかった。なお、近接する中尾遺跡・蓑原遺跡でも桜島文明軽石によってパックされた畠跡が検出されているので、今後の検証により当時の生活跡や土地利用のあり方が徐々に明らかにされていくものと思われる。

石器及び鉄器

石器は輝石安山岩・砂岩製の石斧とその他チャート・ホルンフェルス等の剥片石器に大別される。剥片石器類では石鏃、スクレイパー、石錐、石核、剥片などいろいろな器種の石器が出土した。石材は砂岩、チャート、黒曜石、ホルンフェルス、サヌカイトなど多様である。一方石斧については、ほとんど輝石安山岩製で占められる。この石材は母智丘周辺が原産地であると思われ、石斧製作にあたっては、在地石材が多用された事が考えられる。また、製作途上の石斧や輝石安山岩の母岩、石核、剥片も多量に出土していることから、遺跡内で石斧製作も行われていたものと考えられる。また、敲石・磨石・砥石等も出土している。

鉄器は鉄鏃1点のみの出土であり、時期については不明である。

参考・引用文献

- | | | |
|--|--------------|------|
| 「黒土遺跡」『都城市文化財調査報告書』第28集 | 宮崎県都城市教育委員会 | 1994 |
| 「荒迫遺跡」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』第11集 | 宮崎県埋蔵文化財センター | 1998 |
| 「牧の原第2遺跡」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』第19集 | 宮崎県埋蔵文化財センター | 1999 |
| 「上牧第2遺跡 母智丘原第2遺跡」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』第18集 | 宮崎県埋蔵文化財センター | 1999 |
| 「梅北佐土原遺跡 中尾遺跡 蓑原遺跡」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』第42集 | 宮崎県埋蔵文化財センター | 2001 |
| 「木脇遺跡」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』第43集 | 宮崎県埋蔵文化財センター | 2001 |
| 「王子原遺跡」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』第45集 | 宮崎県埋蔵文化財センター | 2001 |
| 「布平遺跡 古城遺跡」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』第74集 | 宮崎県埋蔵文化財センター | 2003 |
| 「横市地区遺跡群」『都城市文化財調査報告書』第50集 | 都城市教育委員会 | 2000 |
| 「横市地区遺跡群」『都城市文化財調査報告書』第55集 | 都城市教育委員会 | 2001 |
| 「古文化談叢」第43集 | 九州古文化研究会 | 1999 |



横市中原遺跡 全景（南上空から）



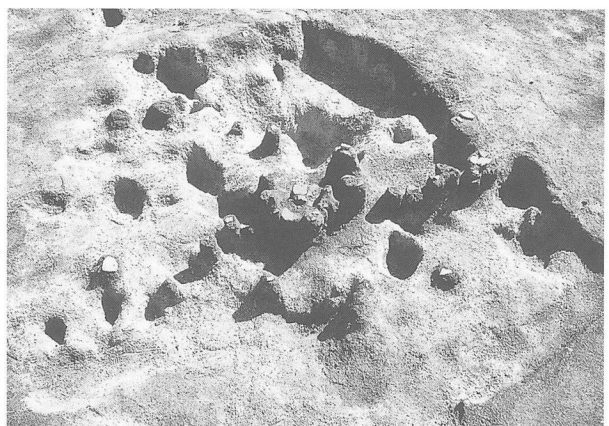
横市中原遺跡 A・B区遺構検出状況（垂直）



横市中原遺跡 C区遺構検出状況（垂直）



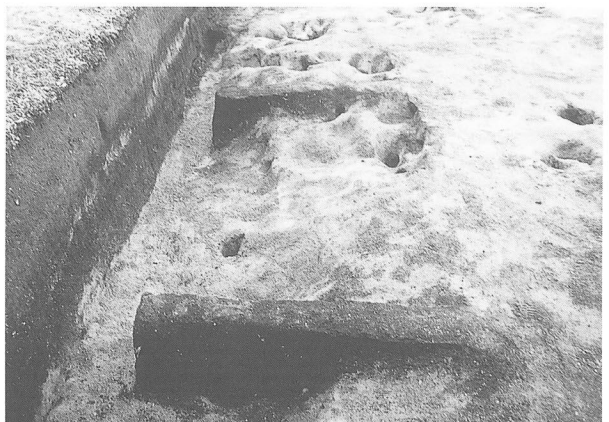
横市中原遺跡 A区SA2検出状況（南東から）



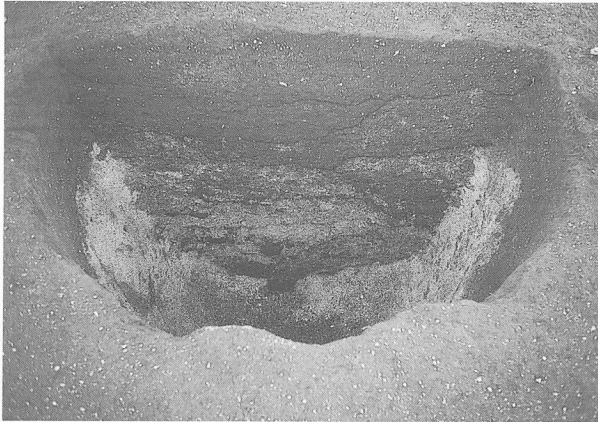
横市中原遺跡 A区SA2遺物出土状況（南東から）



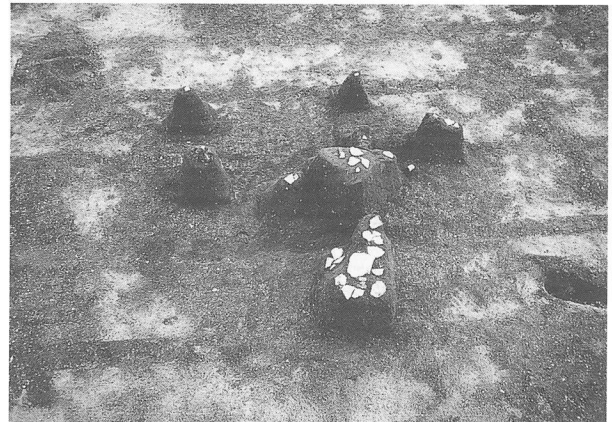
横市中原遺跡 A区SA3埋土状況（北から）



横市中原遺跡 A区SE1完掘状況（東から）



横市中原遺跡 B区SC1半截状況（東から）



横市中原遺跡 B区SC2検出状況（西から）



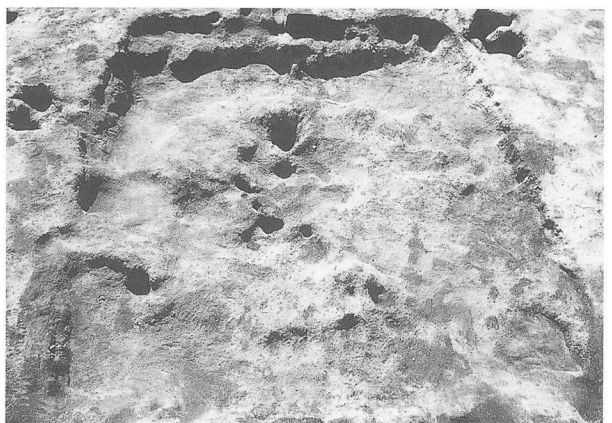
横市中原遺跡 C区SA1遺物出土状況（東から）



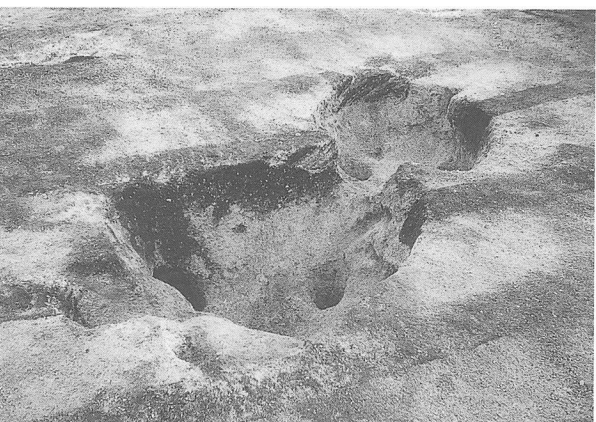
横市中原遺跡 C区SA1完掘状況（東から）



横市中原遺跡 C区SA2検出状況（南東から）



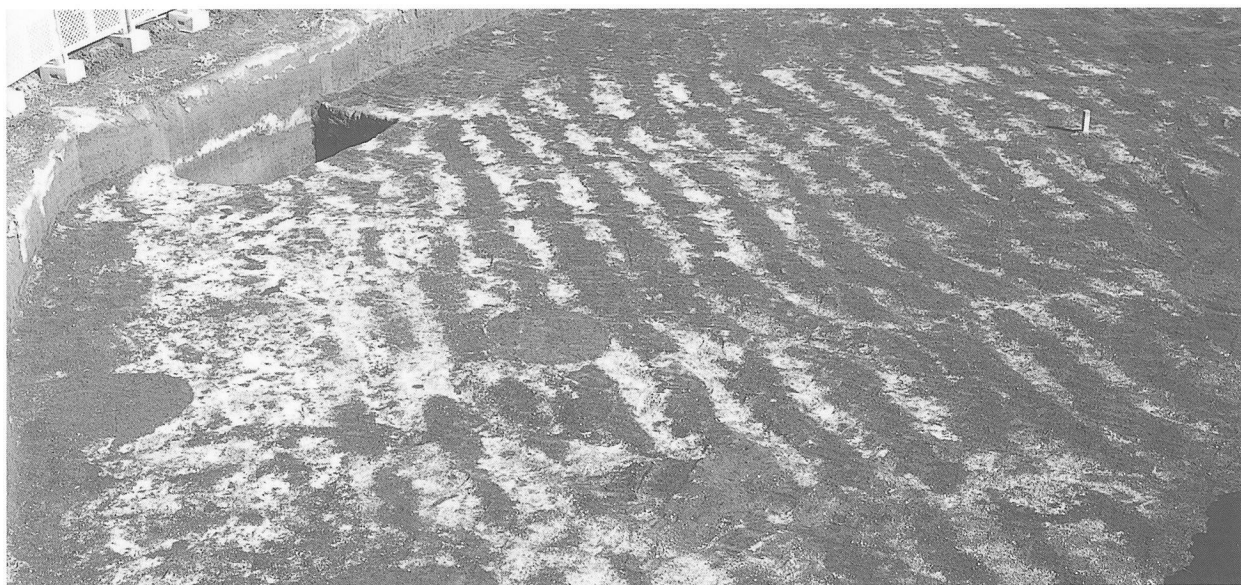
横市中原遺跡 C区SA2完掘状況（東から）



横市中原遺跡 C区SC2・SC3完掘状況（南西から）



横市中原遺跡 C区SC4完掘状況（南から）



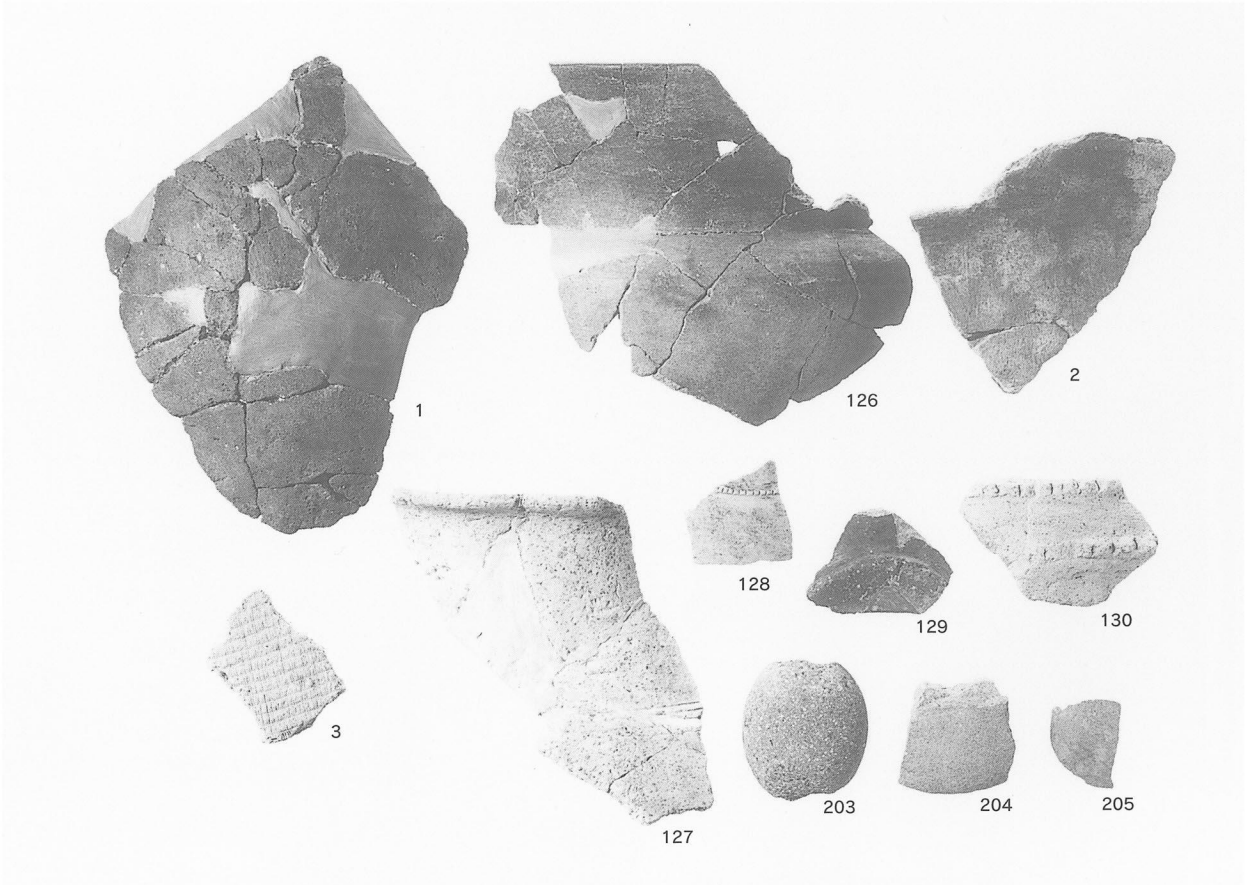
横市中原遺跡 C区小溝状遺構検出状況（北西から）



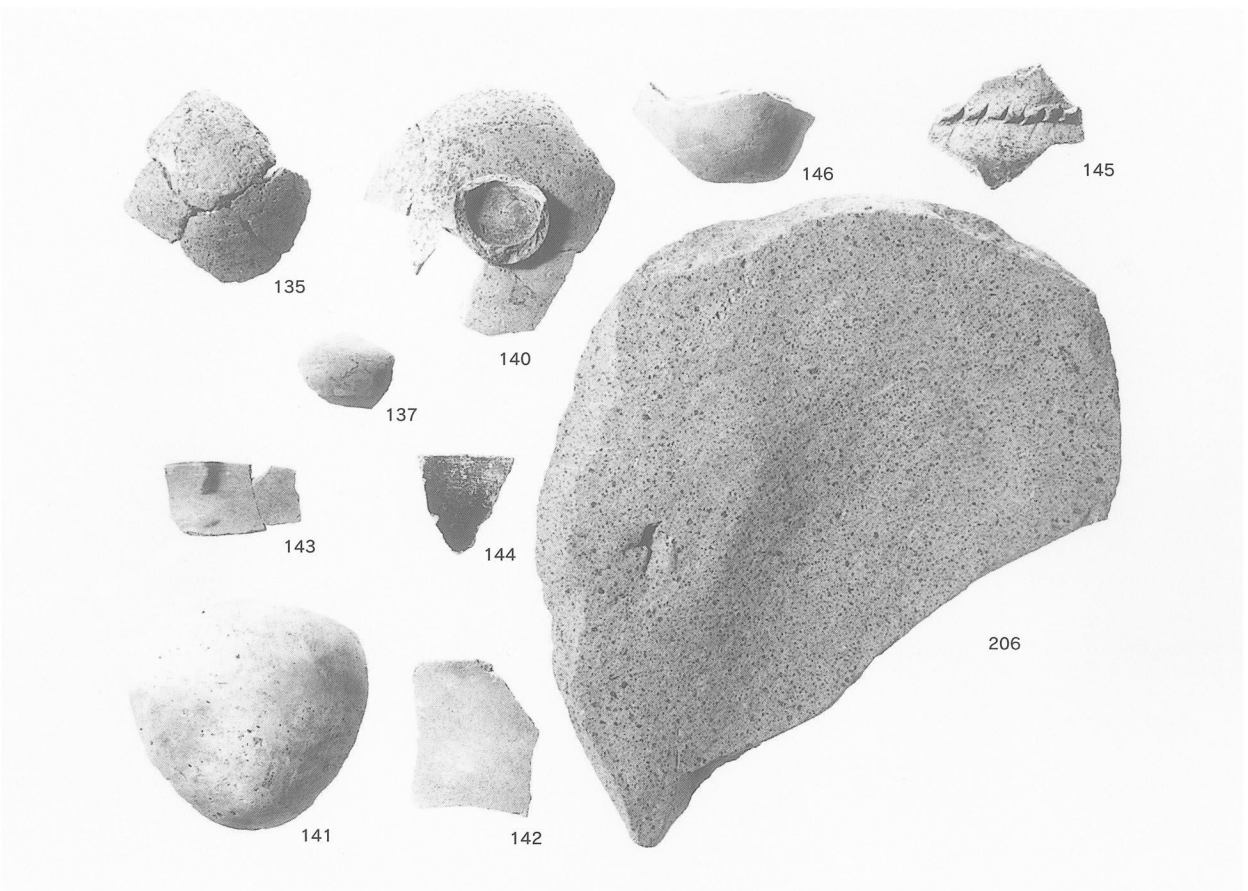
横市中原遺跡 C区小溝状遺構完掘状況（垂直）



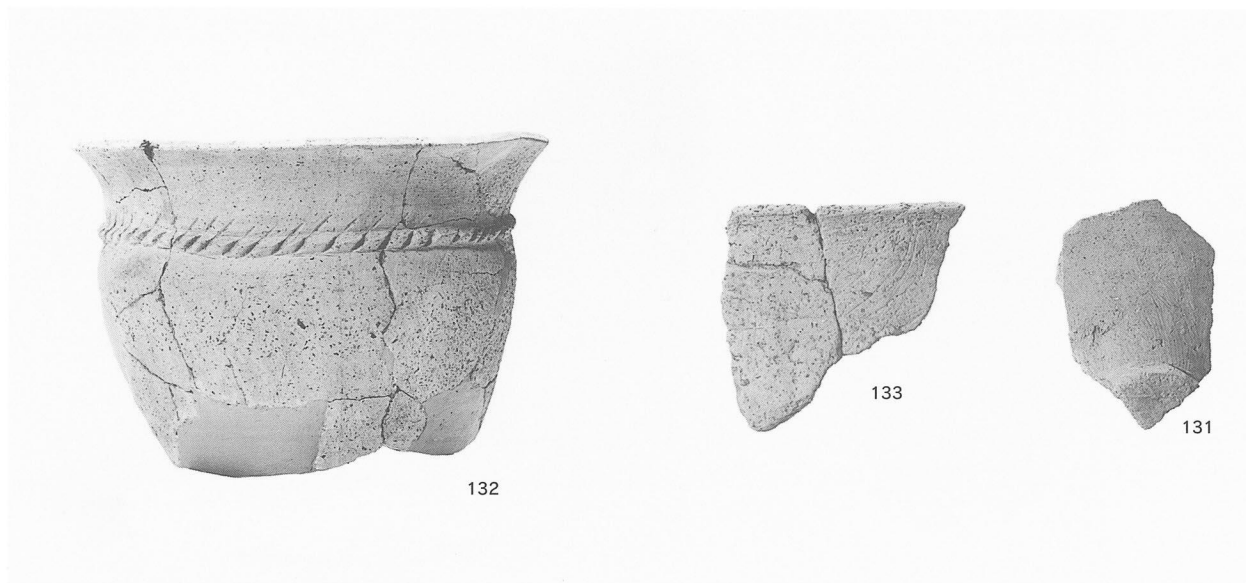
横市中原遺跡 C区小溝状遺構下復旧痕検出状況（北西から）



横市中原遺跡 A区遺構内出土遺物 (SA2:1・126・203、SA4:127~130・204、SC4:2、SC6:3、SE1:205)



横市中原遺跡 C区SA1・SA2出土遺物 (SA1:135・137、SA2:140~146・206)



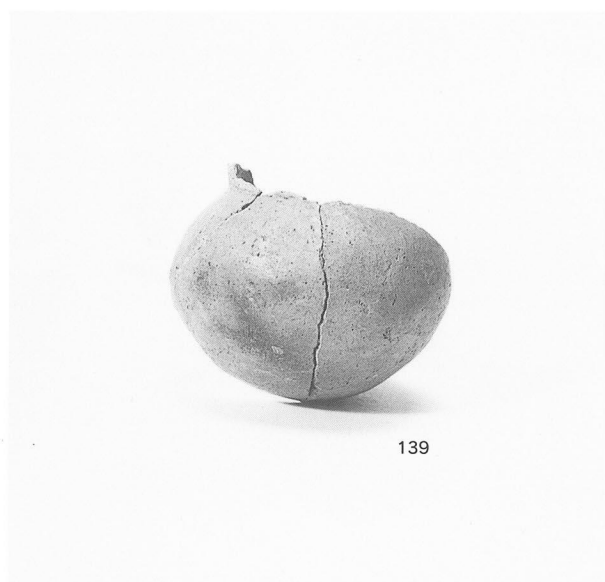
横市中原遺跡 B区出土遺物 (甕、SC2:132・133、131 (V層))



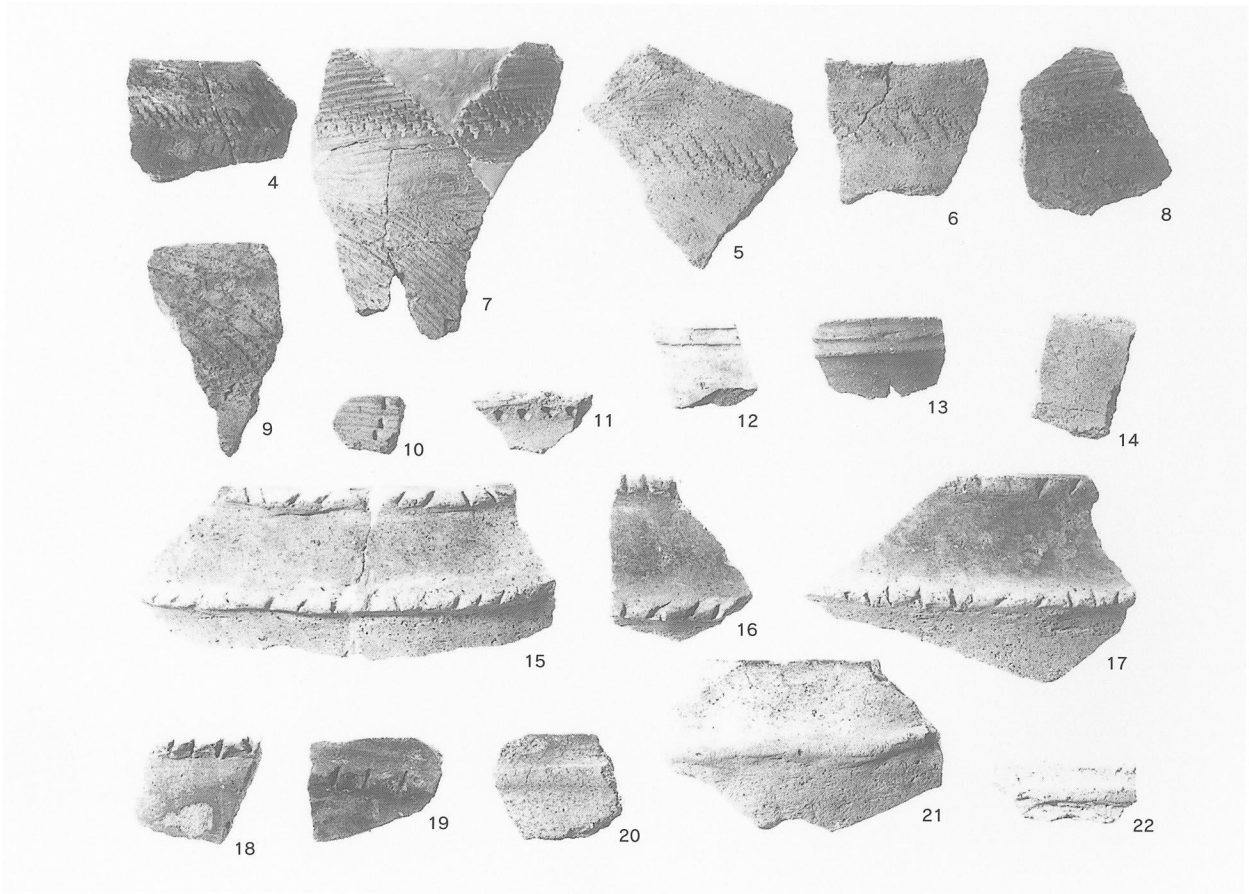
横市中原遺跡 C区SA1出土遺物 (甕・壺)



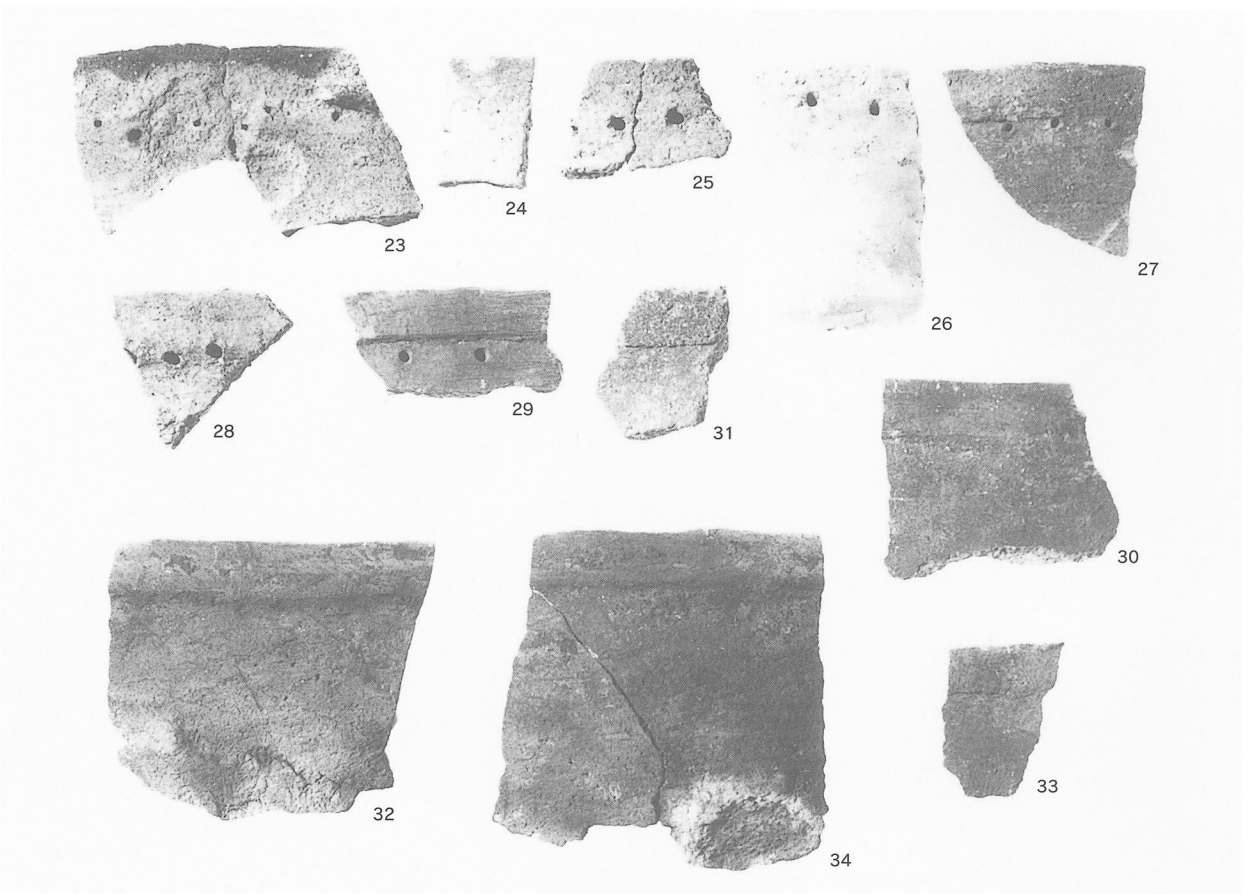
横市中原遺跡 C区SA2出土遺物 (高坏)



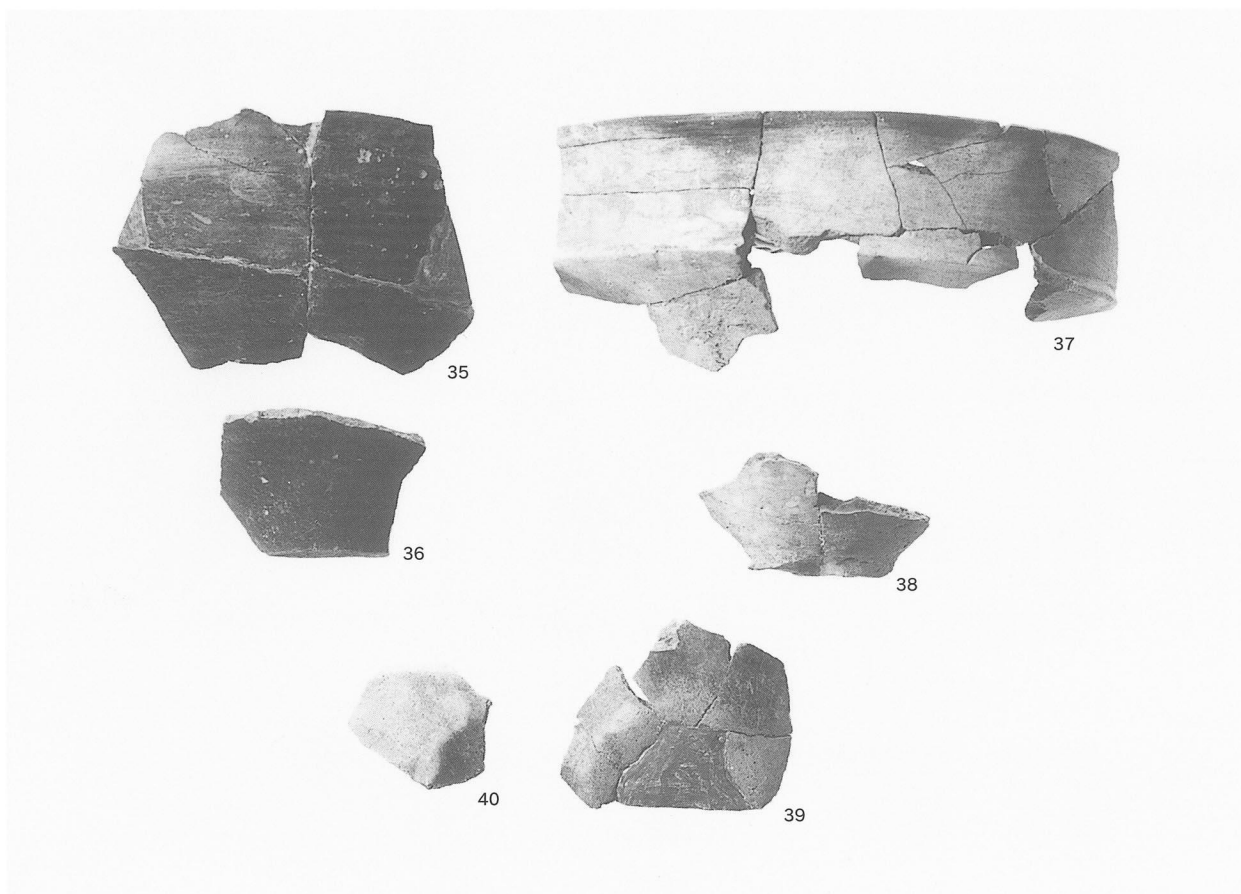
横市中原遺跡 C区SA2出土遺物 (小型丸底壺)



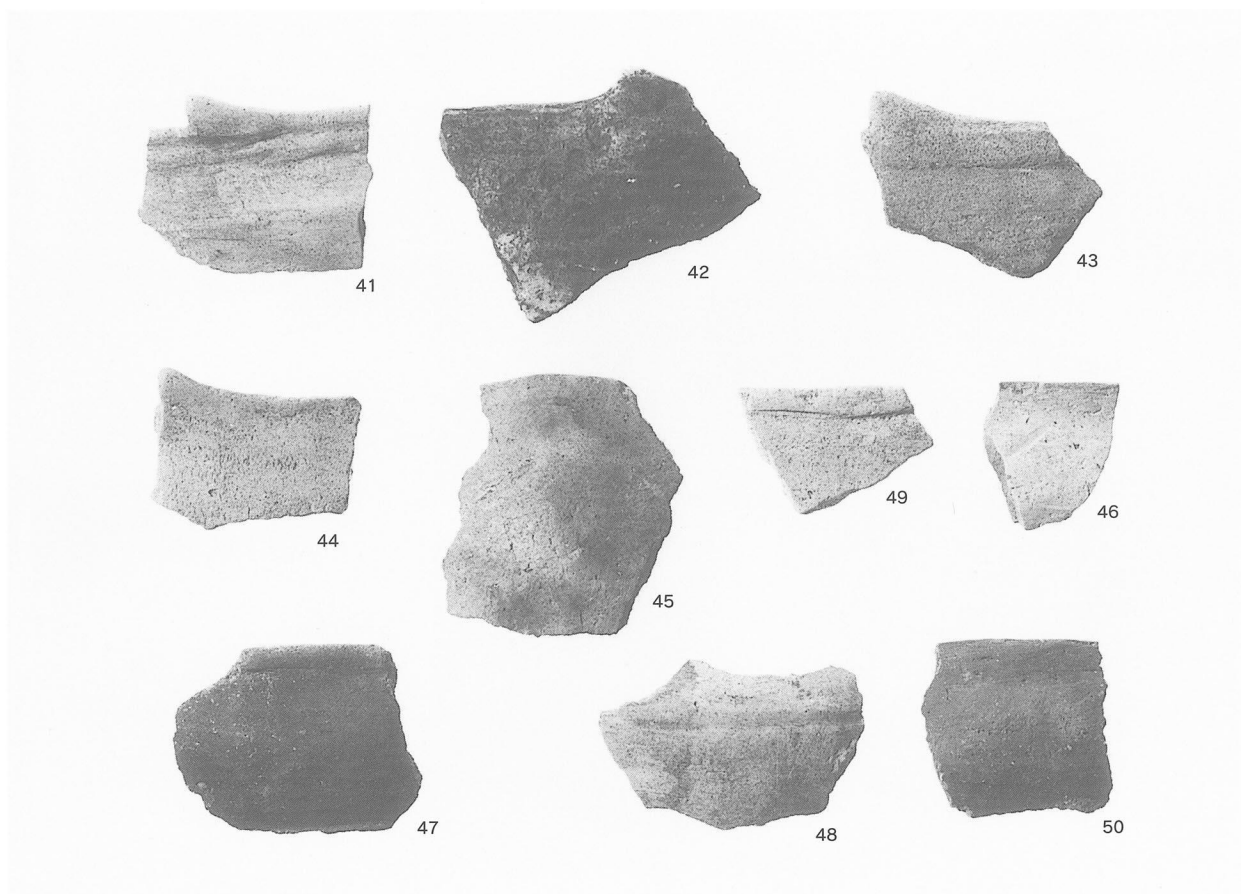
横市中原遺跡 縄文土器1 (I・II類)



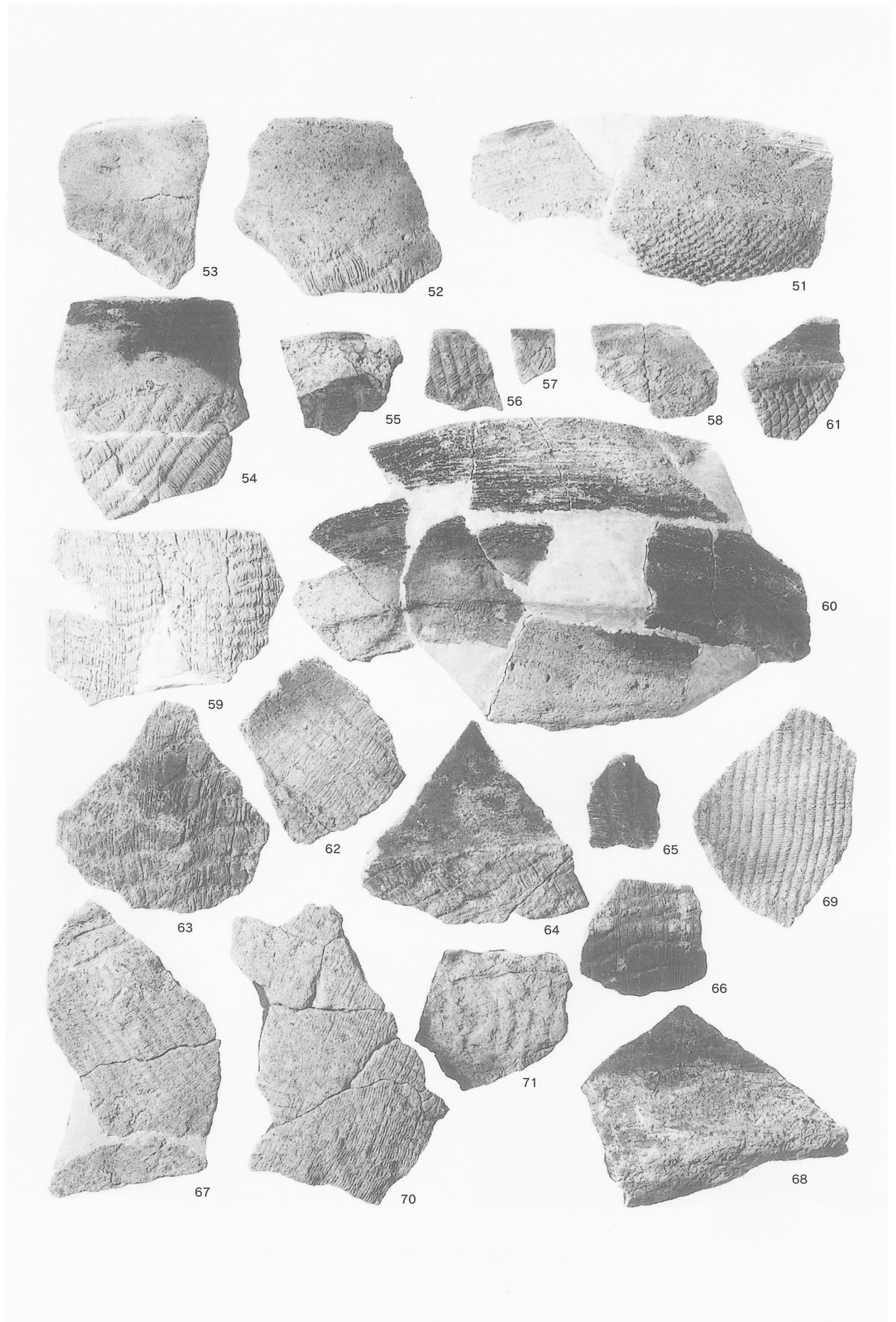
横市中原遺跡 縄文土器2 (III・IV類)



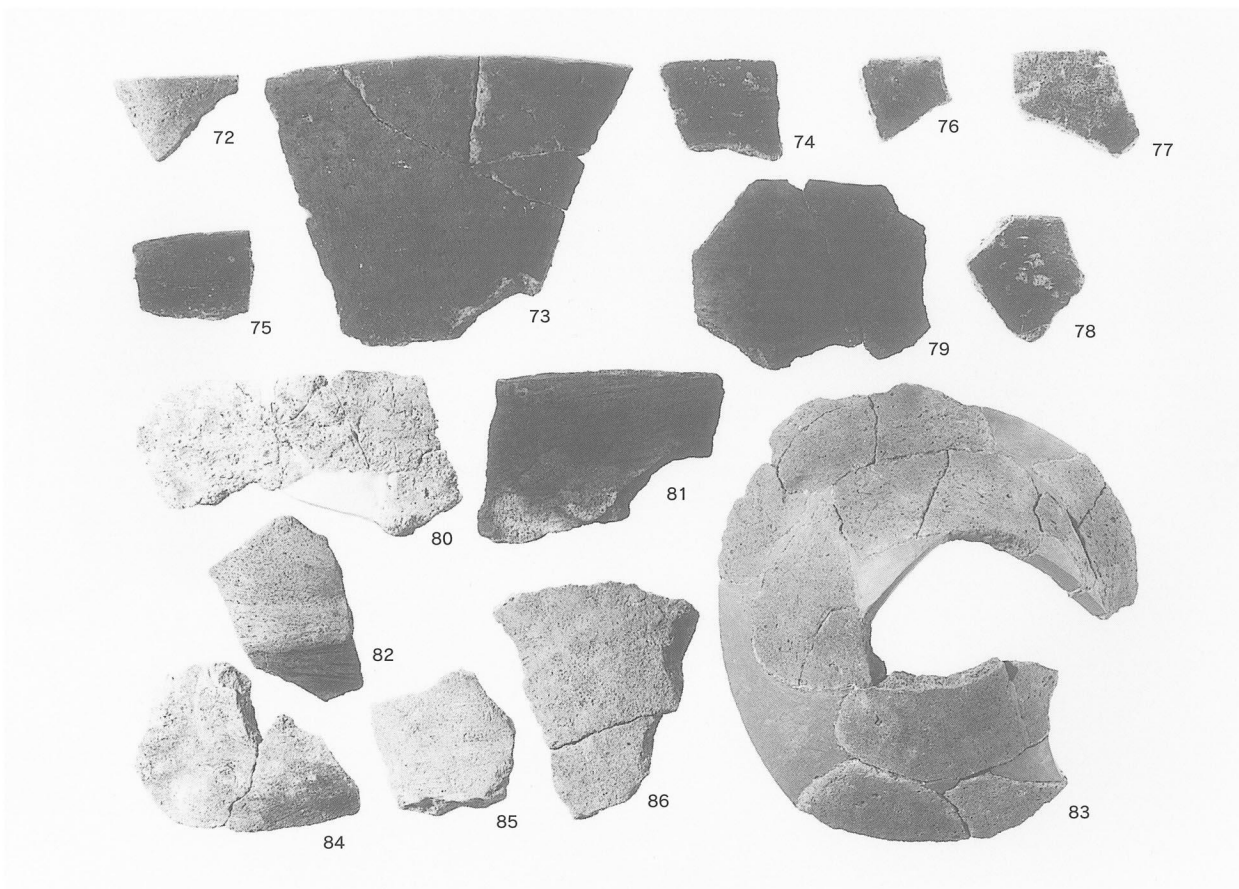
横市中原遺跡 縄文土器3 (V類)



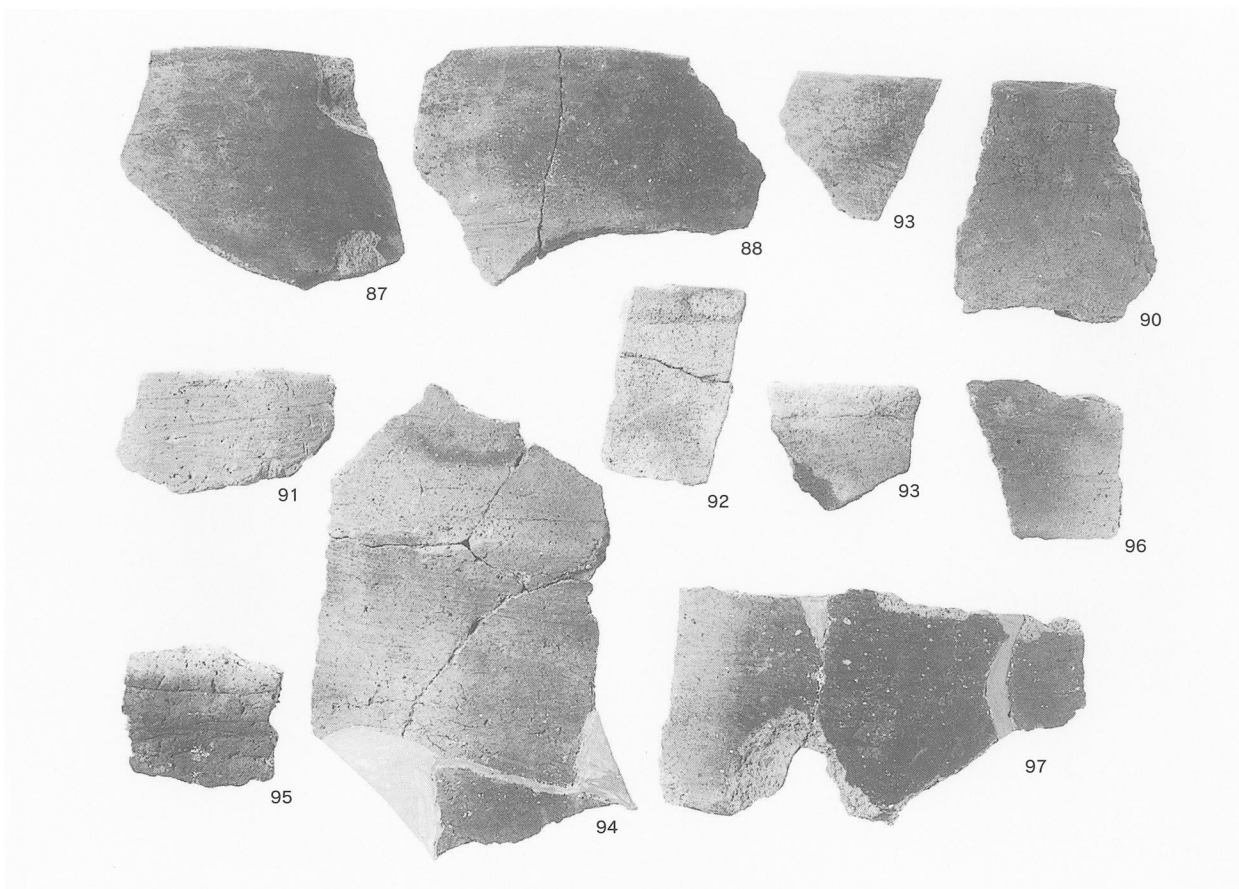
横市中原遺跡 縄文土器4 (VI類)



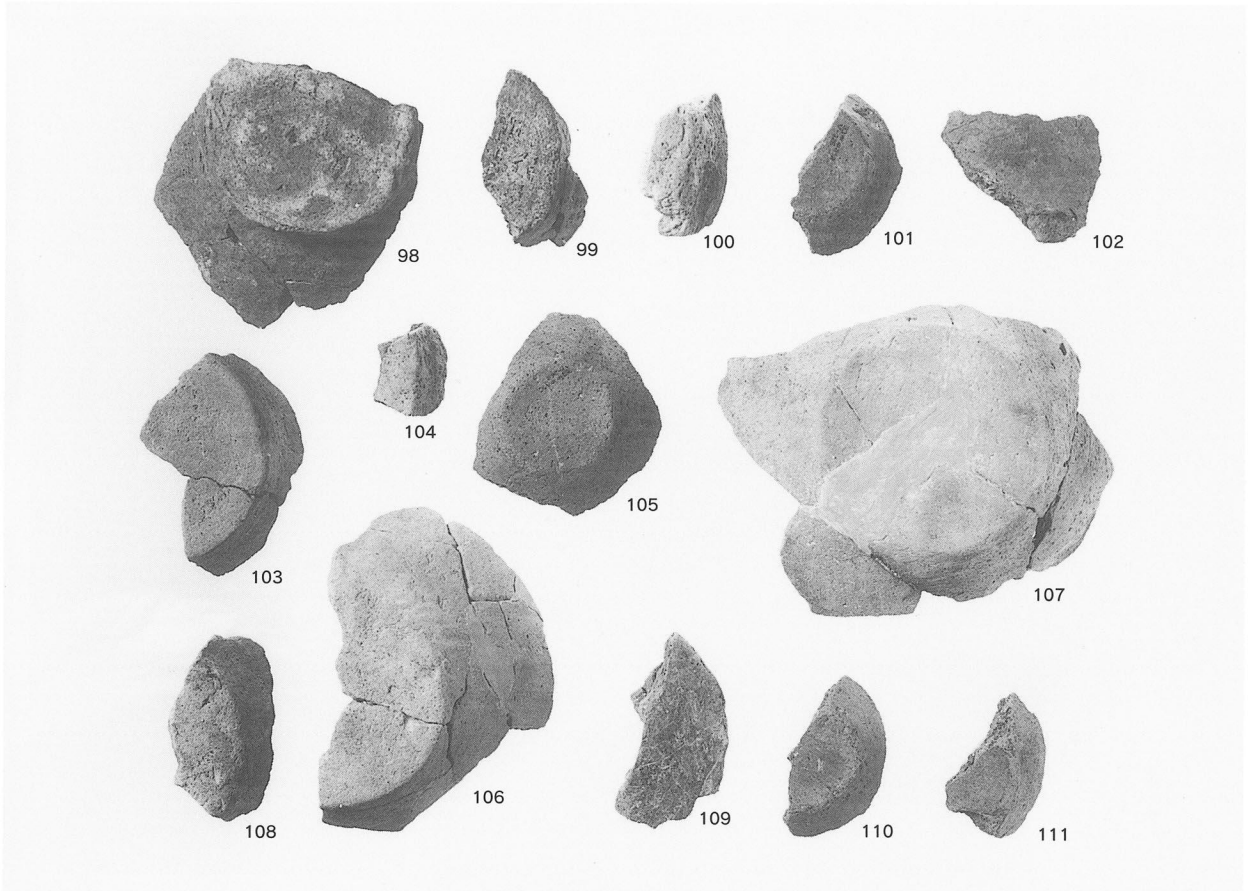
横市中原遺跡 縄文土器5 (Ⅶ類、組織痕土器)



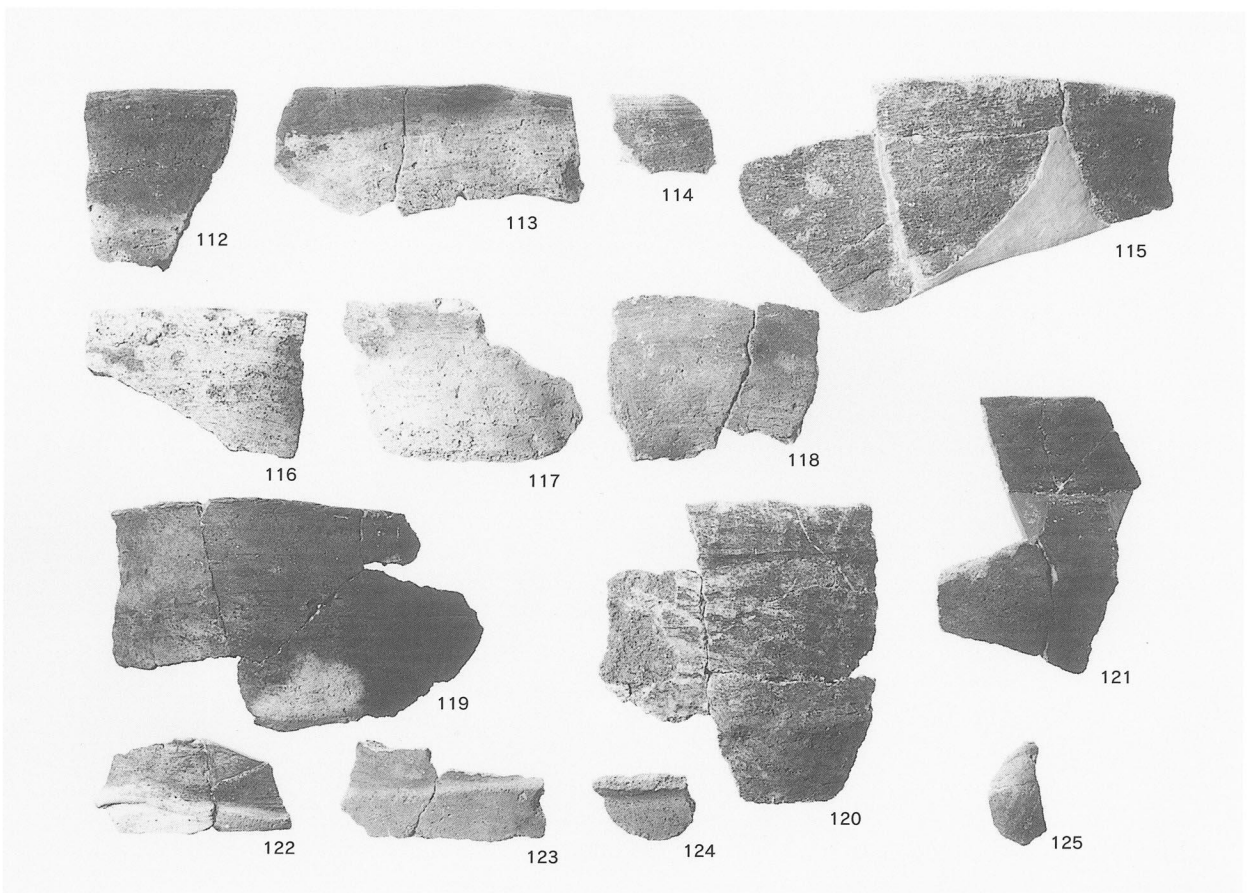
横市中原遺跡 縄文土器6 (Ⅷ類)



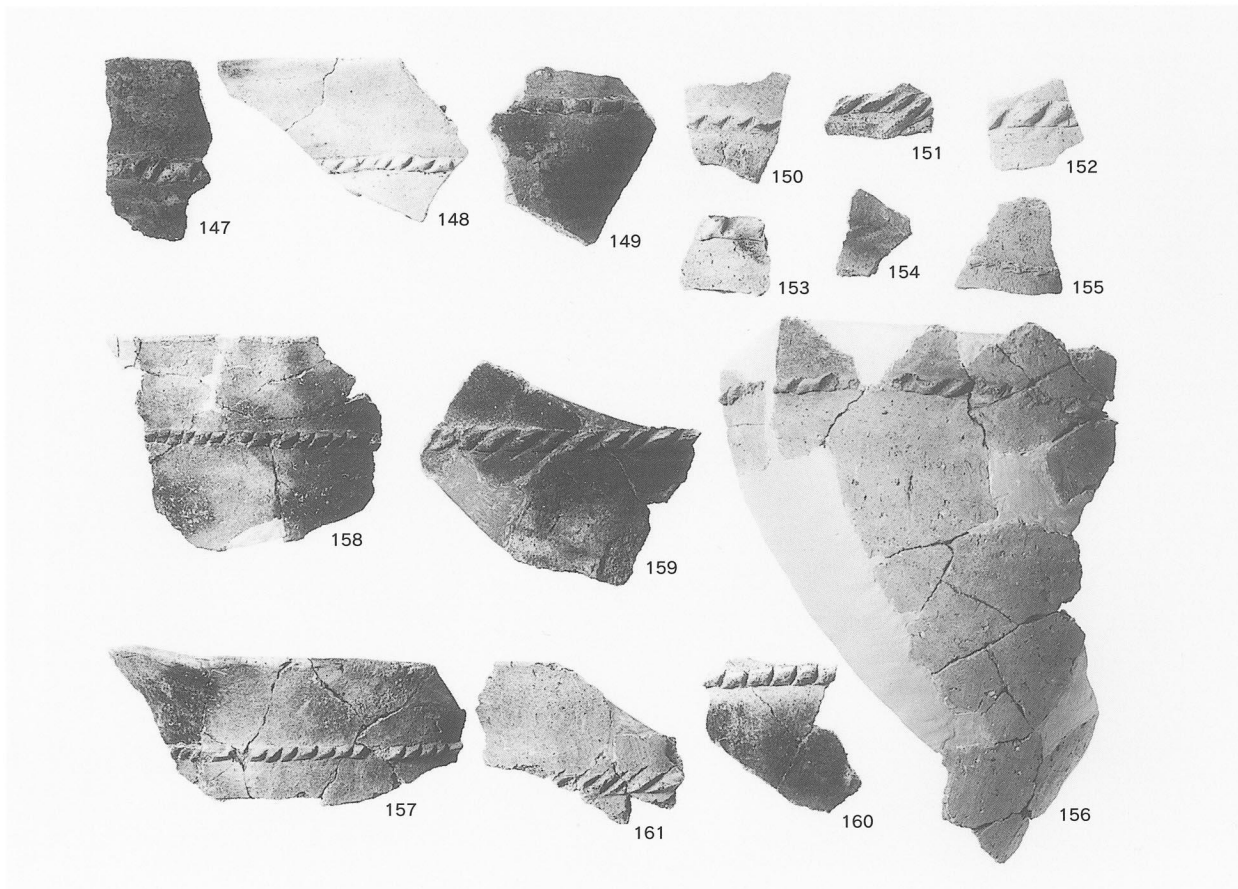
横市中原遺跡 縄文土器7 (Ⅸ類)



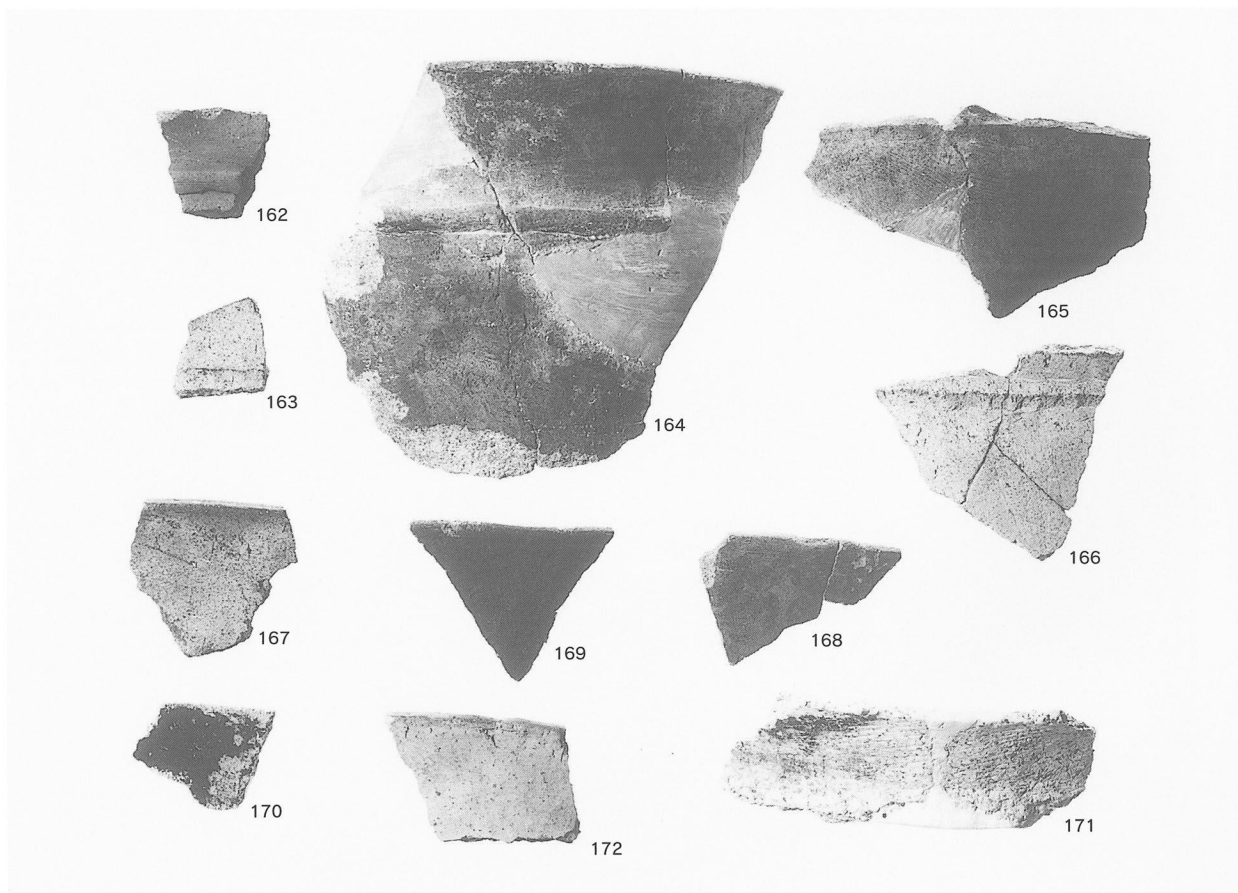
横市中原遺跡 縄文土器8 (X類)



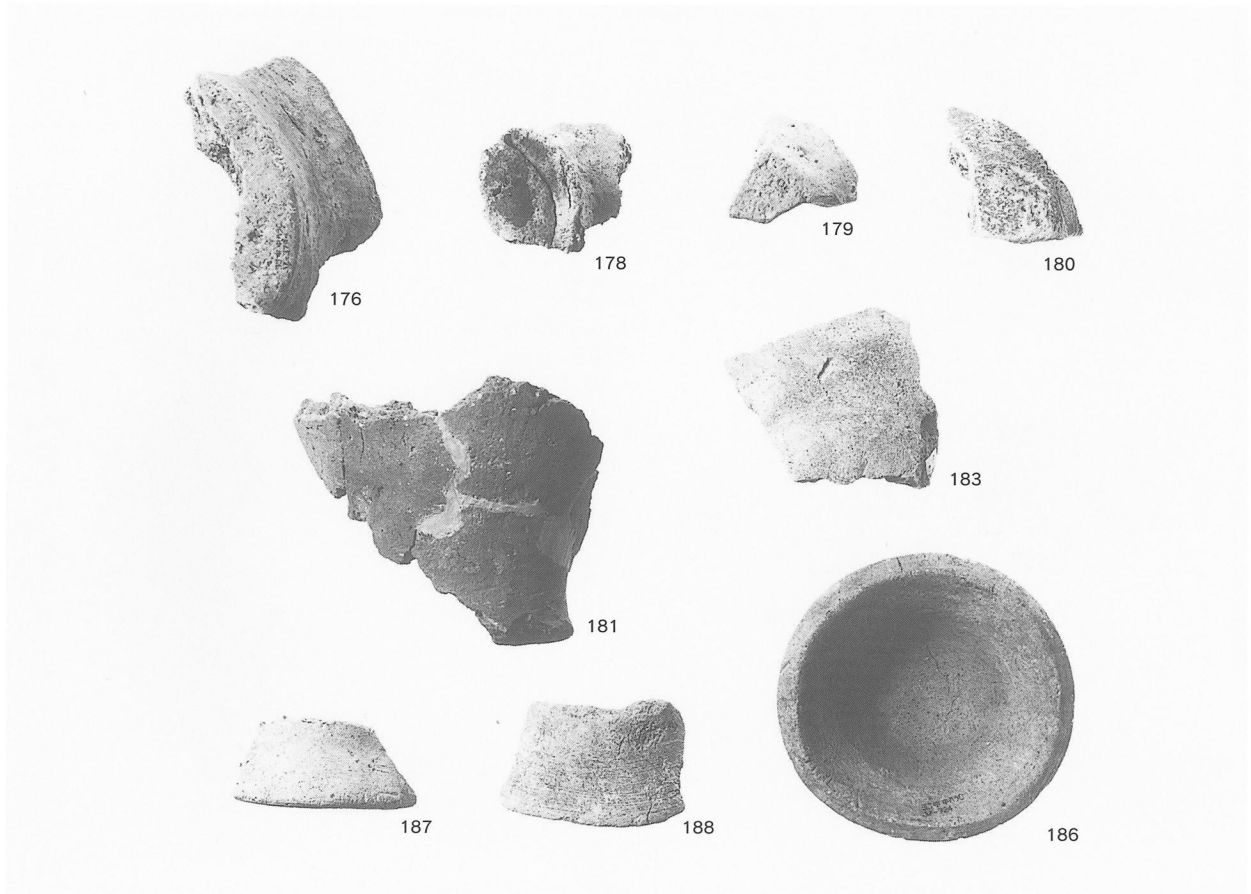
横市中原遺跡 縄文土器9 (XI類・XII類・XIII類)



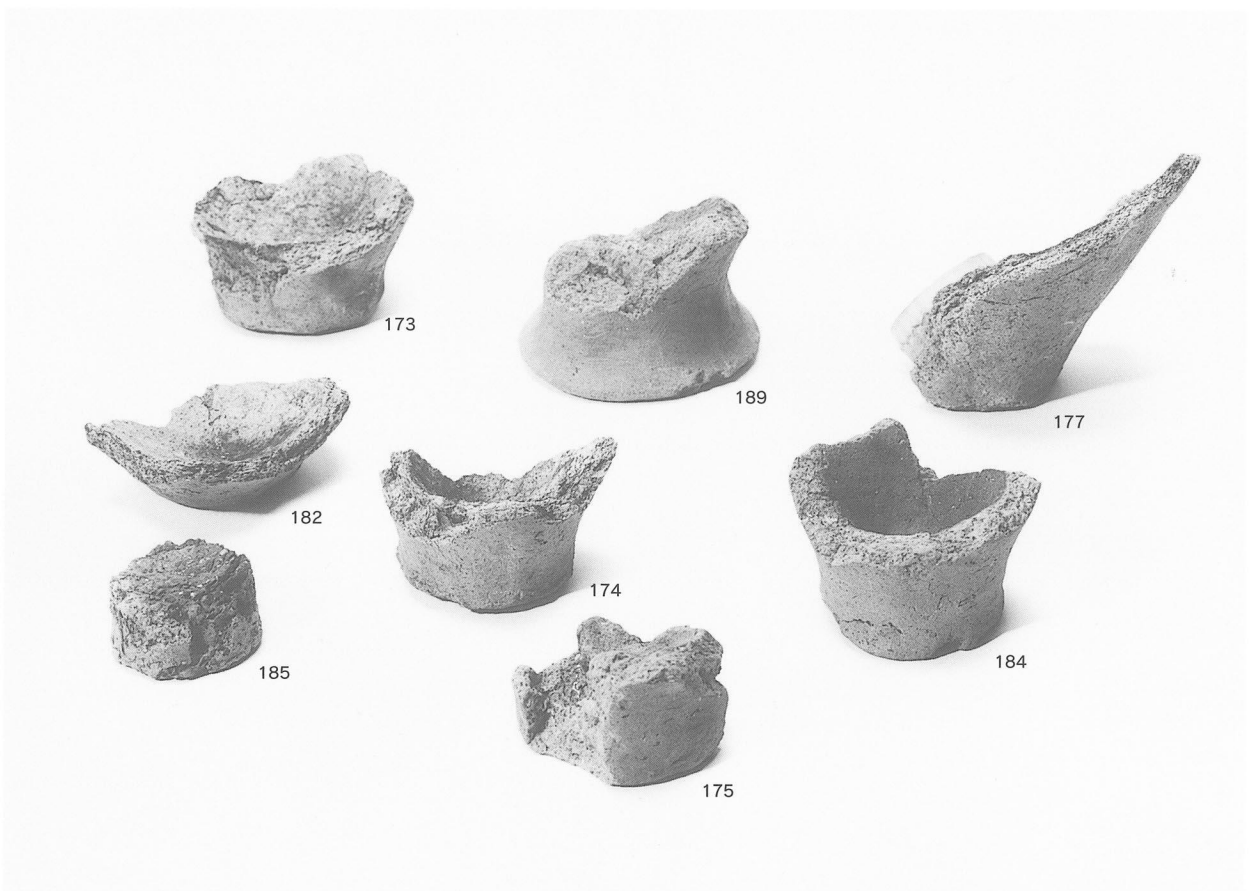
横市中原遺跡 土師器 1 (古墳時代、甕 I 類)



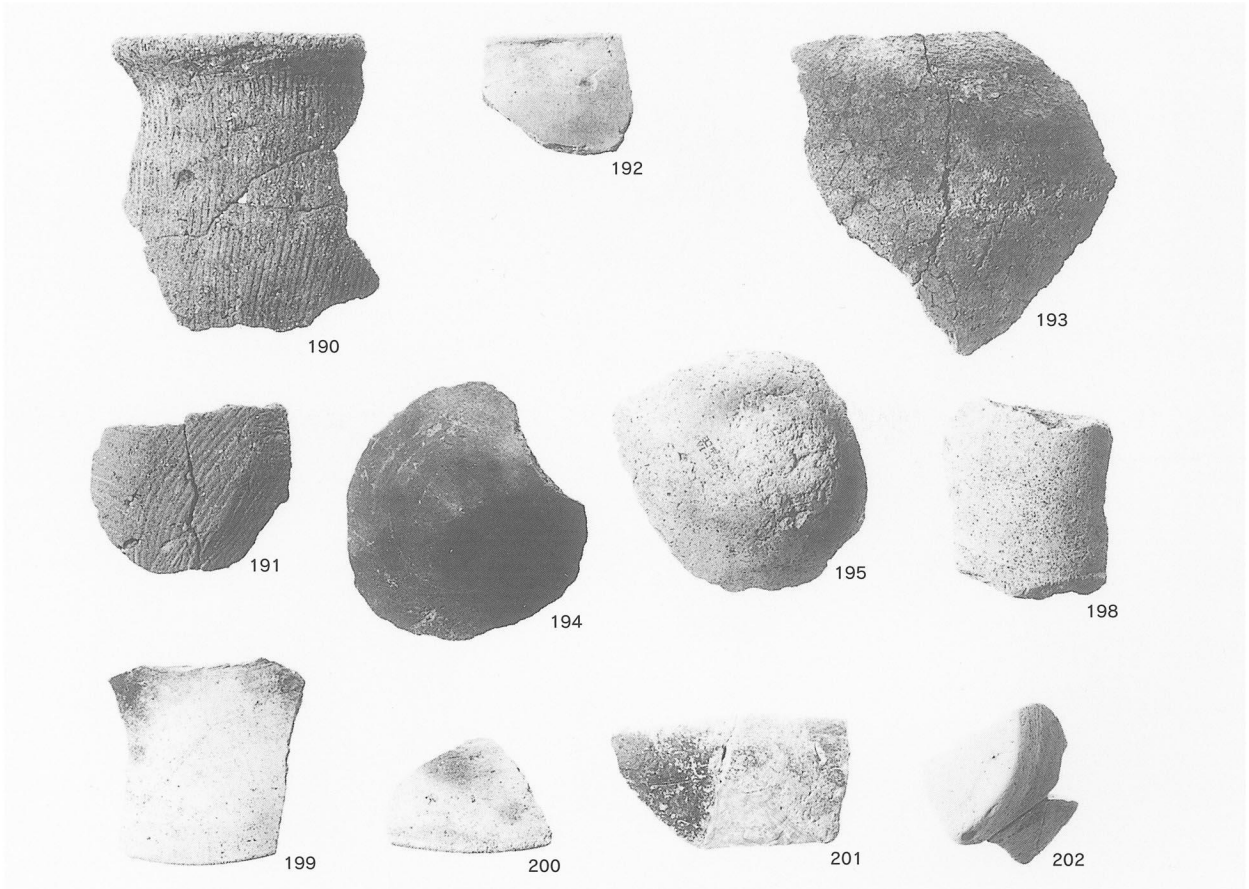
横市中原遺跡 土師器 2 (古墳時代、甕 II 類・III 類)



横市中原遺跡 土師器3 (古墳時代、甕Ⅳ類)



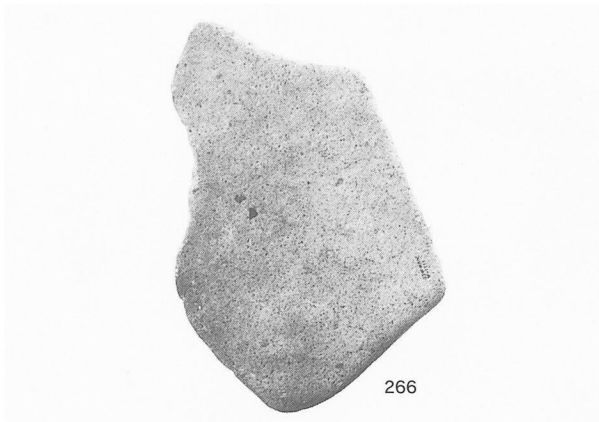
横市中原遺跡 土師器4 (古墳時代、甕Ⅳ類)



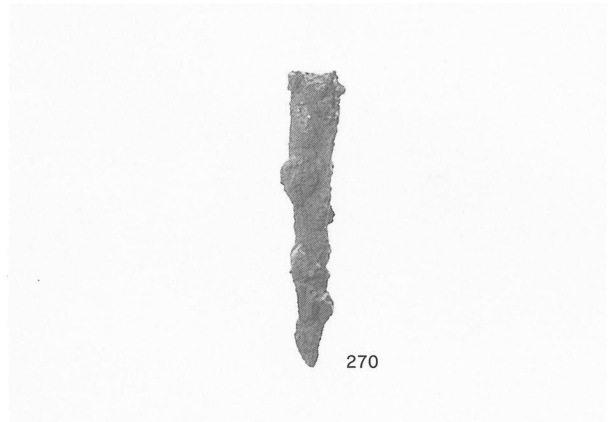
横市中原遺跡 土師器5 (古墳時代、小型甕・壺・高坏・鉢・坏)



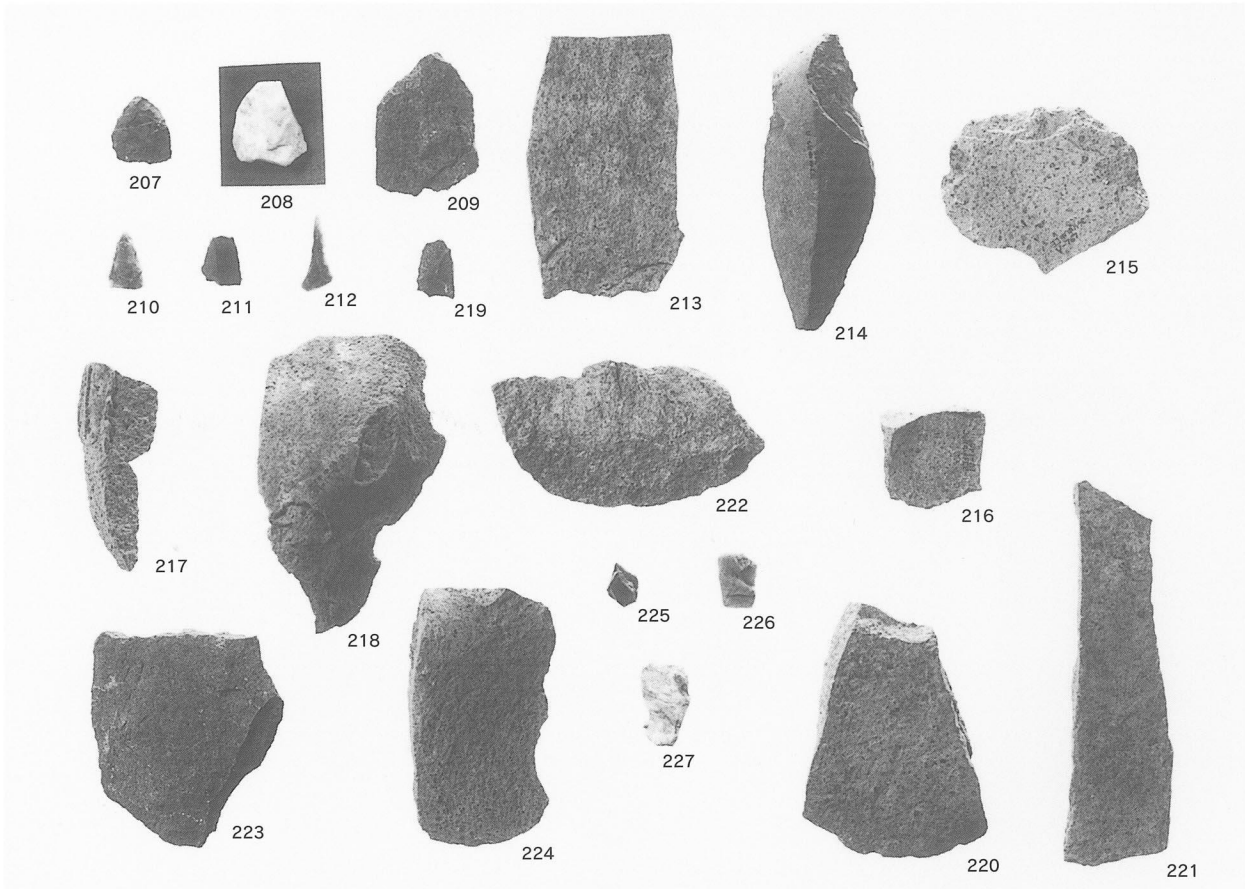
横市中原遺跡 土師器5 (古墳時代、高坏)



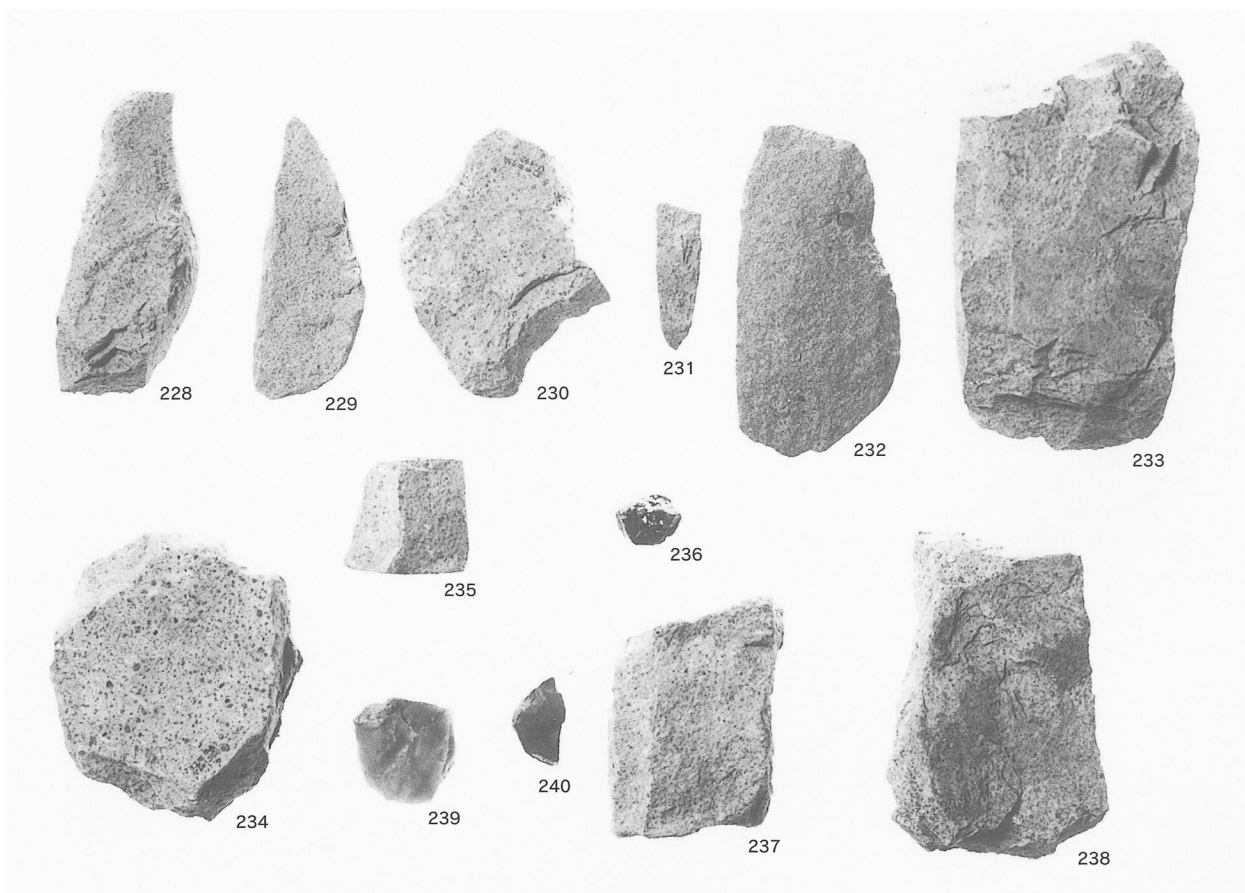
横市中原遺跡 C区出土遺物 (石皿)



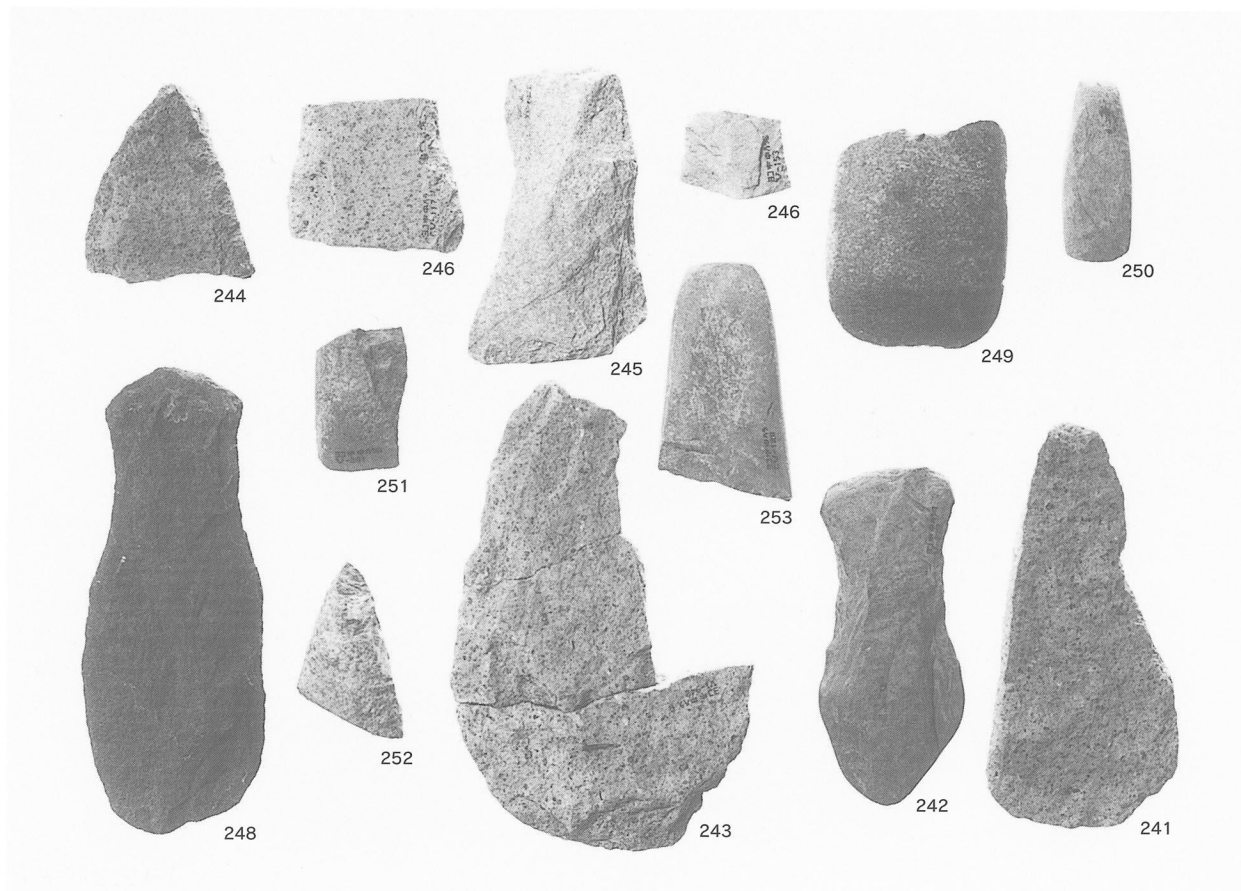
横市中原遺跡 A区出土鉄器 (鉄鍬)



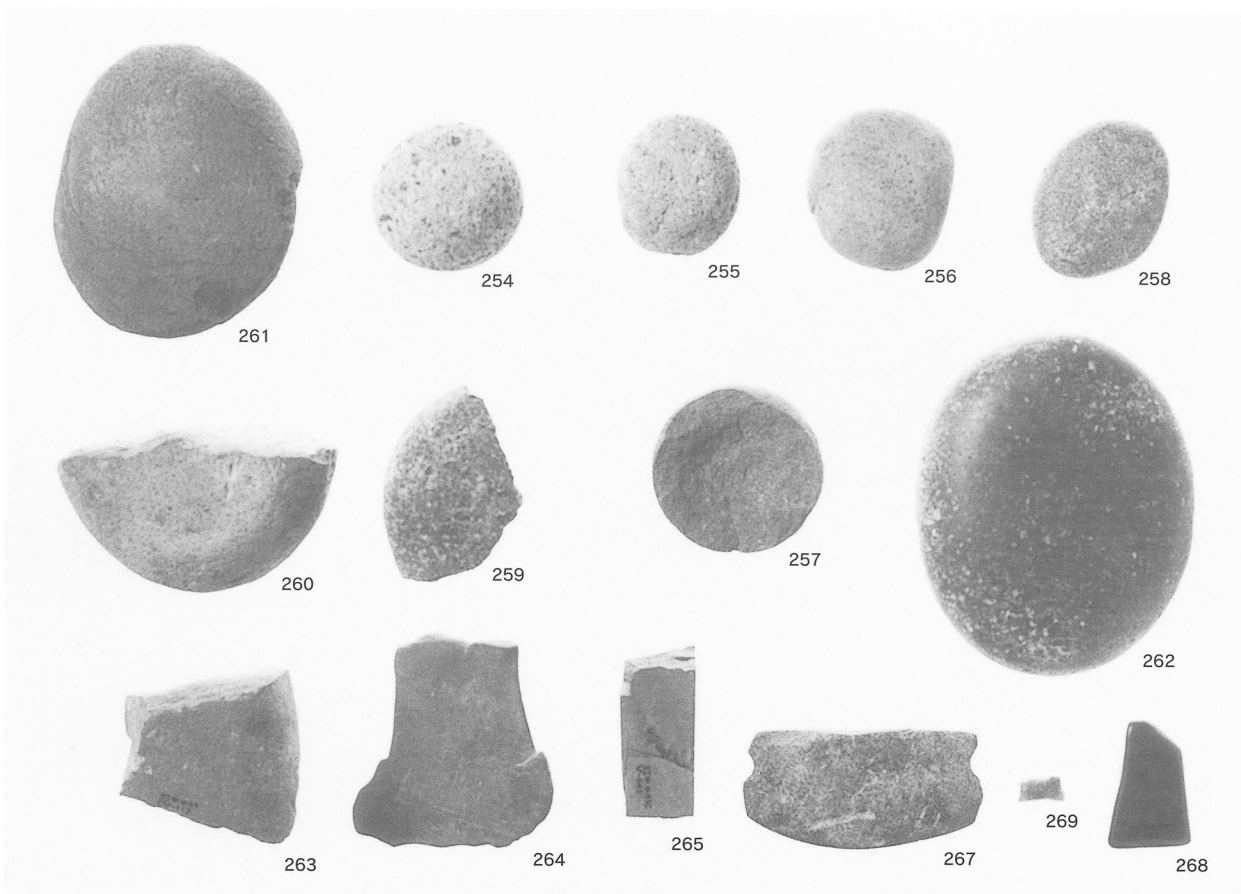
横市中原遺跡 出土石器 (石鏃、石錐、スクレイパー、剥片、二次加工剥片)



横市中原遺跡 出土石器 (二次加工剥片、使用痕剥片、石核)



横市中原遺跡 出土石器 (打製石斧、磨製石斧)



横市中原遺跡 出土石器 (磨石、砥石、石庖丁、擦痕ある石器、異形石器)

報 告 書 抄 録

ふりがな	うとだいさんいせき よこいちなかはらいせき					
書名	宇都第3遺跡 横市中原遺跡					
副書名	農用地総合整備事業「都城区域」農業用道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(5)					
シリーズ名	宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書					
シリーズ番号	第85集					
執筆・編集担当者名	福田泰典 久保春夫					
編集機関	宮崎県埋蔵文化財センター					
所在地	〒880-0212 宮崎郡佐土原町大字下那珂4019番地					
発行年月日	2004年2月25日					
所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
うとだいさんいせき 宇都第3遺跡	宮崎県北諸県郡三股町 大字宮村	31°42'13" 付近	131°06'46" 付近	2002. 1.21) 2002. 3.20	600㎡	農用地総合整備 事業「都城区域」 農業用道路建設
	コード					
	市町村 遺跡番号 45341					
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
集落跡	古代	道状遺構 溝状遺構 掘立柱建物跡 土坑	1条 3条 4棟 2基	土師器 (布痕土器・坏・皿・甕・高 台付碗・墨書土器) 須恵器 (坏・甕・壺) 土製品 (土錘・紡錘車)	布痕土器や高台 付碗、須恵器など の古代を中心にし た遺物が多量に出 土した。	
散布地	中世	溝状遺構	1条	陶磁器 (備前焼播鉢・天目茶碗・青磁)		
所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
よこいちなかはらいせき 横市中原遺跡	宮崎県都城市横市町 6423-1ほか	31°45'26" 付近	131°01'29" 付近	2002.11.13) 2002. 3.18	4500㎡	農用地総合整備 事業「都城区域」 農業用道路建設
	コード					
	市町村 遺跡番号 45202					
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
集落跡	縄文時代後晩期	竪穴住居跡 溝状遺構 土坑	3軒 1条 7基	縄文土器 (組織痕土器・刻目突帯文土 器・孔列文土器・黒色磨研 土器)	縄文時代後晩期 を中心にした土器 が出土した。組織 痕土器・孔列文土 器の存在は興味深 いものがある。	
	古墳時代	竪穴住居跡 土坑	2軒 3基	土師器 (甕・壺・高坏・鉢・坏)		
生産遺跡(畠跡)	中世	小溝状遺構	1条			

宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第85集

宇 都 第 3 遺 跡
横 市 中 原 遺 跡

農用地総合整備事業「都城区域」農業用道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(5)

平成16年2月

発行 宮崎県埋蔵文化財センター
〒880-0212 宮崎県宮崎郡佐土原町大字下那珂4019番地
TEL 0985-36-1171 FAX 0985-72-0660

印刷 北一 株式会社
〒880-0903 宮崎県宮崎市太田3丁目1-31
TEL 0985-51-5100 FAX 0985-53-5640
